

---

# 次世代育成支援行動計画

策定のためのアンケート調査報告書

---

平成 2 1 年 3 月

美 浜 町



---

# 目 次

---

I 調査概要 .....	1
I -1 調査の目的 .....	1
I -2 調査の対象と方法 .....	1
I -3 配布・回収状況 .....	1
II 就学前児童保護者 .....	2
II -1 回答者の状況 .....	2
II -2 保護者の仕事について .....	7
II -3 平日の保育状況と希望について .....	13
II -4 一時預かり・放課後児童クラブについて .....	22
II -5 母親の妊娠中・出産後の状況について .....	27
II -6 子育て支援サービスについて .....	32
II -7 日頃の子育てなどについて .....	35
III 小学生児童保護者 .....	49
III -1 回答者の状況 .....	49
III -2 保護者の仕事について .....	54
III -3 放課後の過ごし方について .....	60
III -4 一時預かりについて .....	66
III -5 宛名の小学生の日常生活について .....	72
III -6 日頃の子育てなどについて .....	77



# 調 査 概 要

## -1 調査の目的

美浜町においては、子育て支援を町の重要課題と位置付け、国の「次世代育成支援対策推進法」等をふまえ、平成 17 年度からは『美浜町次世代育成支援行動計画』に基づき、子育て支援や児童の健全育成のための施策を実施してきた。

『美浜町次世代育成支援地域行動計画』の前期計画期間は平成 21 年度までとなっており、平成 22 年度からの子育て支援等、町施策の根幹となる後期計画を策定する。

このため、町内の子どもたちの状況や子育て家庭の実態・ご要望などを把握し、後期計画策定にあたり、子育て家庭のニーズを把握、施策への反映を図るため、本調査を実施する。

## -2 調査の対象と方法

### (1) 調査対象

調査種類	対 象
①就学前児童保護者	平成 20 年 11 月末現在、就学前児童の保護者全員
②小学生児童保護者	平成 20 年 11 月末現在、小学生児童の保護者全員

### (2) 調査方法・期間

就学前児童保護者、小学生児童保護者ともに郵送にて配布・回収。  
調査は平成 20 年 12 月に実施。

## -3 配布・回収状況

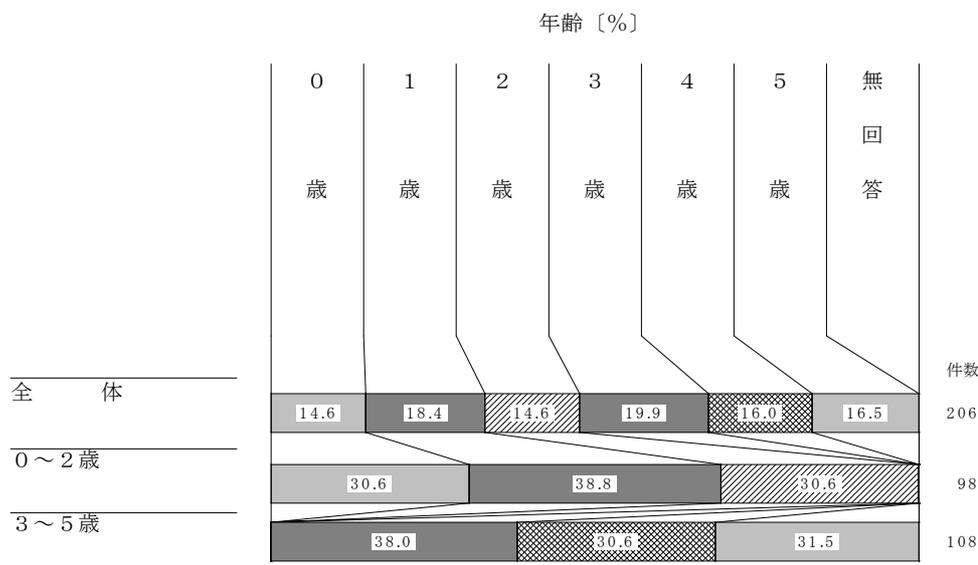
対 象	配布数 (件)	回収数 (件)	回収率 (%)
就学前児童の保護者	358	206	57.5
小学生児童の保護者	464	262	56.5
全 体	822	468	56.9

# 就学前児童保護者

## -1 回答者の状況

### (1) 年齢・性別

【年齢】年齢はほぼ均等に分布しているが、「3歳」が20%とやや多く、3～5歳を合計すると53%となり、0～2歳を若干上回っている。平均年齢は「2.5歳」となっている。



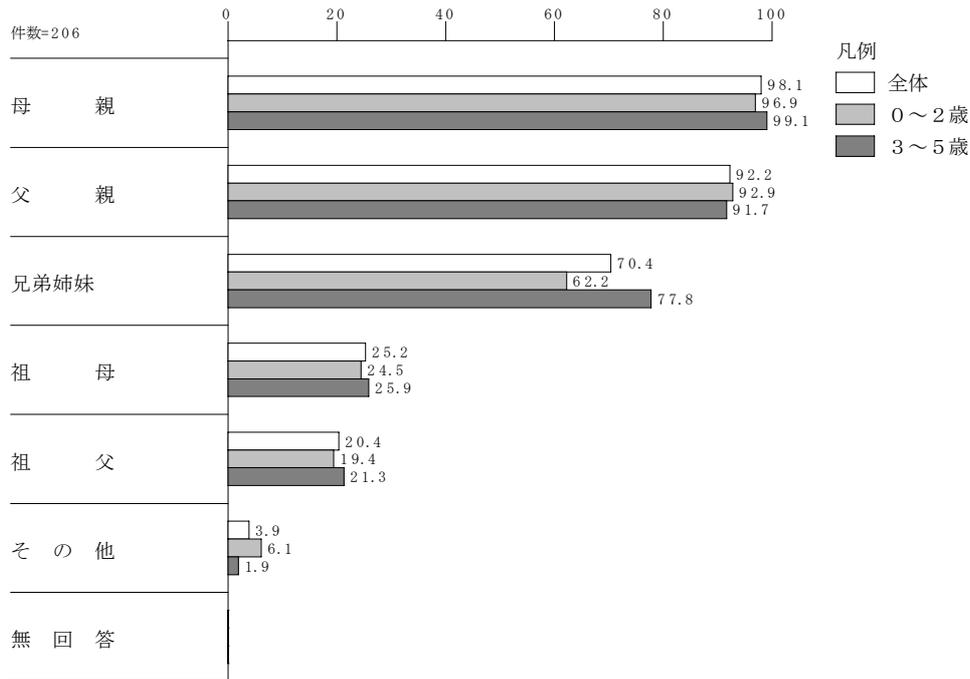
※ 地区別にみると、田井地区は「3歳」が3割を占め、3～5歳を合計すると、6割を占める。

※ 保育先別にみると、保育サービス未利用者は全員2歳以下となっている。また、こじか保育園に通園している回答者は件数が少なく、ほとんどが2歳以下で、平均年齢は「1.3歳」となっている。一方、ひまわりこども園に通園している回答者は3歳以上が8割近くを占め、平均年齢は「3.4歳」となっている。

### (2) 世帯状況

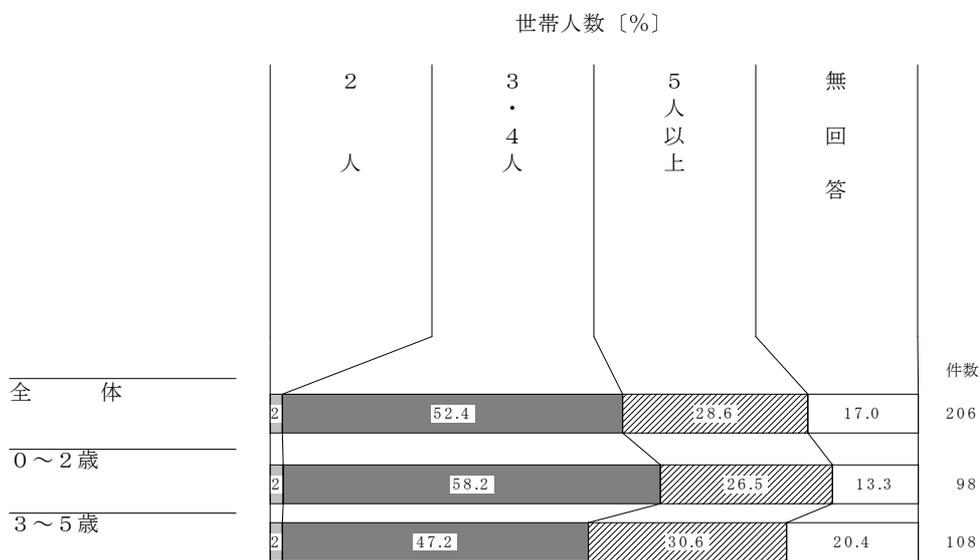
【同居家族】「母親」が最も多く、全体で98%とほぼ全員が回答している。次いで「父親」が92%、「兄弟姉妹」が70%に上るが、年齢による差異がみられ、3～5歳は78%に上るが、0～2歳は62%となっている。祖父母との同居は2割台となっている。

同居家族 [%・複数回答]



- ※ 年齢別にみると、「兄弟姉妹」は0歳が少なく、5割を割っている。
- ※ 同居世帯では「祖母」との同居が9割台に上り、「祖父」が7割台となっている。また、同居世帯は「兄弟姉妹」が8割台に上り、親と子の世帯よりも2割近く度高い。
- ※ 地区別にみると、田井地区は、「兄弟姉妹」との同居が6割を割っているものの、祖父母との同居率が高く、全体よりも1～2割程度高い。
- ※ 育児支援別にみると、預かってくれる人がいない回答者は、いる回答者よりも「兄弟姉妹」、「祖母」、「祖父」が1～2割低い。
- ※ 保育先別にみると、こじか保育園に通園している回答者は、件数は少ないものの「祖母」が6割近い。

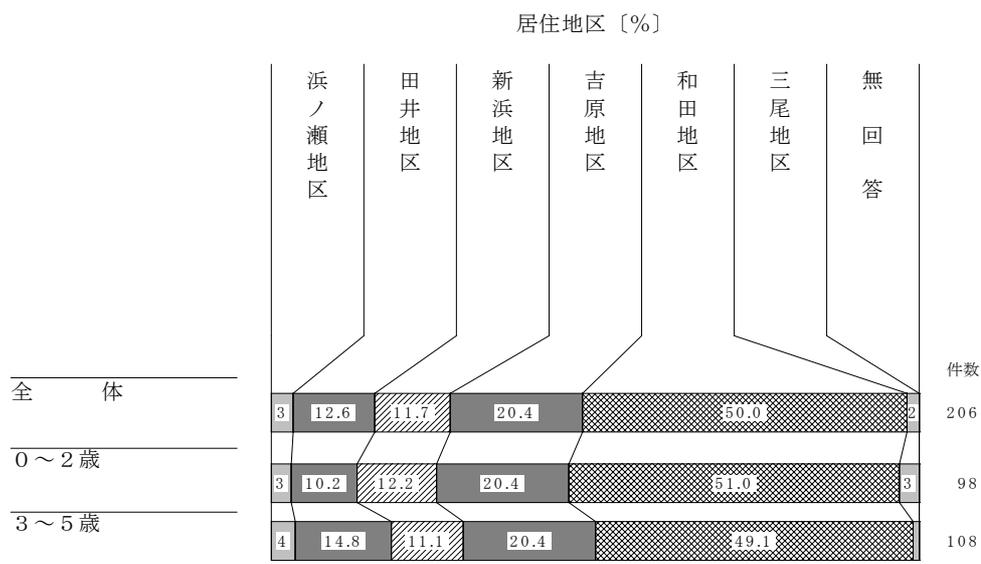
【世帯人数】「3・4人」が最も多いが、特に0～2歳の割合が高く、3～5歳の47%に対して、3～5歳は58%と1割程度高い。全体では、平均世帯人数は「4.4人」となっている。



- ※ 年齢別にみると、0歳は「3・4人」が6割台と特に高くなっている
- ※ 世帯別にみると、同居世帯は8割が「5人以上」と回答しており、平均年齢は「5.9人」となる。
- ※ 育児支援別にみると、預かってくれる人がいない回答者は、いる回答者よりも世帯人数が少なく、「3・4人」が6割台を占めている。
- ※ 地区別にみると、吉原地区は「3・4人」が6割台を占めている。また、三尾地区は件数が僅かで、全員が「3・4人」と回答している。

### (3) 居住地区

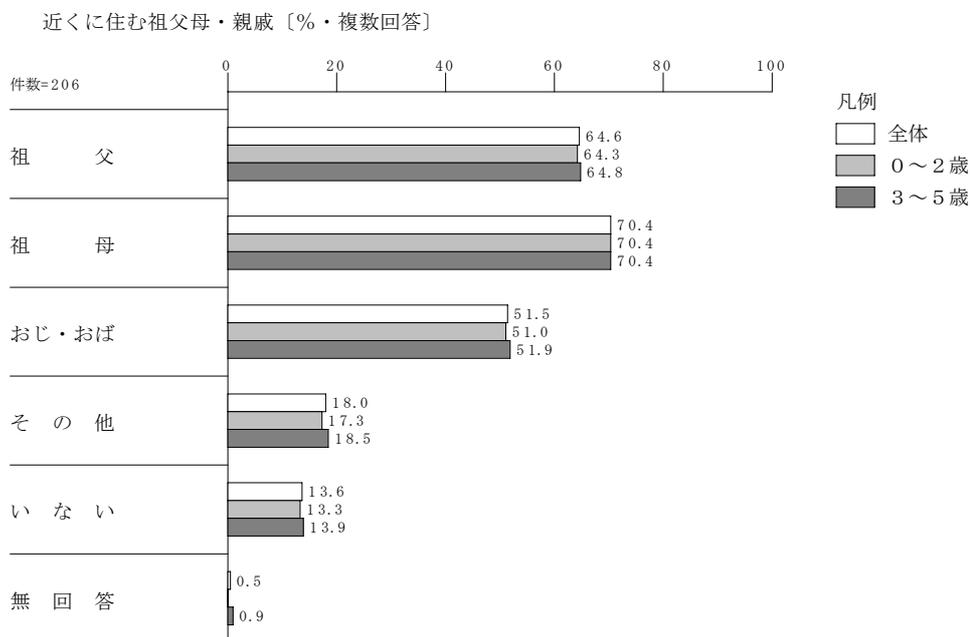
【居住地区】「和田地区」が最も多く、全体では50%を占めている。次いで、「吉原地区」が20%、「田井地区」が13%、「新浜地区」が12%、「浜ノ瀬地区」が3%となっている。



- ※ 世帯別にみると、親と子の世帯は、「和田地区」が5割台と過半数を占め、同居世帯よりも1割以上高い。一方、同居世帯は比較的回答が分散している。
- ※ 育児支援別にみると、預かってくれる人がいない回答者は、「和田地区」の割合が特に高く、7割台を占める。
- ※ 保育先別にみると、こじが保育園に通園している回答者の件数は僅かであるものの、「新浜地区」が3割台を占める。

#### (4) 近隣の親族

【概ね30分以内程度で行き来できる範囲に、祖父母や親戚などがいますか】「祖母」が最も多く、全体では70%となり、次いで「祖父」が65%、「おじ・おば」が52%となっている。

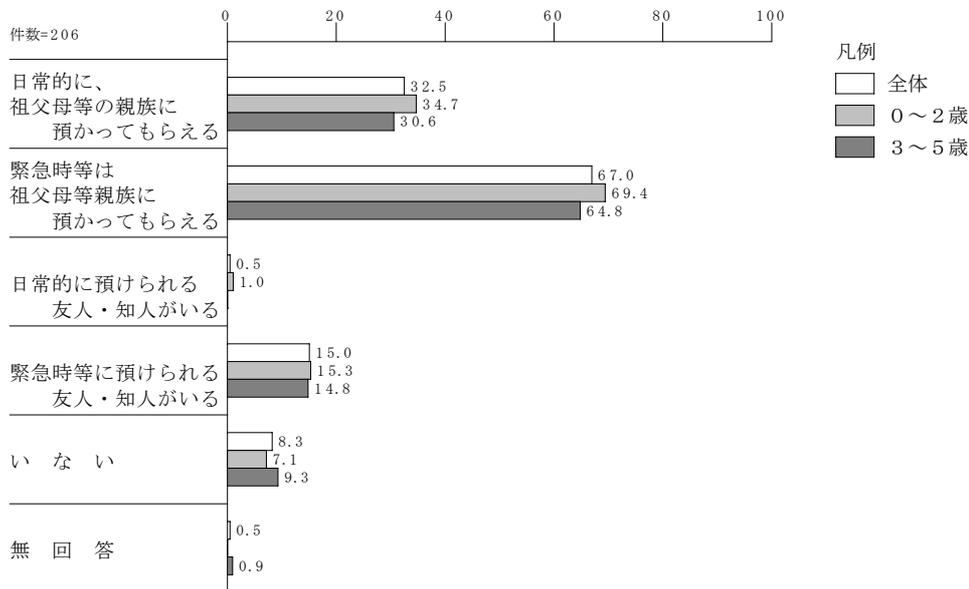


- ※ 年齢別にみると、1歳は、「祖母」の割合が特に高く、8割台となっている。
- ※ 世帯別にみると、親と子の世帯は祖父母が7割台に上り、同居世帯よりも3割程度高い。一方、同居世帯は、「おじ・おば」が6割台となり、親と子の世帯よりも2割程度高い。
- ※ 育児支援別にみると、預かってくれる人がいない回答者は、近くに祖父母・親戚もなく、「いない」が4割を占めている。
- ※ 地区別にみると、浜ノ瀬地区は全員が祖父母と同居しており、近くに親族のいる割合も高い。

## (5) 子どもを預けられる人

【日ごろ子どもを預かってくれる人の有無】「緊急時等は祖父母等親族に預かってもらえる」が最も多く、全体では67%となり、次いで「日常的に、祖父母等の親族に預かってもらえる」が33%となっている。また、「いない」という回答者は8%となっている。

日頃子どもを預かってくれる人 [%・複数回答]



- ※ 年齢別にみると、1歳は「日常的に祖父母等に預かってもらえる」が5割近くを占める。
- ※ 世帯別にみると、同居世帯は「日常的に祖父母等親族に預かってもらえる」が4割台で親と子の世帯よりも1割以上高い。一方、親と子の世帯は、「緊急時等は祖父母等親族に預かってもらえる」が7割台に上る。
- ※ 保育先別にみると、保育サービスを利用していない回答者は、「日常的に、祖父母等親戚に預かってもらえる」が4割台となり、全体よりも1割以上高い。

## -2 保護者の仕事について

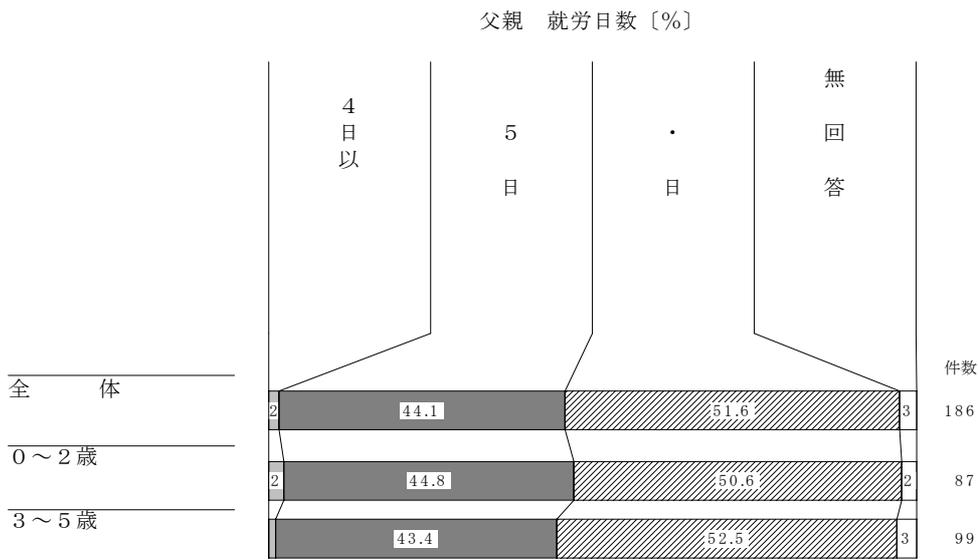
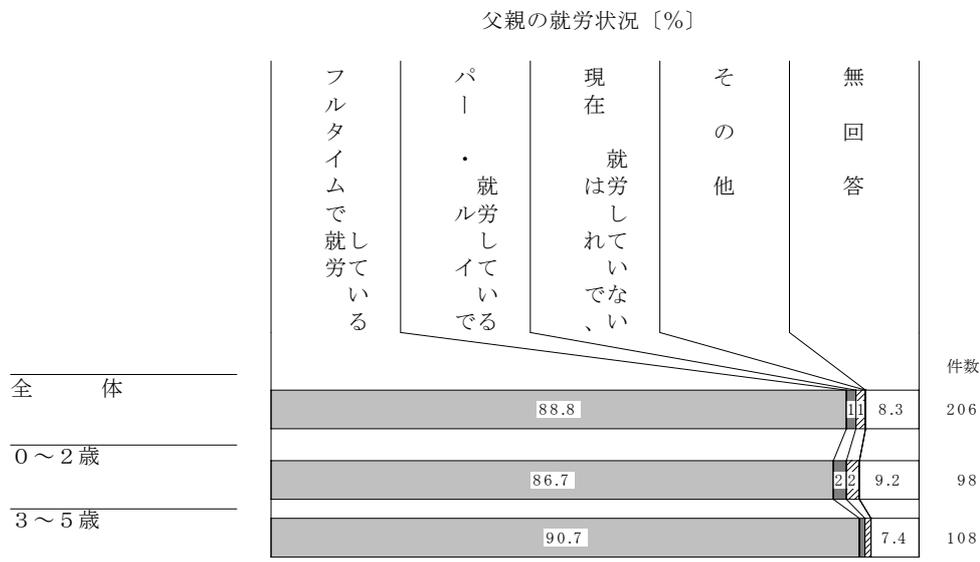
### (1) 父親の就労状況

【父親の就労状況】大多数が「フルタイムで就労している」と回答しており、全体では89%となっている。

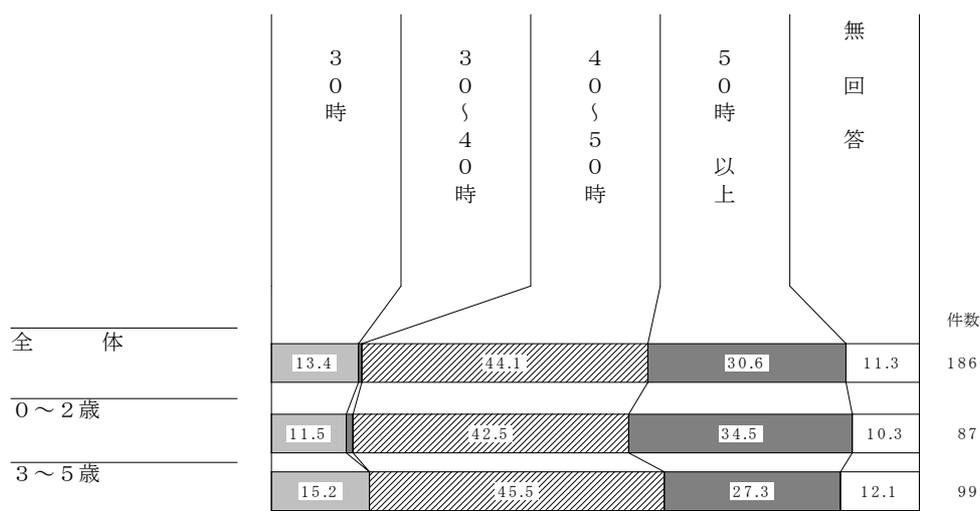
【〔就労している回答者を対象〕父親の就労日数（週当たり）〕「週6・7日」が比較的多く、全体では52%を占め、「週5日」が44%となっている。就労平均日数は「週5.5日」となっている。

【父親の就労時間（週当たり）〕「週40～50時間」が最も多く、全体では44%を占め、次いで「週50時間以上」が31%を占める。なお、平均就労時間は、「週45.6時間」となっている。

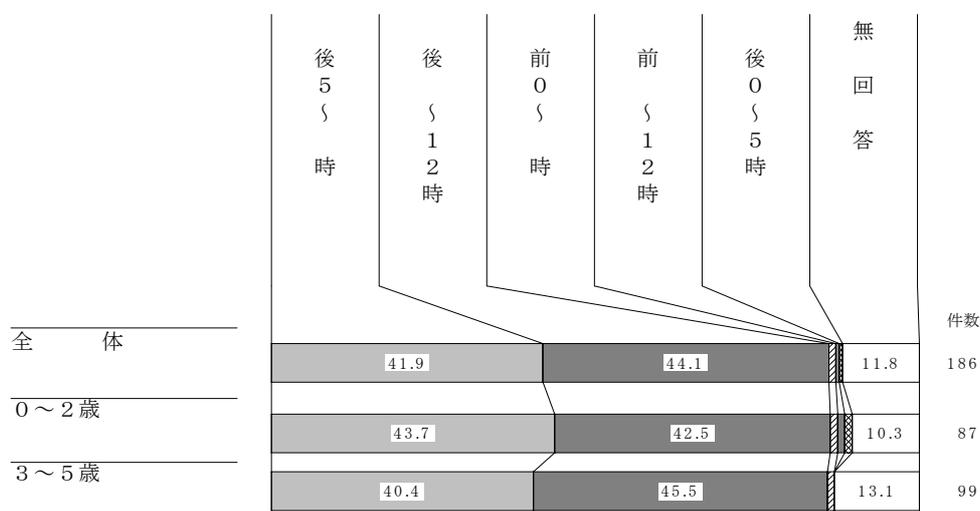
【父親の平均的な帰宅時間】「午後9～12時」が比較的多く、全体では44%を占め、「午後5～9時」が42%となっている。



父親 平 就労時 [%]



父親 平 的 な 時 [%]



- ※ 年齢別にみると、1歳は、就労日数が「週5日」が6割近くを占めている。また、平均的な帰宅時間は、0歳は比較的早い時間が多く、「午後5～9時」が過半数を占めている。
- ※ 世帯別にみると、同居世帯は就労時間が比較的短く、「週30時間未満」が2割台を占め、親と子の世帯よりも1割以上高い。また、平均的な帰宅時間は比較的是早い時間が多く、「午後5～9時」が6割近くを占めている。
- ※ 地区別にみると、新浜地区は、就労日数が多く、「週6・7日」が6割台と過半数を占め、就労時間も「週50時間以上」が4割台を占めている。
- ※ 保育先別にみると、保育サービスを利用していない回答者は、就労日数は「週5日」が5割台と過半数を占めている。就労時間は長時間が多く、「週50時間以上」が4割台となっている。また、こじか保育園に通園している回答者は件数が少なく、平均的な帰宅時間は早い時間が多く、「午後5～9時」が8割近くを占めている。
- ※ 保護者の就労状況別にみると、共働き世帯は「週6・7日」が6割を占めるが、片働き世帯は「週5日」が過半数を占めている。

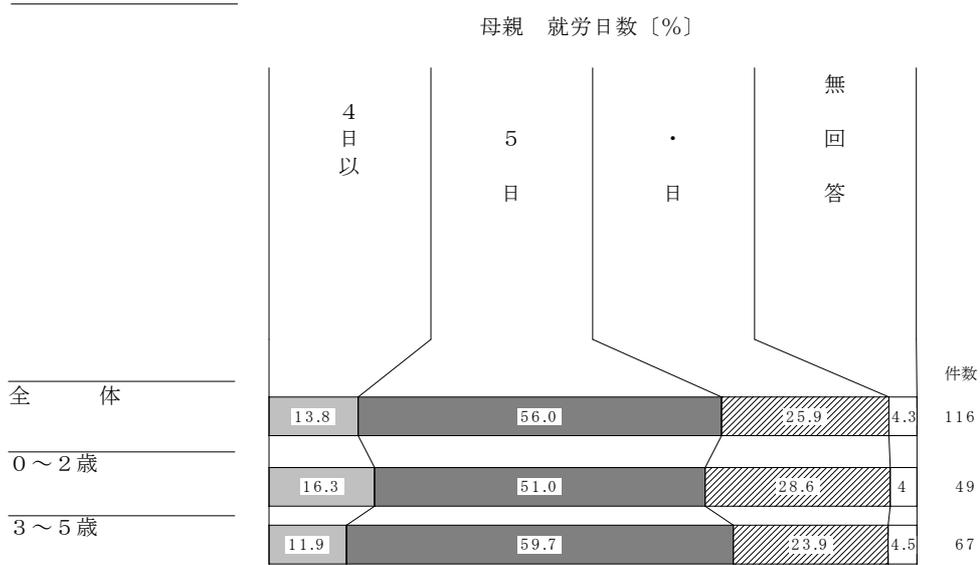
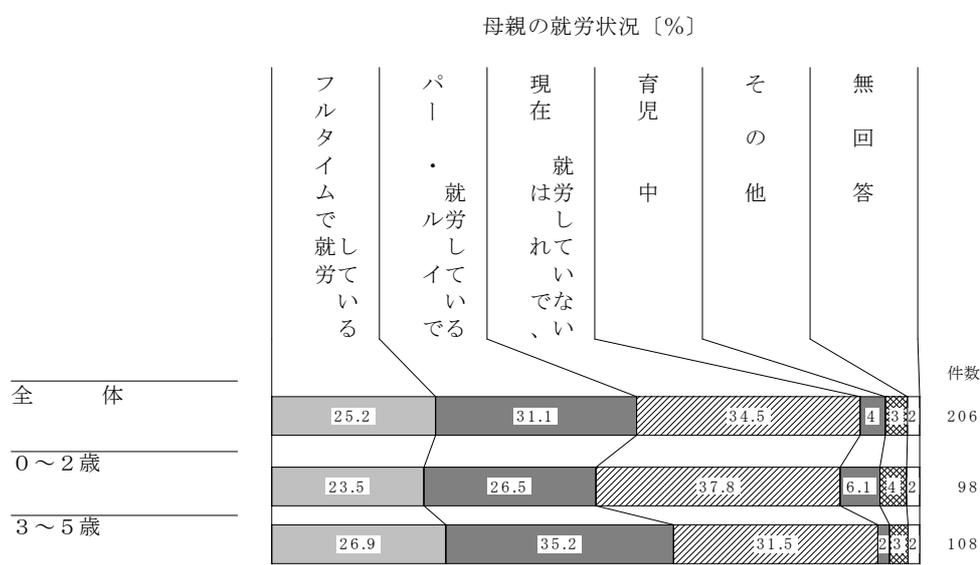
## (2) 母親の就労状況

【母親の就労状況】0～2歳は、「現在またはこれまで、就労していない」が38%と最も多く、次いで、「パート・アルバイトで就労している」が27%、「フルタイムで就労している」が24%となっている。3～5歳は、「パート・アルバイトで就労している」が35%と最も多く、次いで「現在またはこれまで、就労していない」が32%、「フルタイムで就労している」が27%となっている。

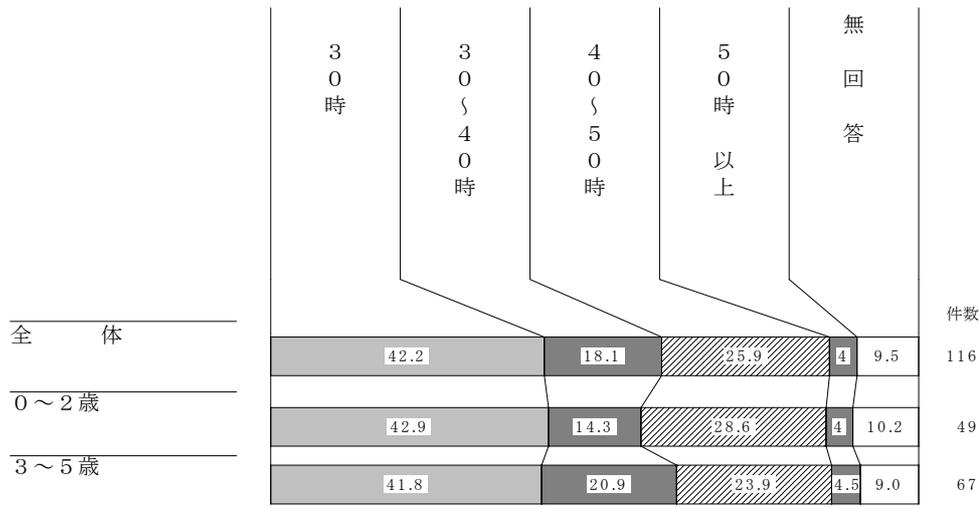
【〔就労している回答者を対象〕母親の就労日数（週当たり）〕「週5日」が多く、全体では56%を占め、次いで「週6・7日」が26%となっている。平均就労日数は「週5.1日」となっている。

【母親の就労時間（週当たり）〕「週30時間未満」が最も多く、全体では42%を占め、次いで「週40～50時間」が26%、「週30～40時間」が18%となっている。平均就労時間は「週28.4時間」となっている。

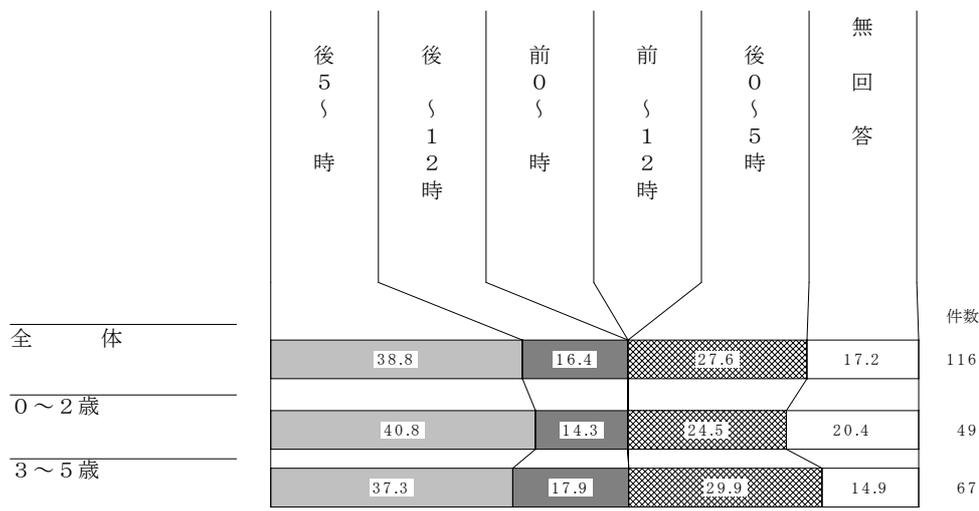
【母親の平均的な帰宅時間】「午後5～9時」が最も多く、全体では39%となり、次いで「午後0～5時」が28%、「午後9時～12時」が16%となっている。



母親 平 就労時 [%]

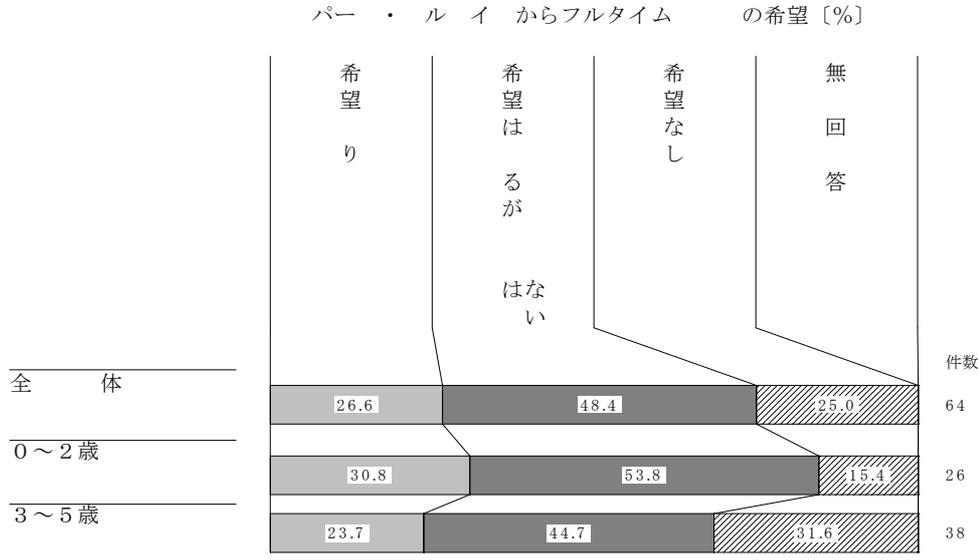


母親 平 的な 時 [%]



- ※ 世帯別にみると、親と子の世帯は、「現在またはこれまで、就労していない」が4割近くとなり、同居世帯よりも1割程度高い。
- ※ 育児支援別にみると、預かってくれる人がいない回答者は、「パート・アルバイトで就労している」が4割台に上り、預かってくれる人がいる回答者よりも1割強高くなっている。
- ※ 保護者の就労状況別にみると、共働き世帯は、「フルタイムで就労している」が4割台、「パート・アルバイトで就労している」が6割近くとなっている。
- ※ 地区別にみると、田井地区は「パート・アルバイトで就労している」が4割台を占めており、就労時間は、「週30時間未満」が6割を占めている。新浜地区は、帰宅時間は「午後5～9時」が過半数を占めている。
- ※ 保育先別にみると、低年齢児の多い保育サービスを利用していない回答者は、「現在またはこれまで、就労していない」が6割台を占めており、就労時間は、「週30時間未満」が6割台を占めている。こじか保育園に通園している回答者は件数が少なく、「午後5～9時」が6割台を占めている。

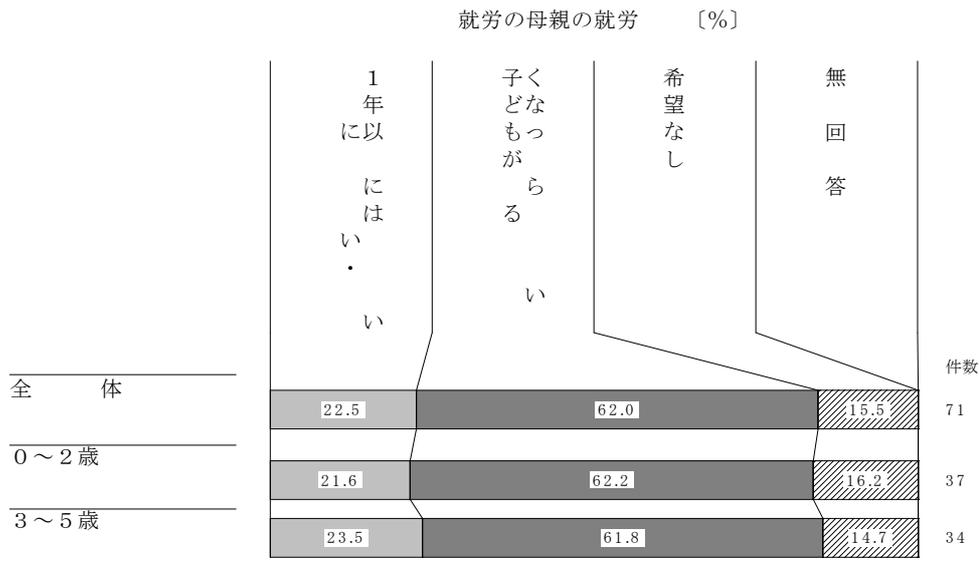
【〔パート・アルバイトの回答者を対象〕フルタイムの働き方にしたいと思っていますか】「希望はあるが予定はない」が最も多いが、0～2歳の希望の割合が54%と高く、3～5歳よりも1割程度高い。「希望あり」も0～2歳は31%を占め、3～5歳よりも1割近く高く、フルタイムでの就労意欲の高さがうかがえる。一方、3～5歳は「希望なし」が32%に上り、「希望あり」は24%にとどまっている。



※ 世帯別にみると、同居世帯は、「希望はあるが予定はない」が7割近くを占めている。

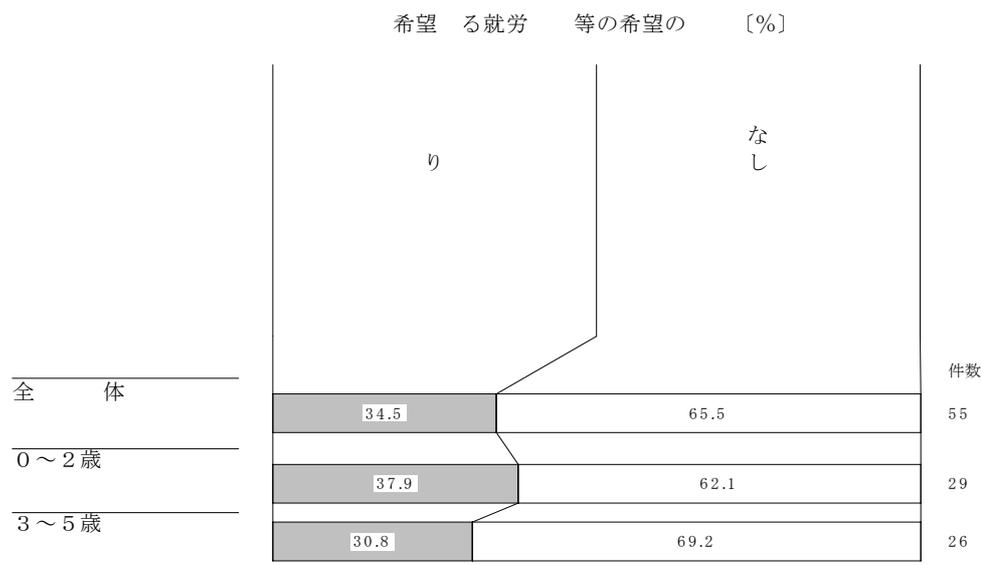
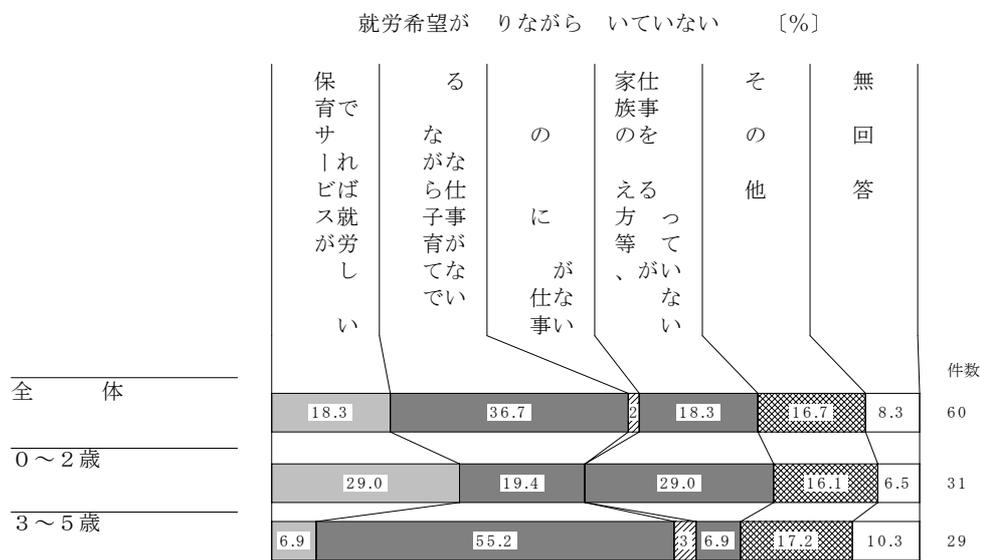
※ 保育先別にみると、保育サービスを利用していない回答者は、「希望はあるが予定はない」が7割を占めている。

【〔現在または、これまで就労していない回答者を対象〕今後、働きたいと思いますか】「子どもがある程度大きくなったら働きたい」が多く、全体では62%を占め、「すぐに働きたい・1年以内には働きたい」は23%、「希望なし」は16%となっている。



【〔就労意向のある回答者のみ〕現在働いていない理由】0～2歳は、「保育サービスが利用できれば就労したい」及び「家族の考え方等、仕事をする環境が整っていない」が29%と多い。3～5歳は「働きながら子育てできる適当な仕事がない」が55%と過半数を占めている。

【希望する就労形態等の希望】35%が回答している。



※ 保育先別にみると、ひまわりこども園に通園している回答者は、「働きながら子育てできる適当な仕事がない」が6割近くを占めている。保育サービスを利用していない回答者は、「保育サービスが利用できれば就労したい」及び「家族の考え方等、仕事をする環境が整っていない」が3割台を占めている。

### -3 平日の保育状況と希望について

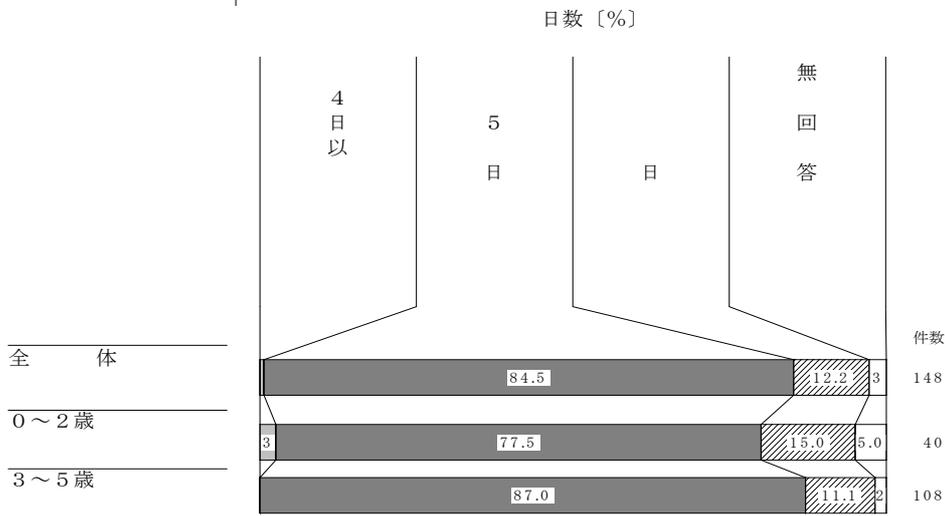
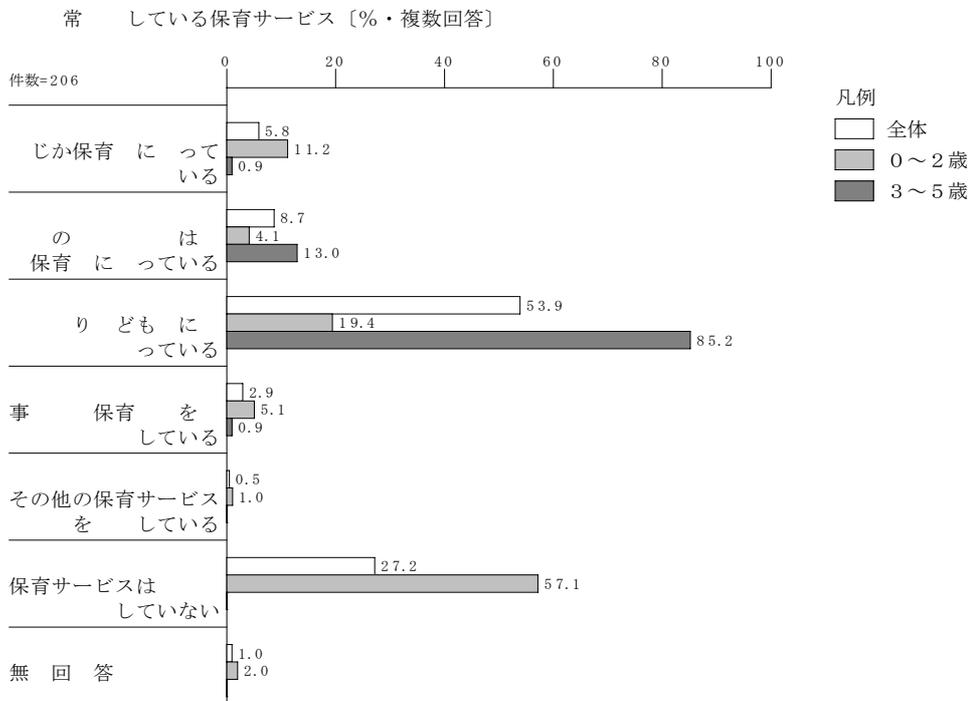
#### (1) 現在の保育状況

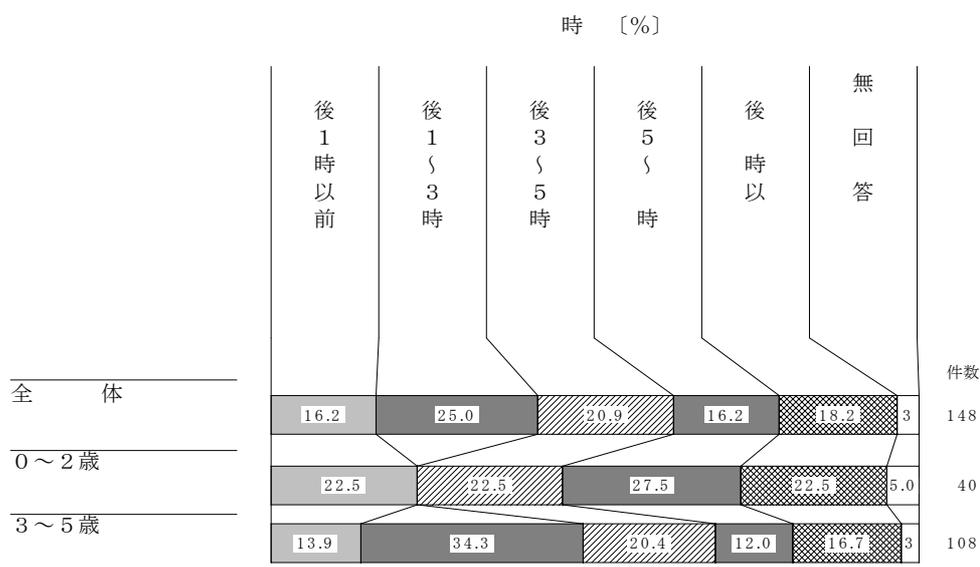
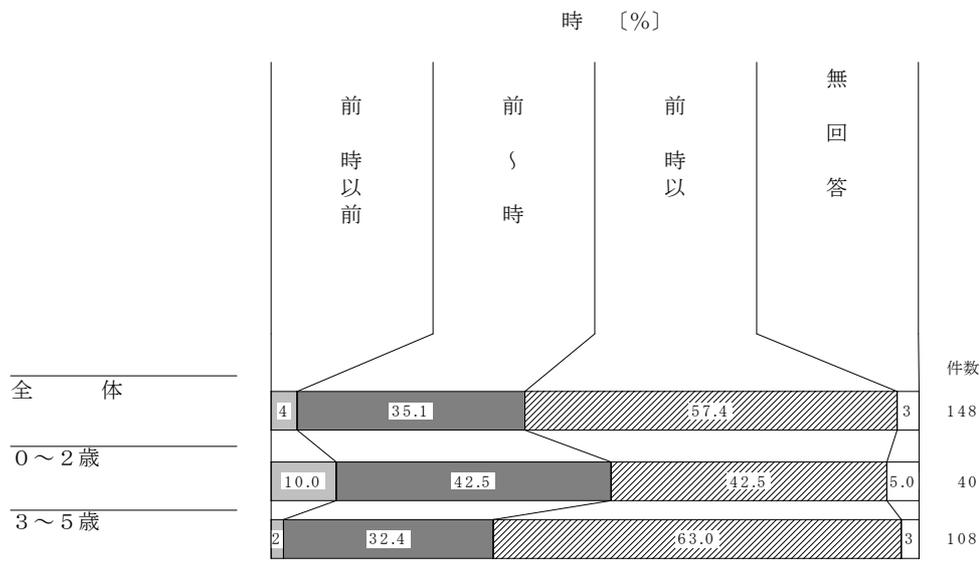
【通常利用している保育サービス】0～2歳は、「保育サービスは利用していない」が57%と特に多く、次いで「ひまわりこども園に通っている」が19%となっている。3～5歳は、「ひまわりこども園に通っている」に回答が集中しており、85%に上る。

【〔保育サービスの利用者のみ〕通園日数】大多数が「週5日」と回答しているが、年齢階層で見ると、0～2歳は78%であるのに対して、3～5歳は87%と1割程度高い。通園平均日数は、「週5.1日」となっている。

【開始時間】0～2歳は「午前8～9時」及び「午前9時以降」が同率で43%となっているが、3～5歳は「午前9時以降」が63%と過半数を占め、「午前8～9時」は32%となっている。

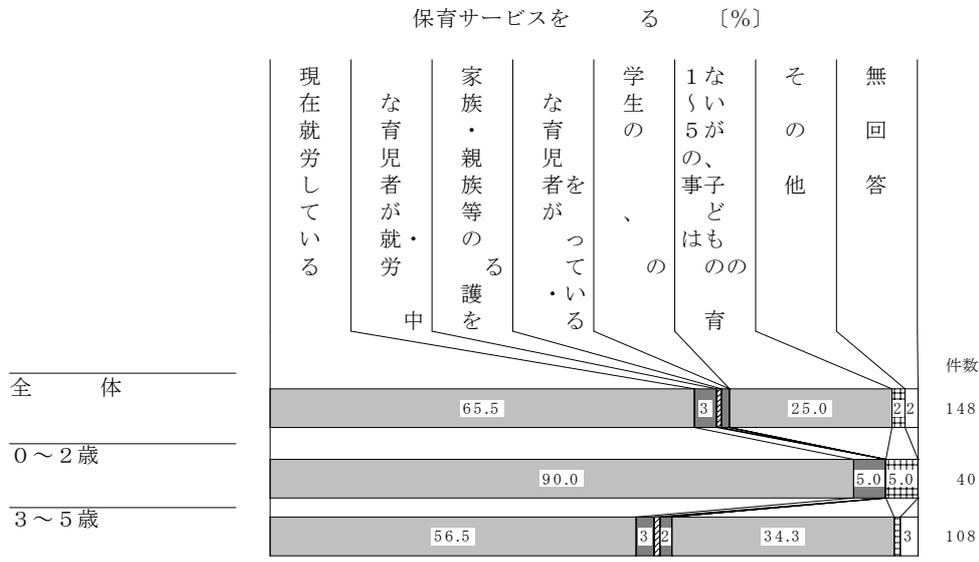
【終了時間】0～2歳は、回答がやや分散しており、「午後5～6時」が28%、「午後1時以前」、「午後3～5時」「午後6時以降」が同率で23%となっている。3～5歳は、「午後1～3時」が34%と最も多く、次いで、「午後3～5時」が20%となっている。





- ※ 年齢別にみると、5歳は、終了時間が「午後1～3時」が4割台を占めている。
- ※ 世帯別にみると、同居世帯は、開始時間が「午前8～9時」が4割台となり、親と子の世帯よりも1割程度高い。
- ※ 育児支援別にみると、預かってくれる人がいる回答者は、「保育サービスは利用していない」が3割近くを占めており、預かってくれる人がいない回答者よりも2割以上高い。
- ※ 地区別にみると、田井地区は、「ひまわりこども園に通っている」に回答が集中しており、7割台に上る。
- ※ 保護者の就労状況別にみると、片働き世帯は、「保育サービスは利用していない」が4割台を占め、共働き世帯よりも3割程度高い。また、片働き世帯は、8割が開始時間を「午前9時以降」と回答し、終了時間は、「午後1～3時」が6割近くを占めている。
- ※ 保育先別にみると、町外の幼稚園・保育園に通園している回答者は、「午前8～9時」が7割近くを占めている。事業所内保育施設を利用している回答者は僅かであるが、「午後6時以降」が7割近くを占める。

【〔保育サービスの利用者のみ〕保育サービスを利用している主な理由は何ですか】0～2歳はほとんどが、「現在就労している」と回答しており、90%を占める。3～5歳は、「現在就労している」が57%を占め、「1～5の事情はないが、子どもの教育のため」が34%と続いている。

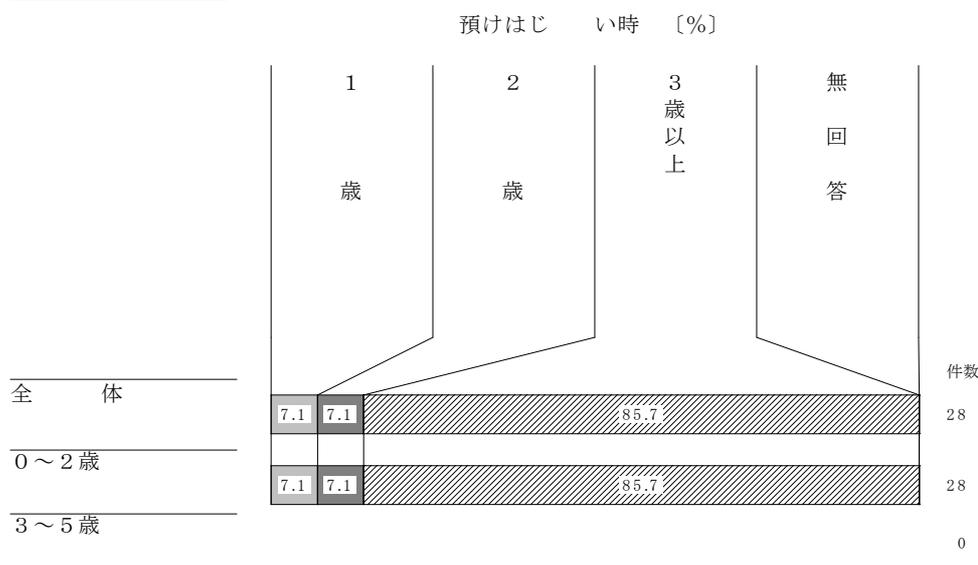
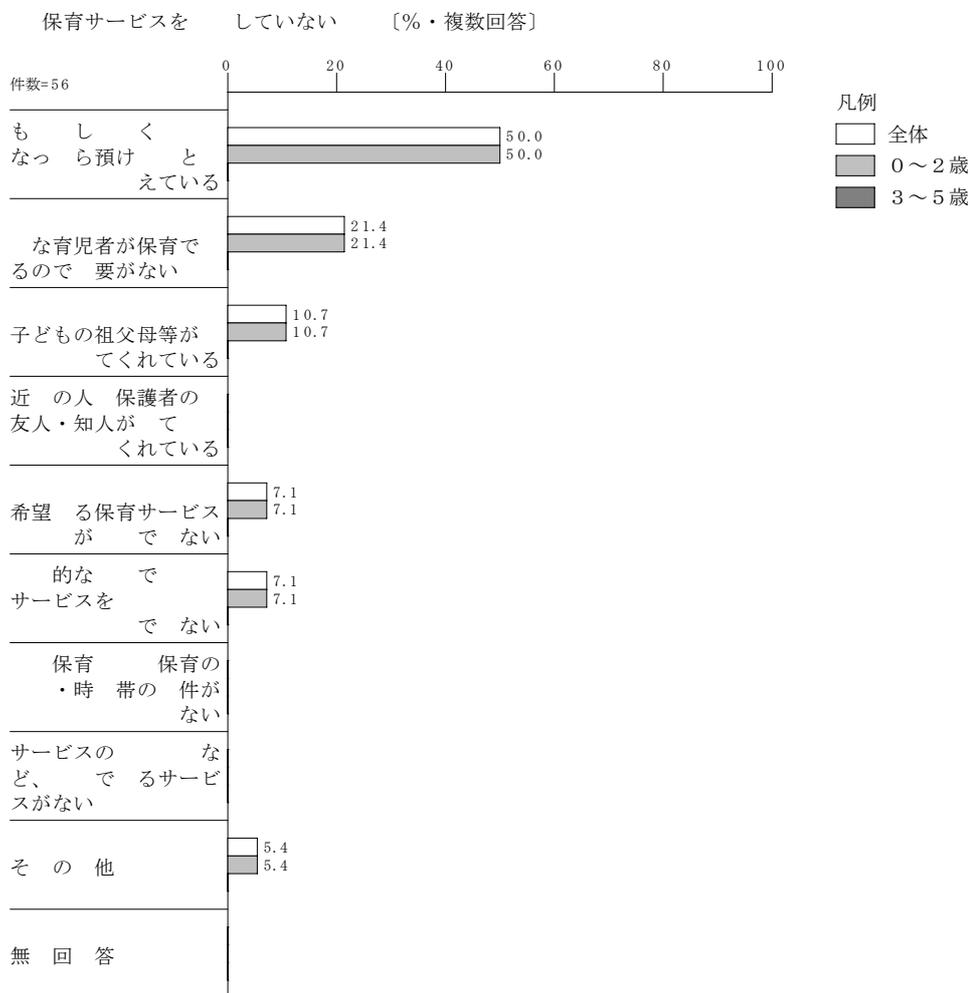


※ 年齢別にみると、5歳は、「1～5の事情はないが、子どもの教育のため」が5割を占めている。

※ 保護者の就労状況別にみると、共働き世帯は、「現在就労している」に回答が集中しており、9割台となっている。一方、片働き世帯は、「1～5の事情はないが、子どもの教育のため」が6割台を占めている。

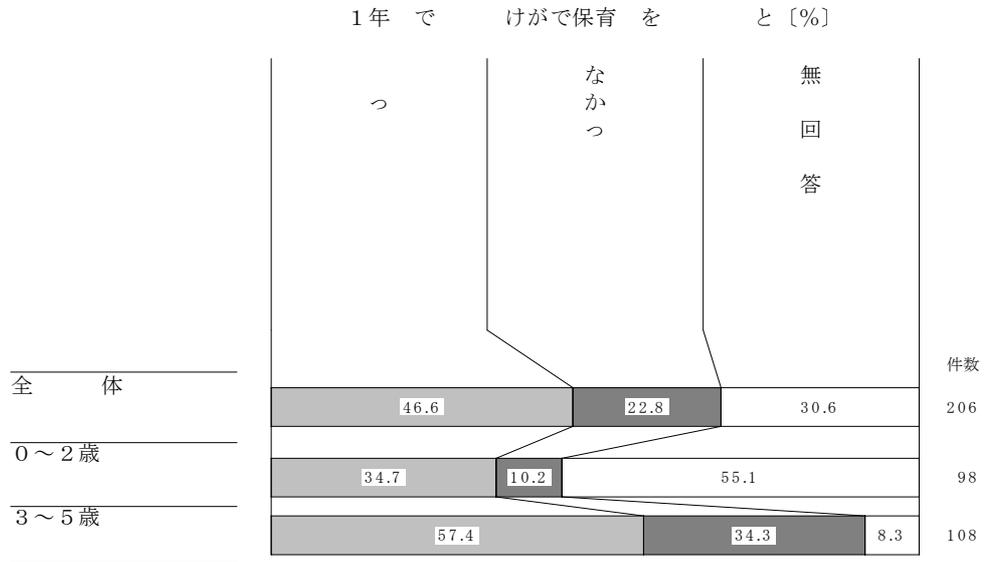
【〔保育サービスの未利用者のみ〕保育サービスを利用していない主な理由は何ですか】0～2歳のみの回答となっており、「もう少し大きくなったら預けようと考えている」が50%と最も多く、次いで、「主な育児者が保育できるので必要がない」が21%となっている。

【〔子どもが小さいためと回答した方のみ〕預けはじめたい時期】0～2歳のみの回答で、「3歳以上」が大多数で、86%を占めている。預けはじめたい年齢の平均は、「2.9歳」となっている。



※ 保護者の就労状況別に見ると、共働き世帯の件数は少ないものの、「子どもの祖父母等がみている」が4割台を占めており、全体よりも3割程度高い。

【〔保育サービスの利用者のみ〕この1年間に、お子さんが病気やケガで保育先での通常の保育サービスが利用できなかったことはありますか】1年間で病気やけがで保育先を休んだことが「あった」割合は、0～2歳で35%、3～5歳では57%に上る。

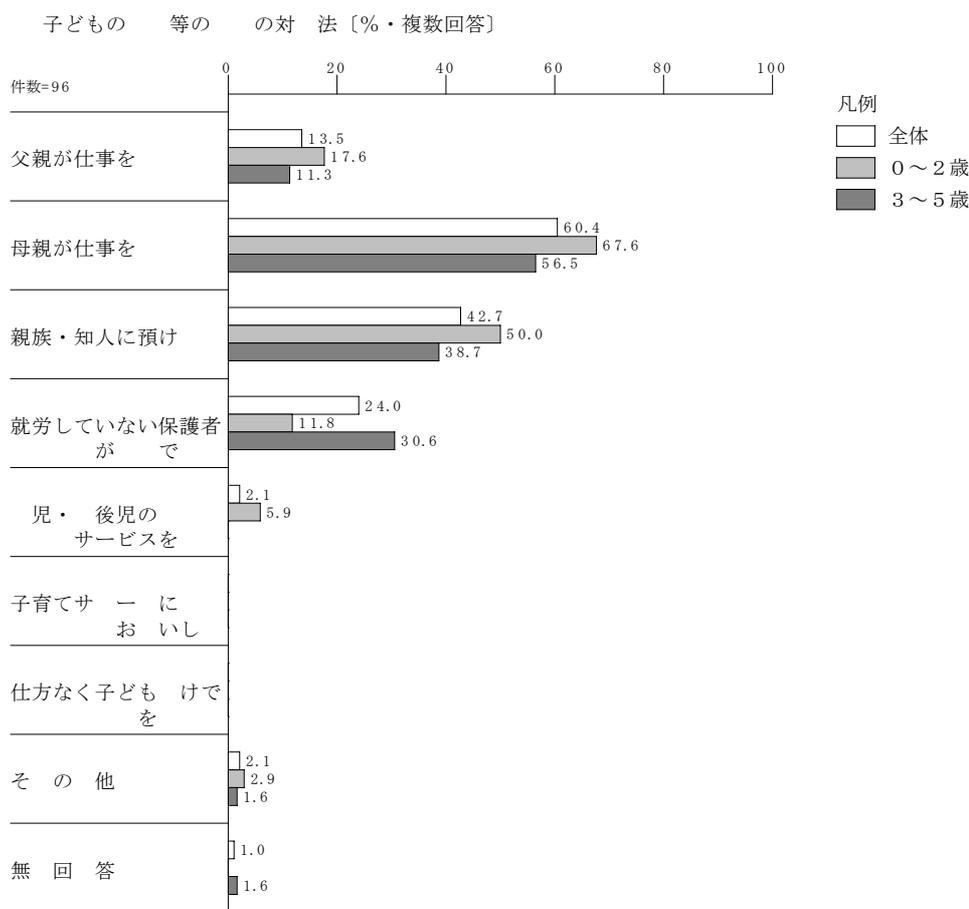


※ 世帯別にみると、同居世帯は「なかった」が3割台を占めており、親と子の世帯よりも1割以上高い。

※ 保護者の就労状況別にみると、共働き世帯は、「あった」が6割台を占めており、全体よりも1割以上高い。

【〔あったと回答した利用者のみ〕子どもの病気等の場合の対処方法】「母親が仕事を休んだ」が最も多く、全体では60%となり、次いで「親族・知人に預けた」が43%となっているが、いずれも0～2歳の割合が高く、3～5歳よりも1割程度高くなっている。一方、「就労していない保護者が自宅のみ」は、3～5歳は31%と、0～2歳よりも2割程度高くなっている。

- 父親が仕事を休んだ平均日数は「2.7日」となっている。
- 母親が仕事を休んだ平均日数は「5.7日」となっている。
- 親族・知人に預けた平均日数は「7.8日」となっている。
- 就労していない保護者が世話をした平均日数は「6.4日」となっている。
- 病時・病後時のサービス利用者は僅か1人で、「10日」となっている。



- ※ 年齢別にみると、5歳は、「就労していない保護者が自宅のみ」が最も多く、5割台となっている。
- ※ 保護者の就労状況別にみると、片働き世帯は、「就労していない保護者が自宅のみ」が最も多く、7割近くを占めている。

【父親若しくは母親が仕事を休んだ回答者、親族・知人に預けた回答者を対象】できれば施設に預けたいと思った日数はどれ位ありますか】施設に預けたい平均日数は、「4.6日」となっている。

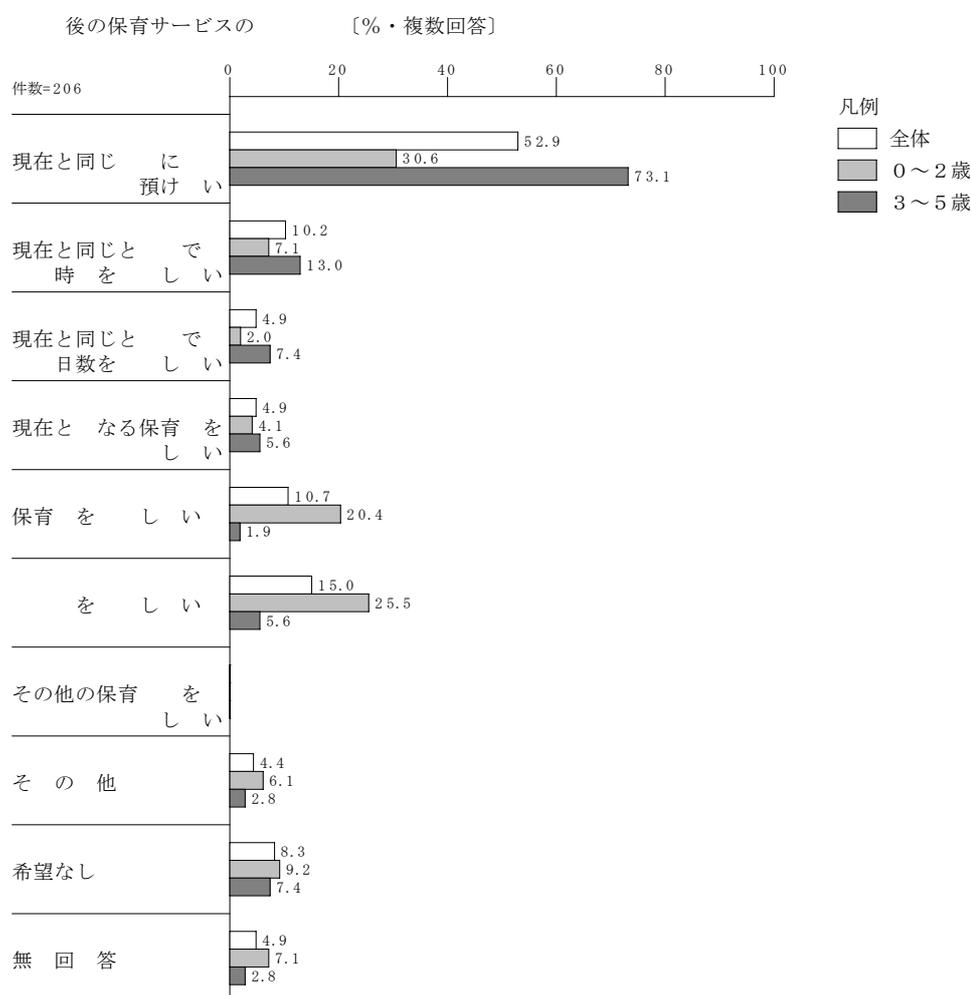
- ※ 育児支援別にみると、預かってくれる人がいる回答者は、平均すると「4.1日」であるのに対して、預かってくれる人がいない回答者は「9.4日」と、5日程度長い。

## (2) 今後の保育希望

【宛名のお子さんの保育サービスを、今後どのように利用したいと思いますか】「現在と同じように預けたい」が最も多いが、3～5歳は73%と特に多く、0～2歳は31%にとどまっている。0～2歳は、「幼稚園を利用したい」が26%、「保育園を利用したい」が20%と比較的多い。

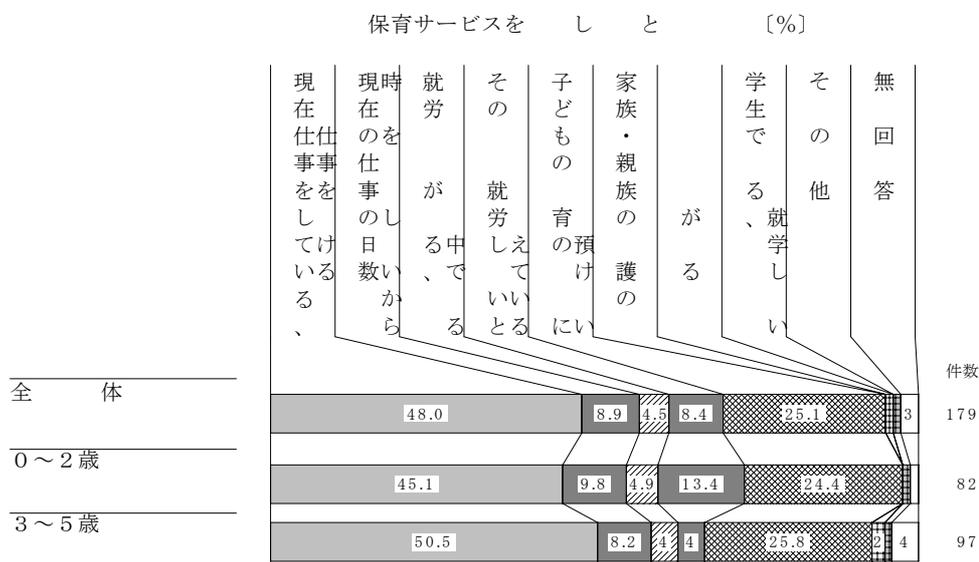
〔利用希望の詳細〕

- 現在と同じ保育先で時間を増やしたいと考えている回答者は、終了時間では最も遅い時間は「20時」となっている。
- 現在と同じ保育先での利用日数の増加を希望する回答者は僅かであるが、平均希望日数は「1.9日」となっている。
- 現在と異なる保育園を希望する回答者は僅かであるが、平均希望日数は週「2.5日」で、開始時間では「8時」が最も早く、終了時間は「17時」が最も遅い。また、他の幼稚園の希望も僅かで、平均希望日数は週「5.0日」となっている。認定こども園の利用希望も僅かで、平均希望日数は週「5.7日」、開始時間は「7時45分」が最も早く、終了時間は「18時」が最も遅い。
- 保育園の利用希望者は、平均希望日数は週「5.2日」で、開始時間は「7時50分」が最も早く、終了時間は「19時」が最も遅い。
- 幼稚園の利用希望者は、平均希望日数は「5.1日」で、開始時間は「8時」が最も早く、終了時間は「19時」が最も遅い。



※ 保護者の就労状況別にみると、片働き世帯は、「幼稚園を利用したい」が2割台となり、全体よりも1割高くなっている。

【〔保育サービスの利用を希望する回答者のみ〕保育サービスを利用しようと思う主な理由は何ですか】「現在仕事をしている、仕事を続けるため」が最も多く、全体では48%となり、次いで、「子どもの教育のために預けたい」が25%を占める。



※ 年齢別にみると、5歳は、現在保育サービスを利用している理由と同様に教育に関する関心が高く、「子どもの教育のために預けたい」が4割台を占めている。

※ 地区別にみると、新浜地区は、「現在仕事をしている、仕事を続けるため」が6割台に上る。吉原地区は、「子どもの教育のために預けたい」が4割台を占めている。

※ 保護者の就労状況別にみると、共働き世帯は、「現在仕事をしている、仕事を続けるため」に回答が集中し、8割近い。片働き世帯は、「子どもの教育のために預けたい」が5割近い。

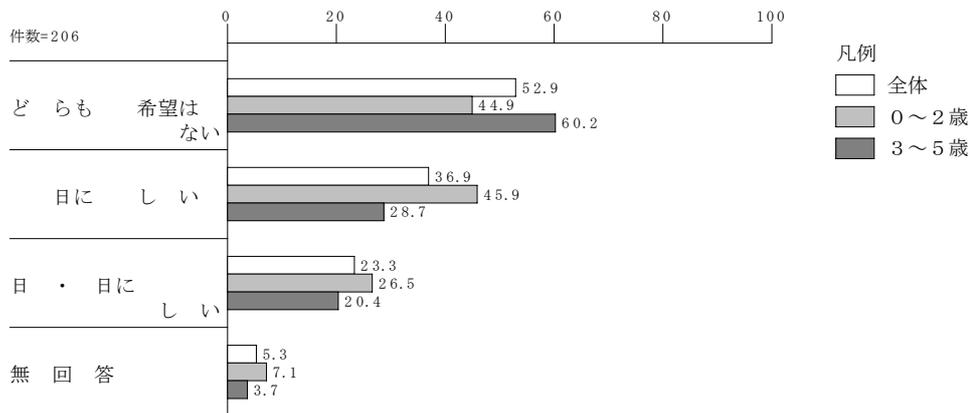
※ 保育先別にみると、こじか保育園に通園している回答者の件数は僅かだが、「現在仕事をしている、仕事を続けるため」に回答が集中し、9割台となっている。保育サービスを利用していない回答者は、「子どもの教育のために預けたい」が5割近い。

【土曜日・日曜日・祝日に、通常の保育サービスの利用希望がありますか】0～2歳は、「土曜日に利用したい」が46%、「どちらも利用希望はない」が45%と多く、「日曜・祝日に利用したい」は23%となっている。3～5歳は「どちらも利用希望はない」が60%と多く、「土曜日に利用したい」が29%、「日曜・祝日に利用したい」20%となっている。

〔利用希望の詳細〕

- 土曜日に利用したい回答者は、月平均「2.8回」となり、日曜・祝日を利用したい回答者は、月平均「2.0回」となっている。

・日 の 常の保育サービスの希望 [%]

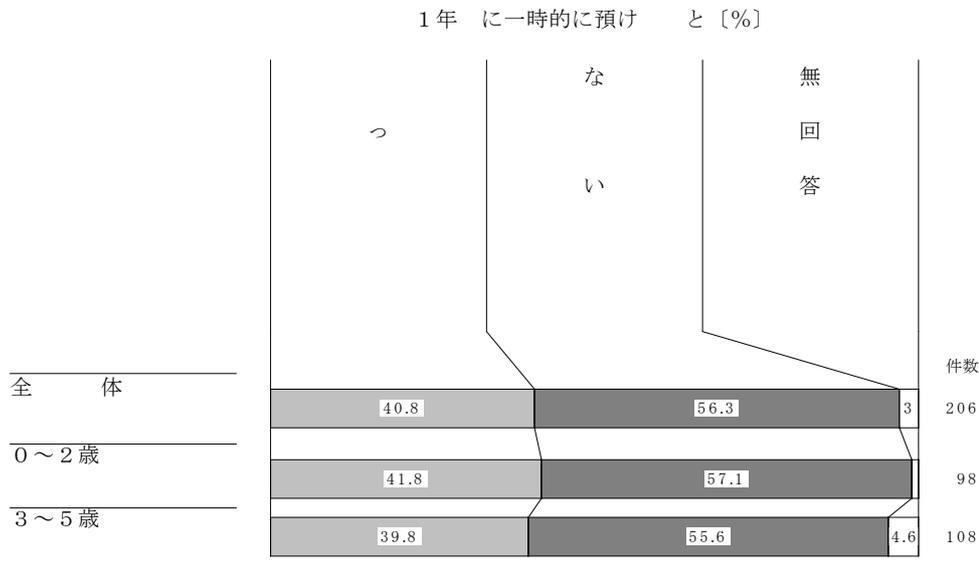


- \* 年齢別にみると、0歳及び2歳は、「土曜日の利用」希望が高く、5割台となっている。5歳は、「どちらも利用希望はない」が7割近くを占めている。
- \* 世帯別にみると、親と子の世帯は、「どちらも利用希望はない」が6割近いが、同居世帯は「土曜日の利用」希望が高く、5割となっている。
- \* 保護者の就労状況別にみると、共働き世帯は「土曜日に利用したい」が5割近くに上るが、片働き世帯は「どちらも利用希望はない」が7割近くを占めている。
- \* 保育先別にみると、こじか保育園に通園している回答者は件数が少数だが、「土曜日の利用」希望が高く、9割台に上る。
- \* 今後の保育サービス利用意向別にみると、幼稚園の利用希望者及びいずれの利用希望もない回答者は、「どちらも利用希望はない」が8割台に上る。一方、保育園の利用希望者は、土曜・日曜・祝日の利用希望が高く、「土曜日の利用」希望が6割台、「日曜・祝日の利用」希望が4割台となっている。

#### -4 一時預かり・放課後児童クラブについて

##### (1) 家族以外の者に子どもを預けた経験

【この1年間で、就労のため、または私用（買物、習い事、会合、美容院など）やリフレッシュ目的、緊急の用事（冠婚葬祭、保護者・家族の病気など）で、宛名のお子さんを家族以外の誰かに一時的に預けたことがありましたか】預けた経験は「ない」が比較的多く、全体では56%を占め、「あった」は41%となっている。

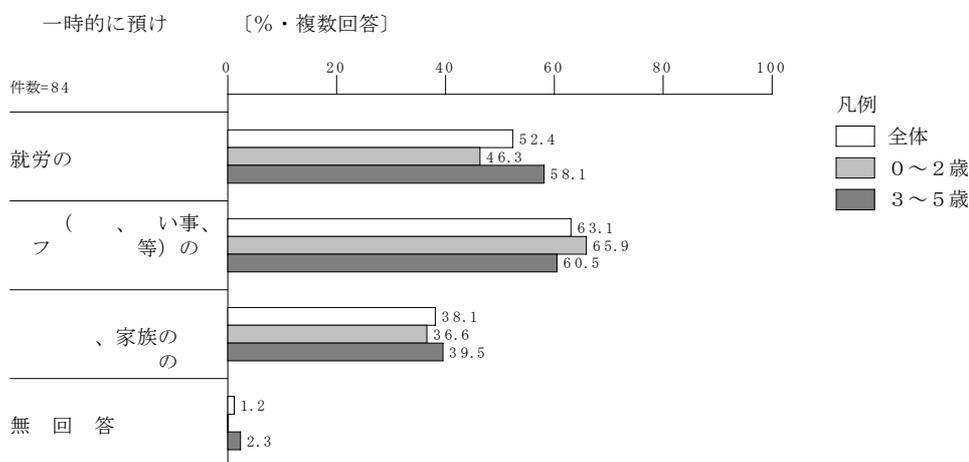


※ 地区別にみると、浜ノ瀬地区は件数が僅かだが「ない」に回答が集中し、8割台を占めている。

※ 育児支援別にみると、預かってくれる人がいない回答者は、預けた経験が「あった」は3割を割っている。

【(預けた経験がある回答者のみ) 一時的に子どもを預けた理由】「私用（買い物、習い事、リフレッシュ等）のため」が最も多く、全体では63%に上り、次いで「就労のため」が52%、「冠婚葬祭、家族の病気のため」が38%となっている。なお、「就労のため」は、3～5歳の割合が58%と高く、0～2歳よりも1割程度高い。

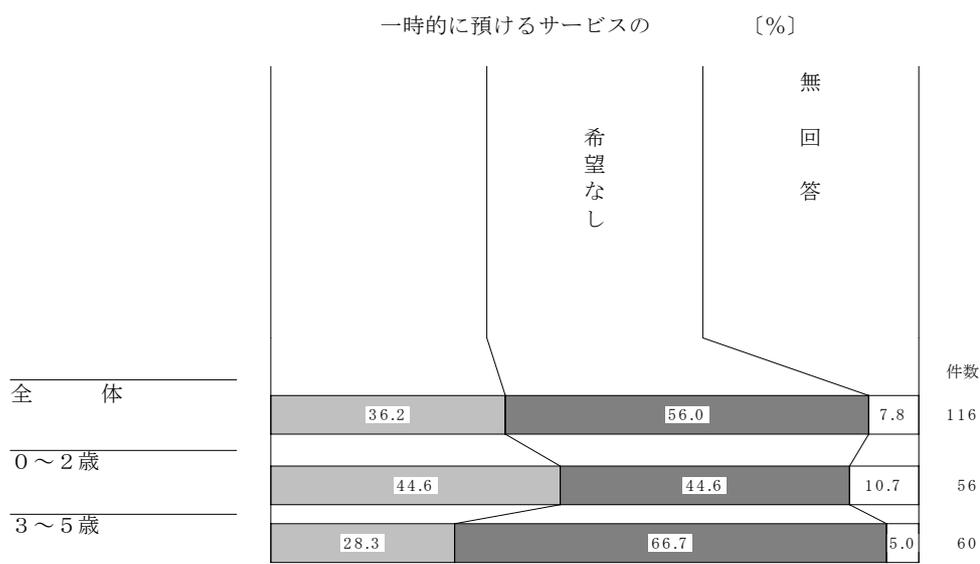
○ 就労のために預けた平均日数は「25.1日」、私用で預けた平均日数は「5.9日」、冠婚葬祭、家族の病気で預けた平均日数は「2.2日」となっている。



※ 世帯別にみると、親と子の世帯は、「就労のため」が6割近く、「私用のため」が7割近くとなり、同居世帯よりも2割程度高い。

- ※ 育児支援別にみると、預かってくれる人がいる回答者は、「就労のため」が5割台、「私用のため」が6割台となり、預かってくれる人がいない回答者よりも2割以上高い。
- ※ 保護者の就労状況別にみると、共働き世帯は「就労のため」が8割台に上り、片働き世帯は「私用のため」が8割近い。
- ※ 保育先別にみると、保育サービスを利用していない回答者は8割が「私用のため」と回答している。

【今後、一時的に預けるサービスを利用したいと思いませんか】0～2歳は、45%が利用したいと「思う」と回答しているが、3～5歳は、28%にとどまっている。  
 なお、1か月の利用希望の平均日数は、「2.9日」となっている。



- ※ 年齢別にみると、2歳は利用希望が高く、5割台となっている。
- ※ 育児支援別にみると、預かってくれる人がいない回答者は件数が少ないものの利用希望が高く、6割近い。
- ※ 保護者の就労状況別にみると、共働き世帯は利用希望が3割を割っているが、片働き世帯は利用希望率が4割台となっている。
- ※ 保育先別にみると、保育サービスを利用していない回答者は、利用希望が比較的高く、5割を占めている。

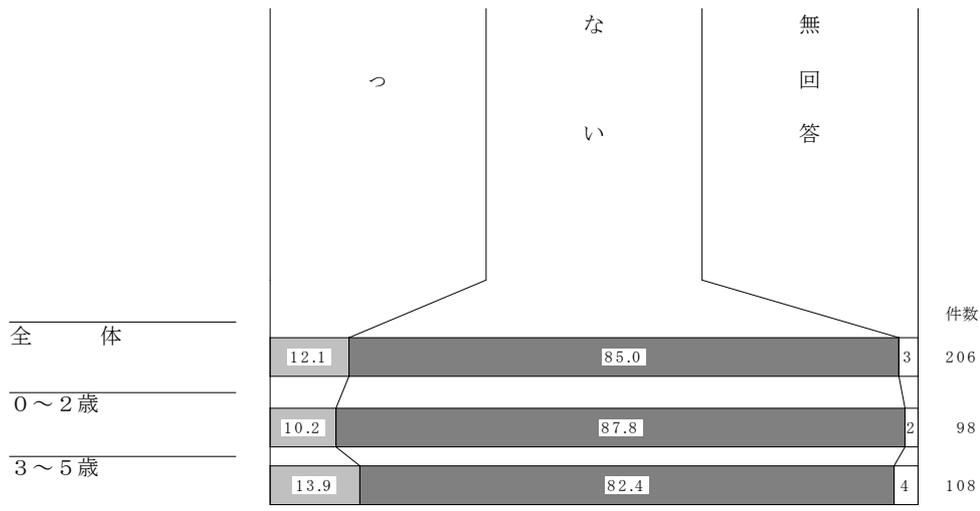
## (2) 泊りがけで子どもを預けた経験

【この1年間に、保護者の用事などにより宛名のお子さんを泊りがけで家族以外に預けなければならないことはありましたか】預けたことが「あった」は少なく、全体では12%となっている。

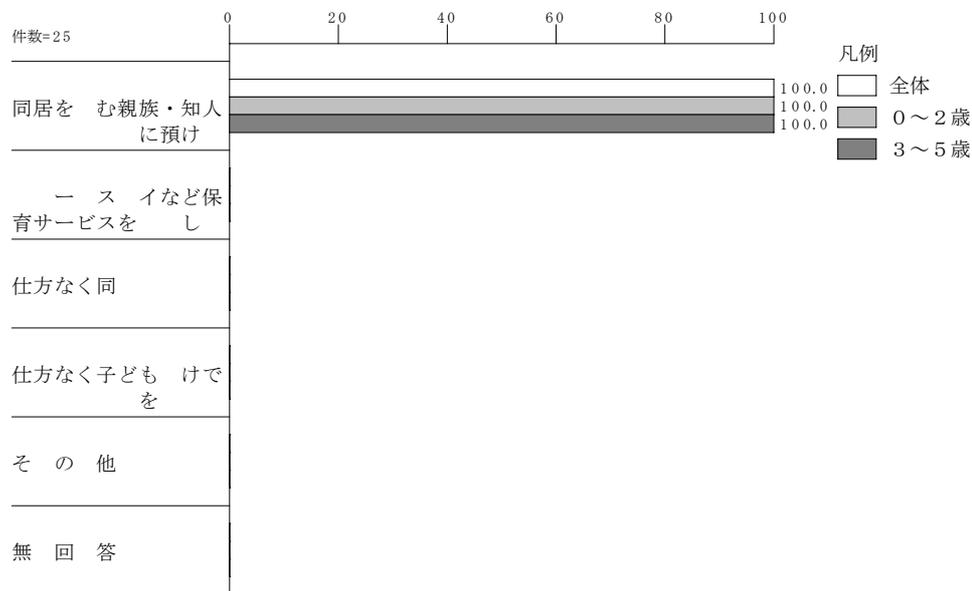
【〔泊りがけで子どもを預けた経験のある回答者のみ〕泊りがけで預けた場合の対処方法】全員が、「同居を含む親族・知人に預けた」と回答している。親族・知人に預けた平均日数は、「6.1日」となっている。

【〔親族・知人等に預けた経験のある回答者のみ〕その場合の困難度(簡単にあるいは気軽に預けられるかどうか)はどの程度ですか】「特に困難ではない」が最も多く、全体では56%となり、次いで、「どちらかという困難」が32%と多く、「非常に困難」と合わせると40%を占める。

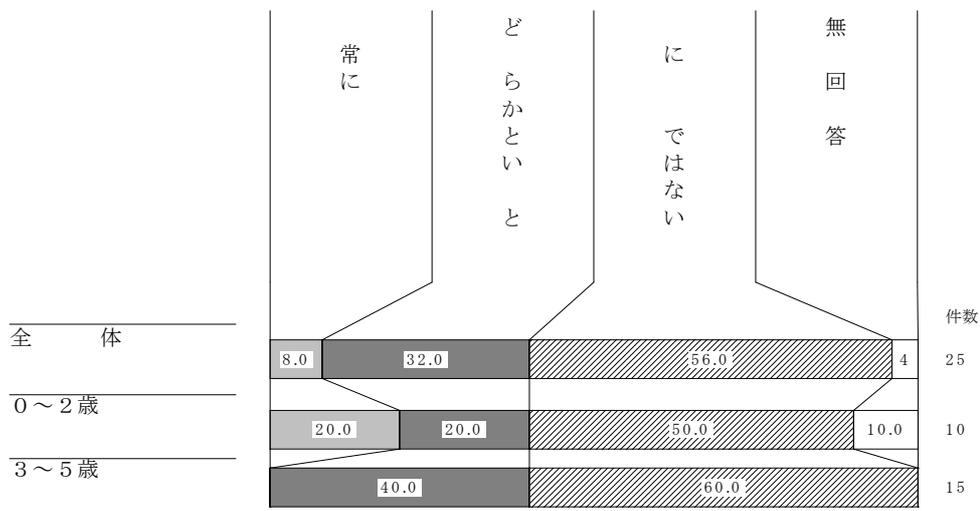
1年にりがけで預けた割合 [%]



預けた経験の対方法 [%・複数回答]



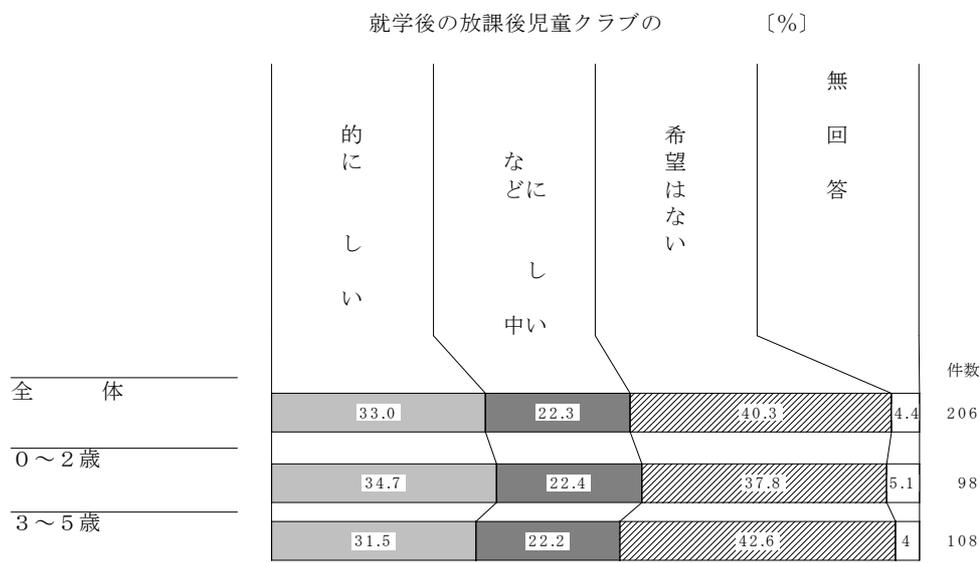
[%]



※ 世帯別にみると、同居世帯は預けた経験の「ない」割合が特に高く、9割近い。

### (3) 放課後児童クラブの利用意向

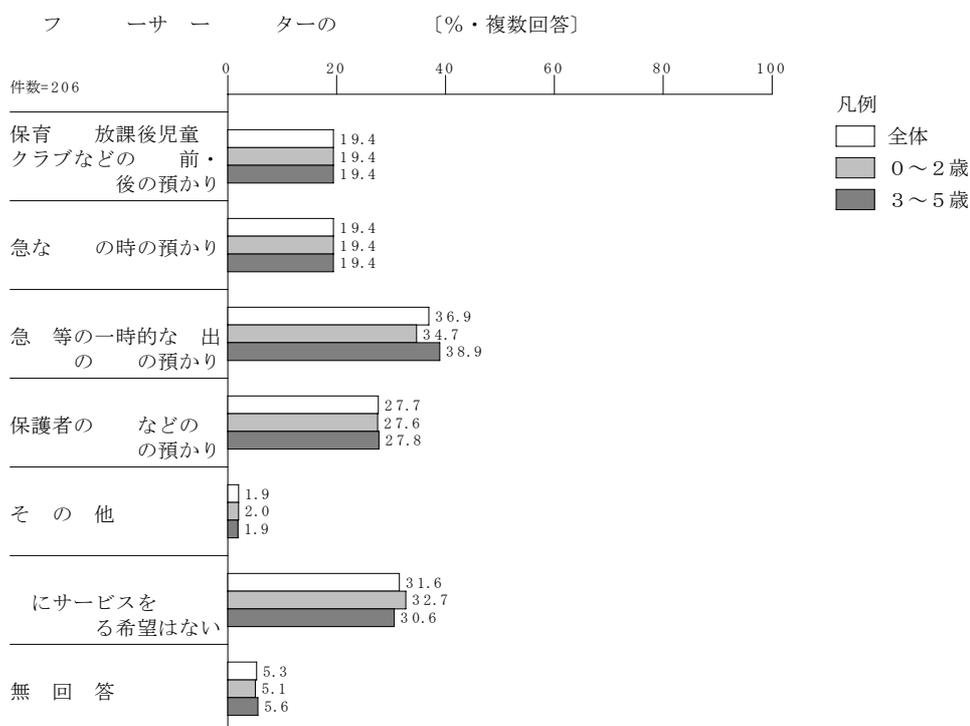
【小学生の保護者が、仕事等により放課後保育ができない場合に預かる「放課後児童クラブ（学童保育）」というサービスがあります。宛名のお子さんが小学生になったら、利用したいと思いますか】「利用希望はない」が比較的多く、全体では40%を占め、「定期的に利用したい」が33%、「夏休みなど長期休暇中に利用したい」が22%となっている。なお、1週間の平均利用希望日数は、「5.0日」となっている。



- ※ 年齢別にみると、5歳は利用希望が低く、6割近くが「利用希望はない」と回答している。
- ※ 世帯別にみると、親と子の世帯は、「定期的に利用したい」が3割台で、同居世帯よりも1割程度高い。
- ※ 育児支援別にみると、預かってくれる人がいない回答者は、「定期的に利用したい」が4割台に上る。
- ※ 保護者の就労別にみると、共働き世帯は、「定期的に利用したい」が5割近くを占める。
- ※ 保育先別にみると、町外の幼稚園・保育園に通園している回答者は件数が少ないものの、「定期的に利用したい」が5割台に上る。保育サービスを利用していない回答者は、「利用希望はない」が5割台を占めている。

#### (4) ファミリーサポート事業の利用意向

【町民が会員登録した地域住民による相互保育サービスとして、「ファミリーサポート事業」があります。本町では現在実施していませんが、どのような場合に利用したいと思いますか】利用したいケースとしては、「急用等の一時的な外出の場合の預かり」が最も多く、全体では37%となり、次いで、「保護者の病気などの際の預かり」が28%となっている。一方、利用を希望しない回答も比較的多く、「特にサービスを利用する希望はない」は31%となっている。



※ 育児支援別にみると、預かってくれる人がいない回答者は、「保護者の病気などの際の預かり」が4割台に上り、全体よりも1割以上高い。

※ 保護者の就労状況別にみると、片働き世帯は、「急用等の一時的な外出の場合の預かり」が5割に上り、「保護者の病気などの際の預かり」も3割台となっている。

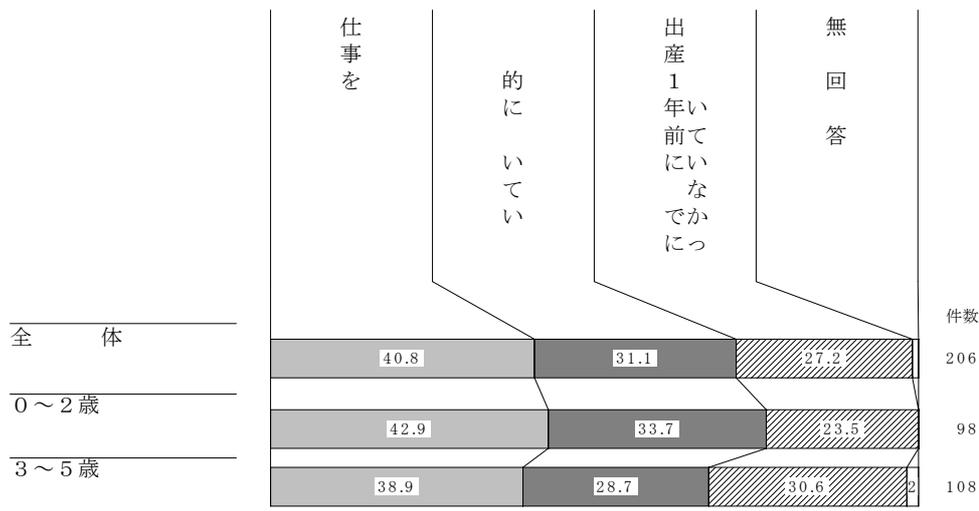
※ 保育先別にみると、保育サービスを利用していない回答者は、「特にサービスを利用する希望はない」が4割台に上る。こじか保育園に通園している回答者も件数は少ないものの、4割台となっている。町外の幼稚園・保育園に通園している回答者も件数は少ないが、「保育園や放課後児童クラブなどの開始前・終了後の預かり」の希望率が高く、4割台となっている。

## -5 母親の妊娠中・出産後の状況について

### (1) 出産前後の就労状況

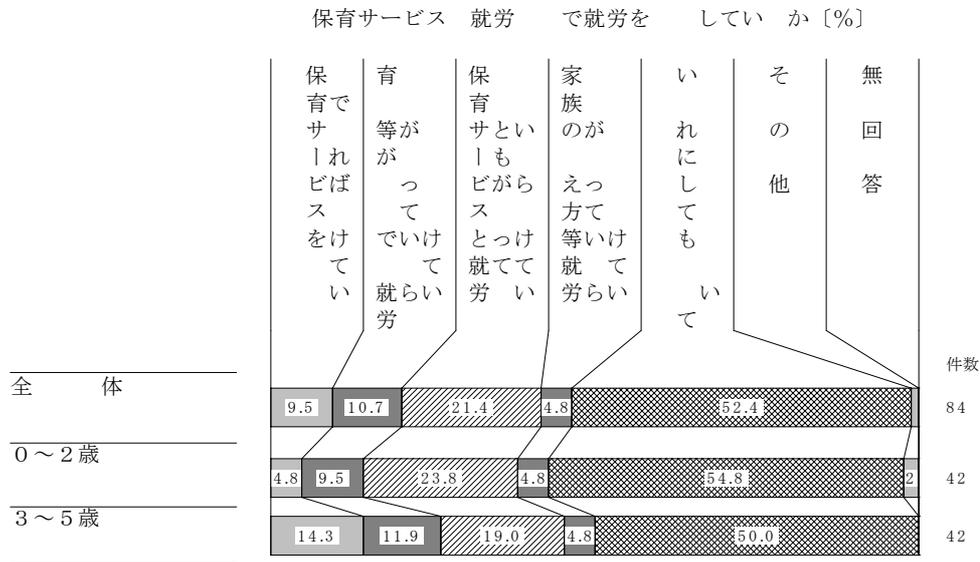
【宛名のお子さんの出産前後（前後それぞれ1年以内）に仕事をやめましたか】「仕事をやめた」が最も多く、全体では41%を占めている。0～2歳は、「継続的に働いていた」が34%、「出産1年前にすでに働いていなかった」が27%となっている。3～5歳は「出産1年前にすでに働いていなかった」が31%、「継続的に働いていた」が29%となっている。

出産前後の就労状況〔%〕



- ※ 年齢別にみると、0歳は「継続的に働いていた」が50%を占めている。4歳は、「出産1年前にすでに働いていなかった」が4割台を占めている。
- ※ 世帯別にみると、親と子の世帯は、「仕事をやめた」が4割台となり、同居世帯よりも1割程度高い。同居世帯は、「継続的に働いていた」が4割近くを占めている。
- ※ 保護者の就労状況別にみると、共働き世帯は、「継続的に働いていた」が4割台となり、片働き世帯は、「出産1年前にすでに働いていなかった」が4割近くを占めている。

【〔仕事をやめた回答者のみ〕仕事と家庭の両立を支援する保育サービスや環境が整っていたら、就労を継続しましたか】「いずれにしてもやめていた」が最も多く、全体では52%と過半数を占め、次いで、「保育サービスと就労環境ともが整っていたら続けていた」が21%を占めている。



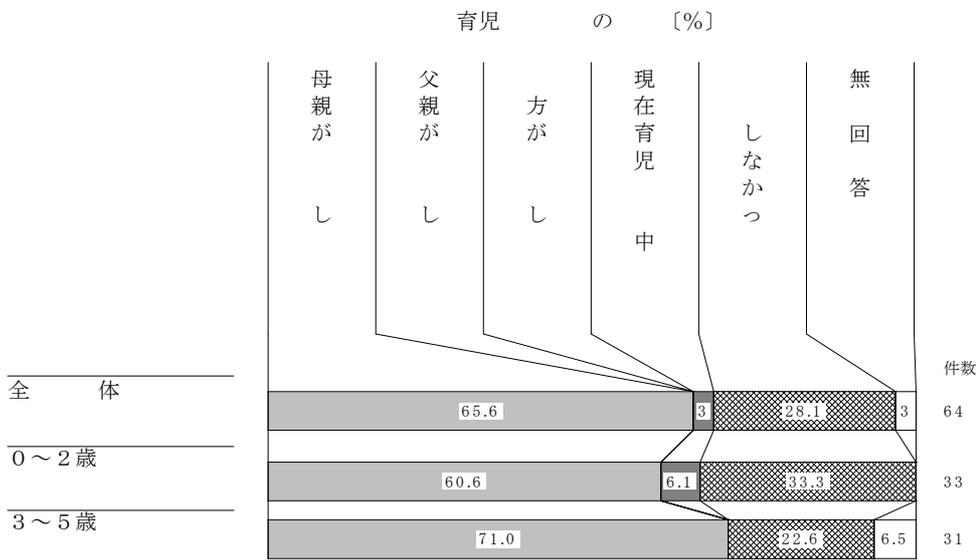
※ 地区別にみると、和田地区は、「いずれにしてもやめていた」が6割台と特に高くなっている。

※ 保護者の就労状況別にみると、共働き世帯は、「保育サービスを利用できれば続けていた」、「保育サービスと就労環境ともが整っていたら続けていた」が、片働き世帯よりも1割程度高い回答率となっている。片働き世帯は「いずれにしてもやめていた」が6割台となり、共働き世帯よりも2割程度高い。

※ 保育先別にみると、保育サービスを利用していない回答者は、「いずれにしてもやめていた」に回答が集中し、7割台に上る。

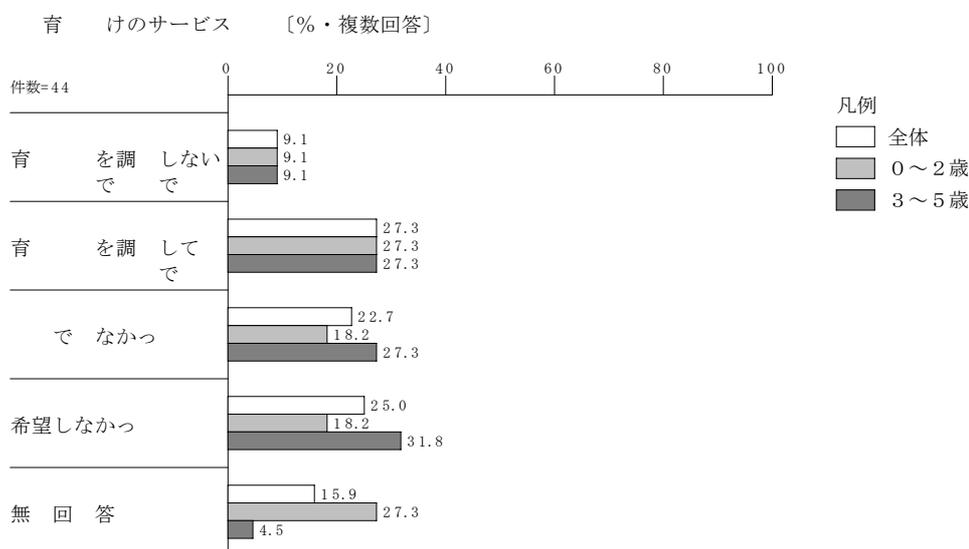
## (2) 育児休業制度

【〔継続的に働いていた回答者のみ〕宛名のお子さんについて、母親または父親は育児休業制度を利用しましたか】「母親が利用した」が最も多く、全体では66%を占めており、「利用しなかった」は28%となっている。「父親が利用した」及び「両方が利用した」という回答はみられない。なお、「母親が利用した」期間は、平均すると、子どもが「11.2か月」までとなり、現在取得中の「母親の利用予定」期間は、平均すると「12か月」となる。



※ 保護者の就労状況別にみると、共働き世帯は、「母親が利用した」が7割近くを占めるが、同居世帯は5割台にとどまっている。

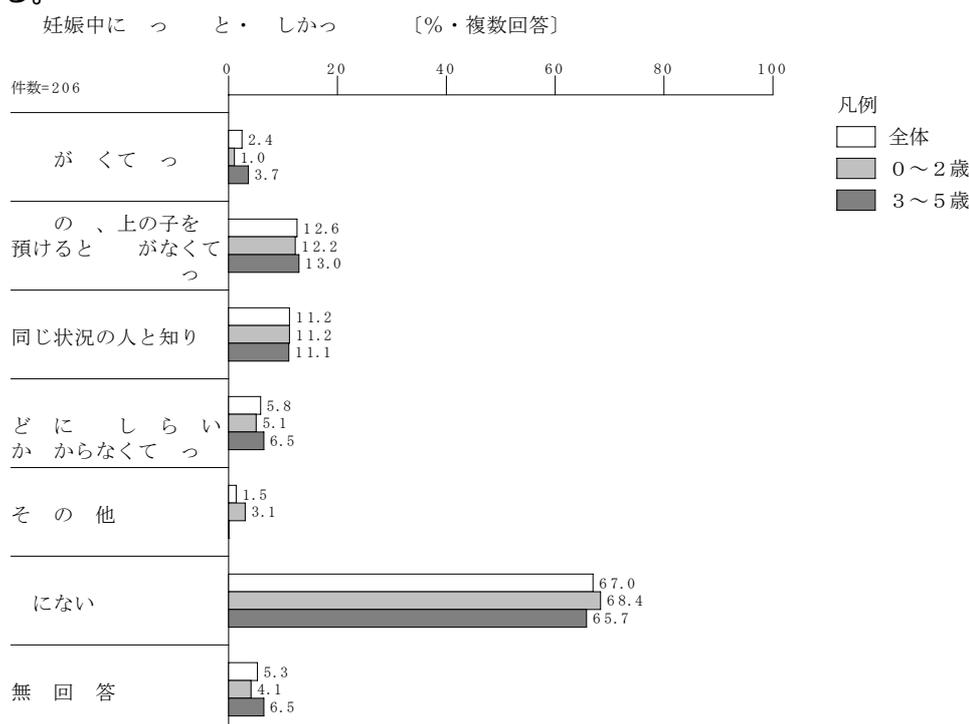
【(育児休業制度を利用した回答者のみ)育児休業明けに希望するサービスが利用できましたか】0～2歳、3～5歳ともに、「育休期間を調整して利用できた」が27%となっているが、3～5歳は「希望しなかった」が32%、「利用できなかった」が27%となり、0～2歳を1割程度上回っている。



※ 地区別にみると、和田地区は「利用できなかった」が4割台と高くなっている。

### (3) 妊娠中に希望すること

【母親が妊娠中に、困ったことや欲しかった制度をお答えください】特になし」が最も多く、全体では67%に上る。困ったこと、ほしかった制度としては、「通院の際、上の子を預けるところがなくて困った」が13%、「同じ状況の人と知り合う機会」が11%とやや多くなっている。

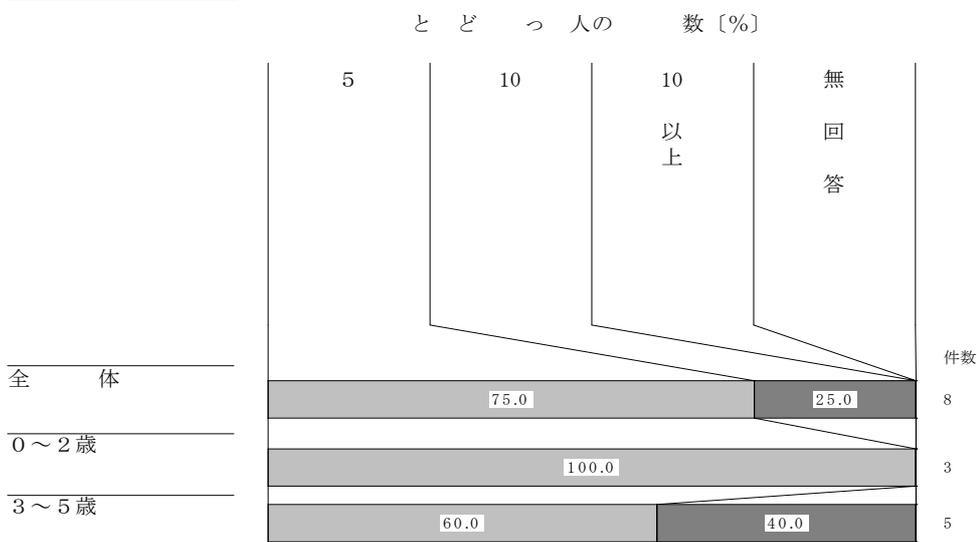
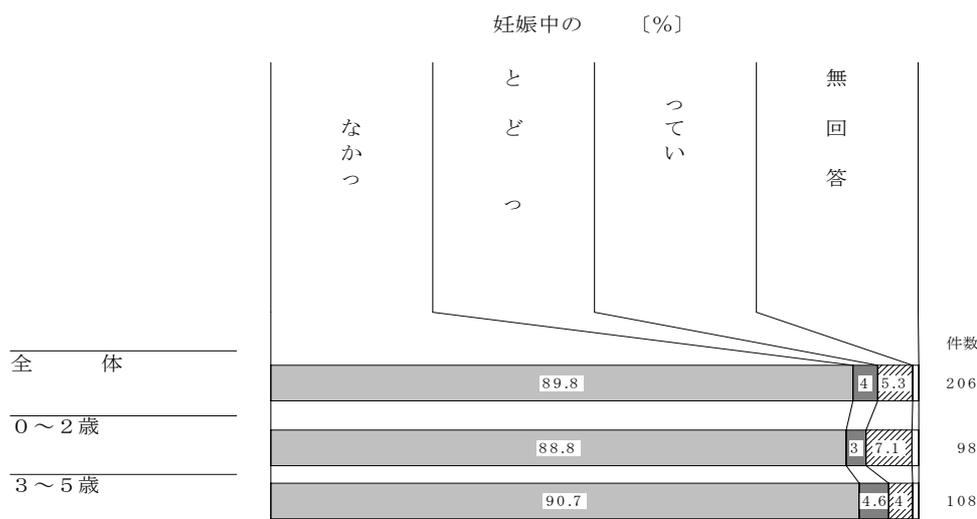


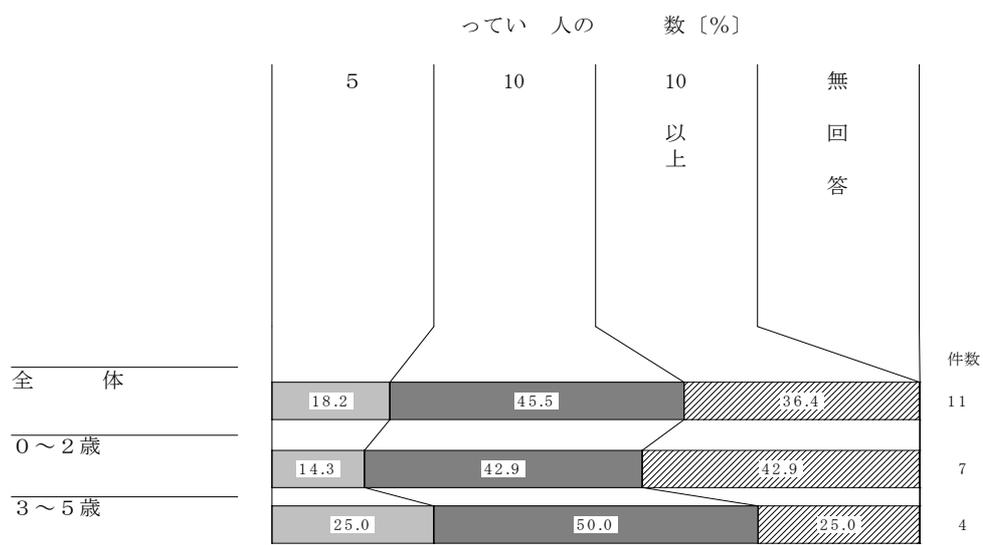
- ※ 年齢別にみると、0歳は「特にない」が8割と特に高い。
- ※ 育児支援別にみると、預かってくれる人がいない回答者は、「どこに相談したらよいかわからなくて困った」が3割近くとなり、預かってくれる人がいる回答者よりも2割程度高い。また、預かってくれる人がいる回答者は、「特にない」が7割近くとなり、預かってくれる人がいない回答者よりも2割程度高い。
- ※ 保護者の就労状況別にみると、片働き世帯は「特にない」が7割台に上り、共働き世帯よりも1割程度高い。
- ※ 保育先別にみると、こじか保育園に通園している回答者は件数が少ないものの、「特にない」に回答が集中し、9割台となっている。

#### (4) 妊娠中の喫煙

【母親は妊娠中に、タバコを吸っていましたか】大多数が「吸わなかった」と回答しており、全体では90%を占めている。なお、「ときどき吸った」は4%、「吸っていた」は5%となっている。

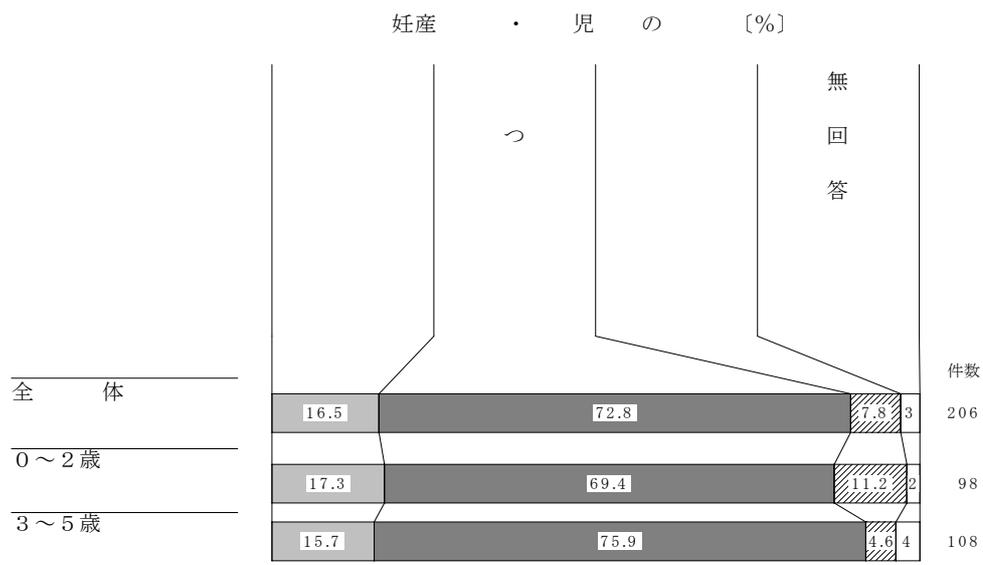
「ときどき吸った」という回答者は、1日「5本程度」が多く、75%となっている。「吸っていた」という回答者は、「10本程度」が46%、「10本以上」が36%となっている。





### (5) 妊産婦健診・乳幼児健診の満足度

【妊産婦健診や乳幼児健康診査は、満足できるものでしたか】「ふつう」が最も多く、全体では73%となり、「満足」は17%、「不満」は8%となっている。

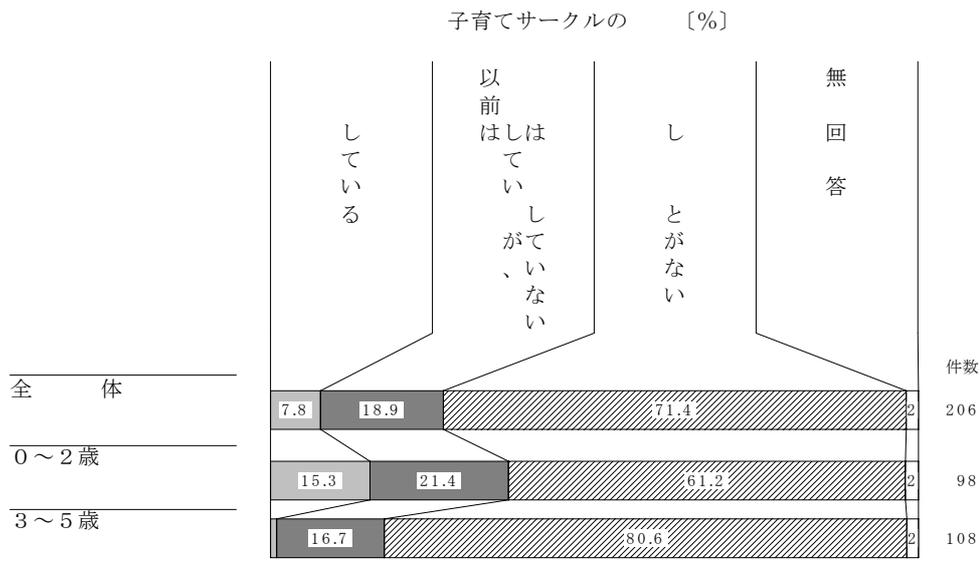


※ 保育先別にみると、町外の幼稚園・保育園に通園している回答者は、件数は少ないものの、満足度が比較的高く、4割近い。

## -6 子育て支援サービスについて

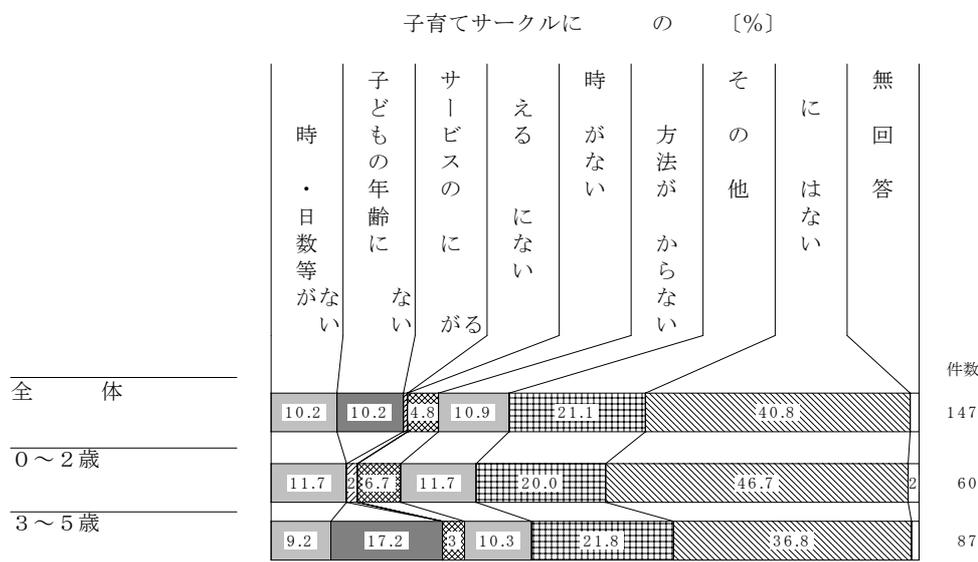
### (1) 子育てサークル

【町では地域子育て支援拠点事業として、『子育てつどいのへや』を実施しています。宛名のお子さんは参加したことがありますか】「参加したことがない」が多数を占めているが、0～2歳の方が参加率は高く、「参加している」が15%、「以前は参加していたが、今は参加していない」が21%となっている。3～5歳は参加者がほとんどなく、「以前は参加していたが、今は参加していない」が17%で、81%が「参加したことがない」と回答している。なお、参加している回答者は、月当たり平均「1.2回位」の参加となっている。



- ※ 年齢別にみると、4歳は参加率が低く、未参加が9割近くを占める。
- ※ 地区別にみると、新浜地区は未参加が8割台を占める。
- ※ 保育先別にみると、保育サービスを利用していない回答者は、参加率が比較的高く、2割台を占める。

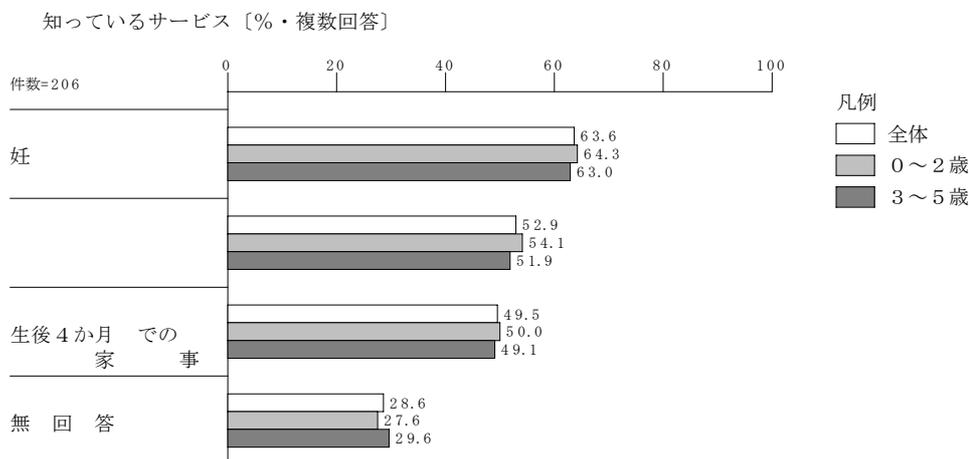
【〔参加したことがない回答者を対象〕参加していない理由は何ですか】「特に理由はない」が最も多いが、特に0～2歳が47%と多く、3～5歳よりも1割程度高い。理由としては、「開催時間・日数等があわない」、「子どもの年齢に合わない」、「利用方法がわからない」が同率で10%となっているが、3～5歳は「子どもの年齢が合わない」が比較的多く、17%となっている。



※ 育児支援別にみると、預かってくれる人がいない回答者は、「特に理由はない」が6割台に上る。

## (2) サービスの認知度、利用度、利用意向

【知っているサービス】「妊婦教室」が最も多く、全体では64%、次いで「離乳食教室」が53%、「生後4か月までの家庭訪問事業」が50%となっている。



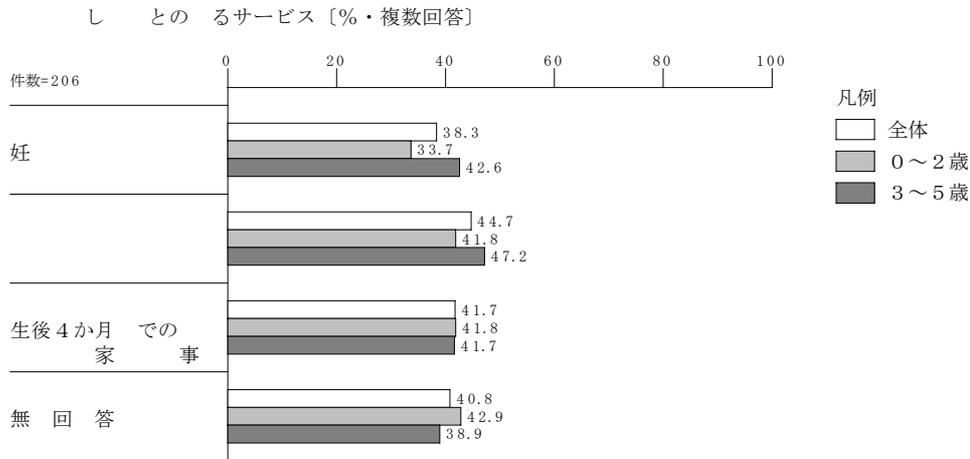
※ 地区別にみると、浜ノ瀬地区は件数が少ないものの全体的に認知度が高い。

※ 育児支援別にみると、預かってくれる人がいない回答者は、認知度が全体的に低く、中でも「子育てサークル」「健診・相談日のお知らせ」「子育てサロン」は2割台にとどまっている。

※ 保護者の就労状況別にみると、全体的に共働き世帯は認知度が高い。

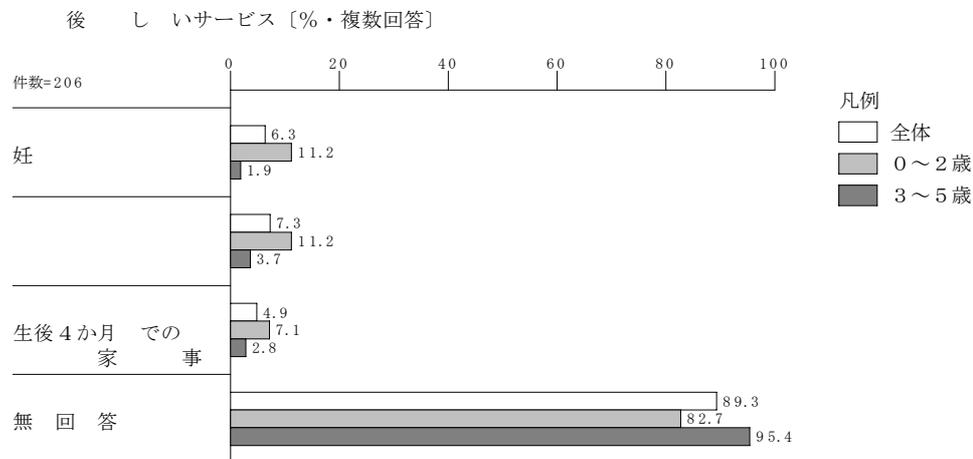
※ 保育先別にみると、0～2歳の多い保育サービスを利用していない回答者は、全体的に認知度が低く、「子育てサロン」など1割を割るものがある。

【利用したことのあるサービス】全体では「離乳食教室」が45%と最も多く、次いで「生後4か月までの家庭訪問事業」が42%、「妊婦教室」が38%となっているが、「妊婦教室」は3～5歳が43%に上り、0～2歳よりも1割程度、利用率が高くなっている。



- ※ 世帯別にみると、親と子の世帯は全体的に回答率が同居世帯よりも1割以上高くなっている。
- ※ 地区別にみると、吉原地区は全体的に回答率が高く、いずれも5割台となっている。
- ※ 保育先別にみると、事業所内保育施設を利用している回答者は、件数は僅かであるものの全体的に回答率が高く、いずれも8割を超えている。

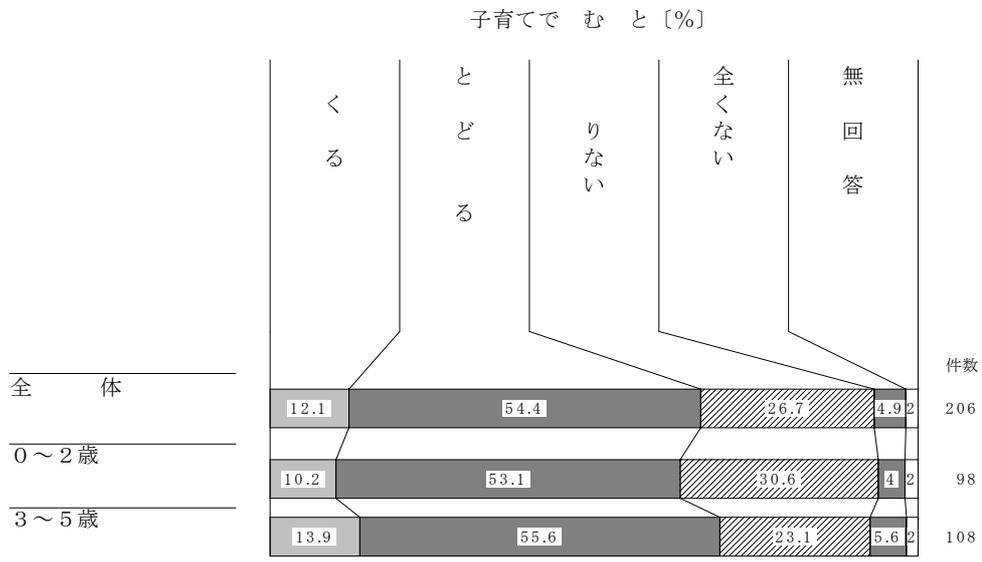
【今後利用したいサービス】無回答が多いが、全体では、「離乳食教室」が7%、「妊婦教室」が6%、「生後4か月までの家庭訪問事業」が5%となっている。



-7 日頃の子育てなどについて

(1) 子育てで悩むこと

【子育てやお子さんの成長・発達のこと、悩むことがありますか】「ときどきある」が最も多く、全体では54%となり、「よくある」と合わせると67%に上る。

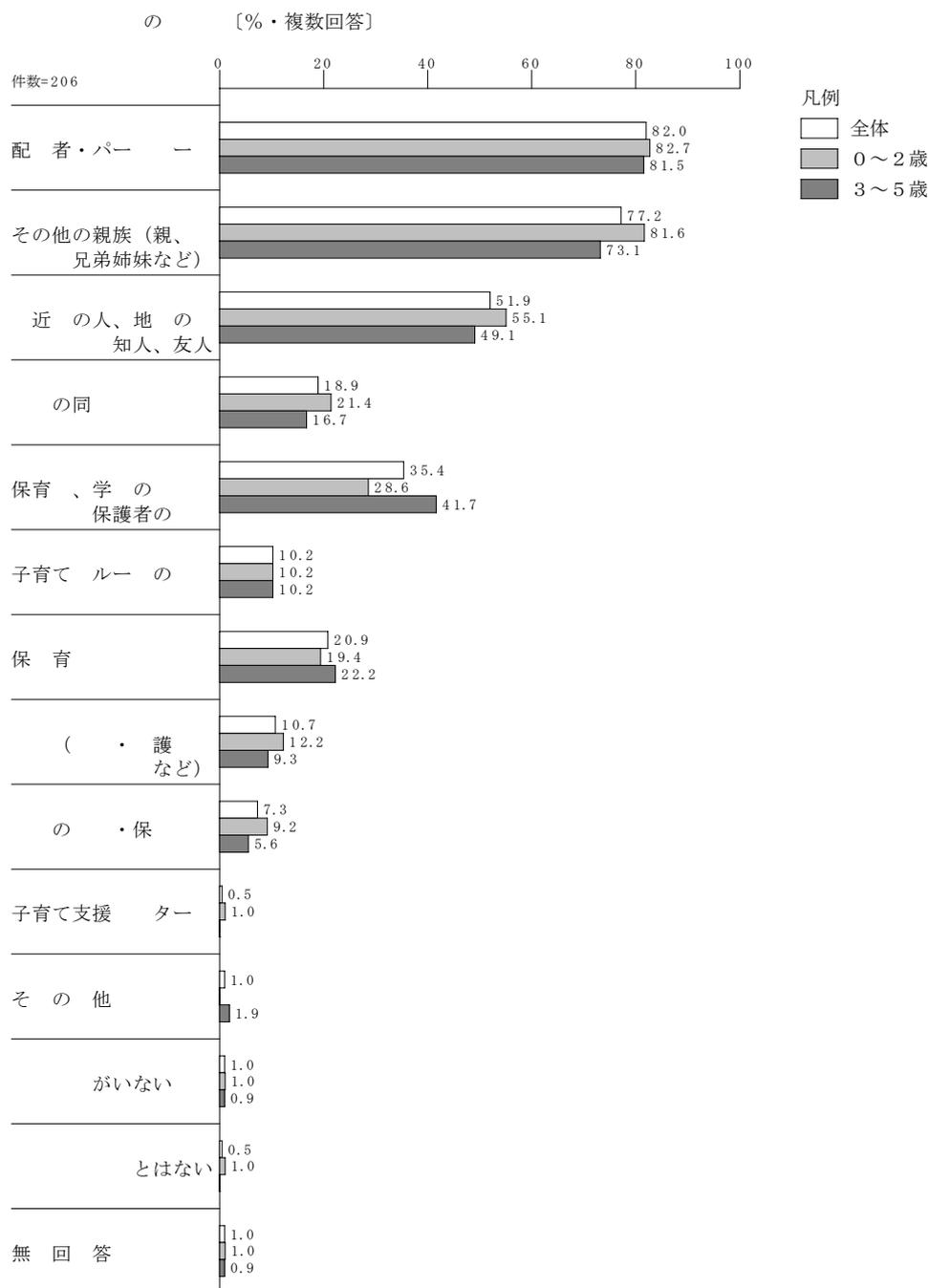


※ 年齢別にみると、0歳は、「あまりない」が4割に上り、全体よりも1割以上高い。

## (2) 悩みや不安の相談先

【子育てに関する悩みや不安を誰かに相談していますか】配偶者・パートナー」が最も多く、全体では82%となり、次いで、「その他の親族（親、兄弟姉妹など）」が77%、「隣近所の人、地域の知人、友人」が52%となっている。また、3～5歳は、「保育園、学校の保護者の仲間」も42%と多くなっている。

「相談相手がない」、「相談すべきことがない」は僅かで1%となっている。



※ 世帯別にみると、親と子の世帯は「その他の親族」が8割に上るが、同居世帯は6割台にとどまっている。

※ 地区別にみると、吉原地区は、「その他の親族」が9割台に上り、「保育園、学校の保護者の仲間」も5割と高い。田井地区は、「隣近所の人、地域の知人、友人」が7割近くとなっている。

※ 育児支援別にみると、預かってくれる人がいない回答者は、「職場の同僚」、「役場の窓口・保健師」以外は、預かってくれる人がいる回答者よりも回答率が低く、「相談相手がない」が2割台となっ

ている。

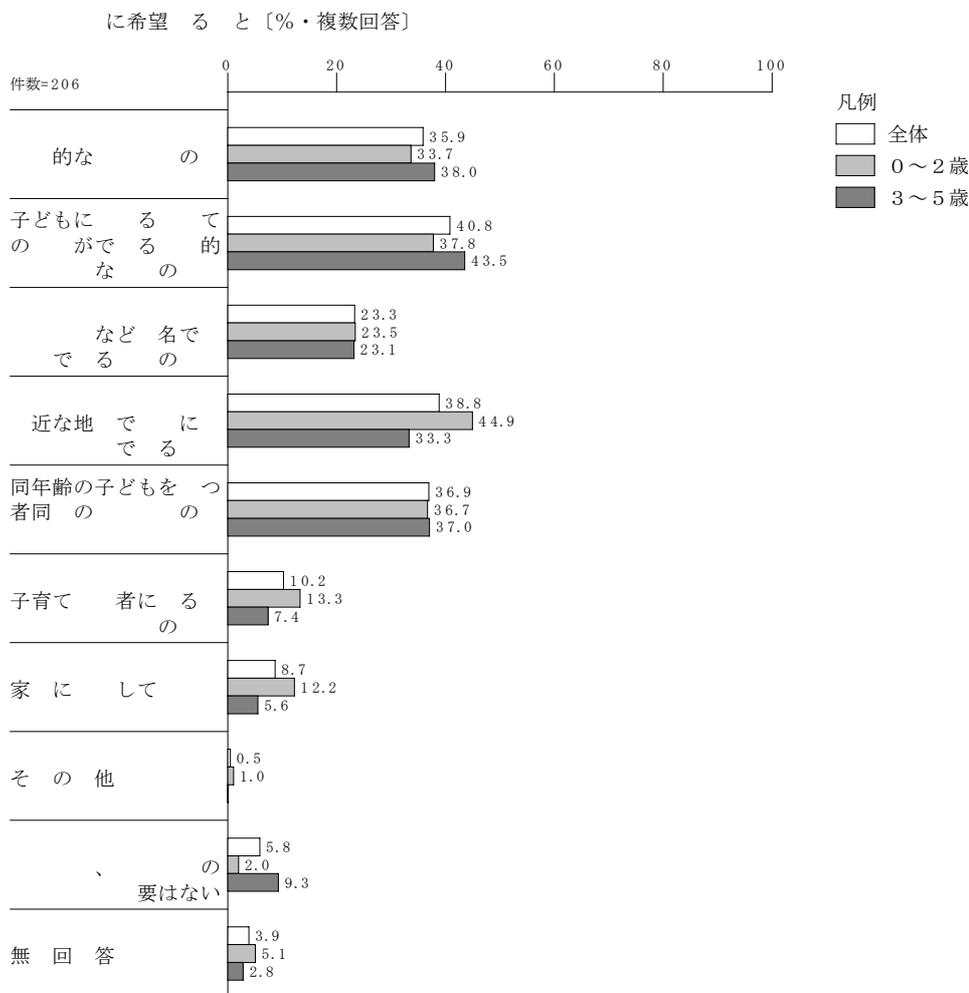
※ 保護者の就労状況別にみると、共働き世帯は、「職場の同僚」、「保育士」が3割台となり、片働き世帯よりも2割程度高い。

※ 保育先別にみると、町内の幼稚園・保育園に通園している回答者は、件数は少ないものの、「保育園、幼稚園、学校の保護者の仲間」が7割近くとなっている。また、事業所内の保育施設を利用している回答者は、件数は僅かであるものの、ほぼ全員が「保育士」と回答している。

### (3) 相談先に希望すること

【あなたは、お子さんの子育てに関する相談先、相談場所にどのようなことを希望しますか】

全体的に回答が多く、0～2歳は「身近な地域で気軽に相談できる場所」が45%と最も多く、次いで、「子どもに関わるすべての相談ができる総合的な窓口の設置」が38%、「同年齢の子どもを持つ者同士の情報交換の機会」が37%、「専門的な相談機関の充実」が34%となっている。3～5歳は、「子どもに関わるすべての相談ができる総合的な窓口の設置」が44%と最も多く、次いで、「専門的な相談機関の充実」が38%、「同年齢の子どもを持つ者同士の情報交換の機会」が37%、「身近な地域で気軽に相談できる場所」が34%となっている。



※ 年齢別にみると、0歳は6割近くが「身近な地域で気軽に相談できる場所」と回答している。4歳は、「子どもに関わるすべての相談ができる総合的な窓口の設置」が5割台と高い。

※ 世帯別にみると、親と子の世帯は、「専門的な相談機関の充実」、「子どもに関わるすべての相談ができる総合的な窓口の設置」が同居世帯よりも1割程度高くなっている。同居世帯は、「身近な地域で

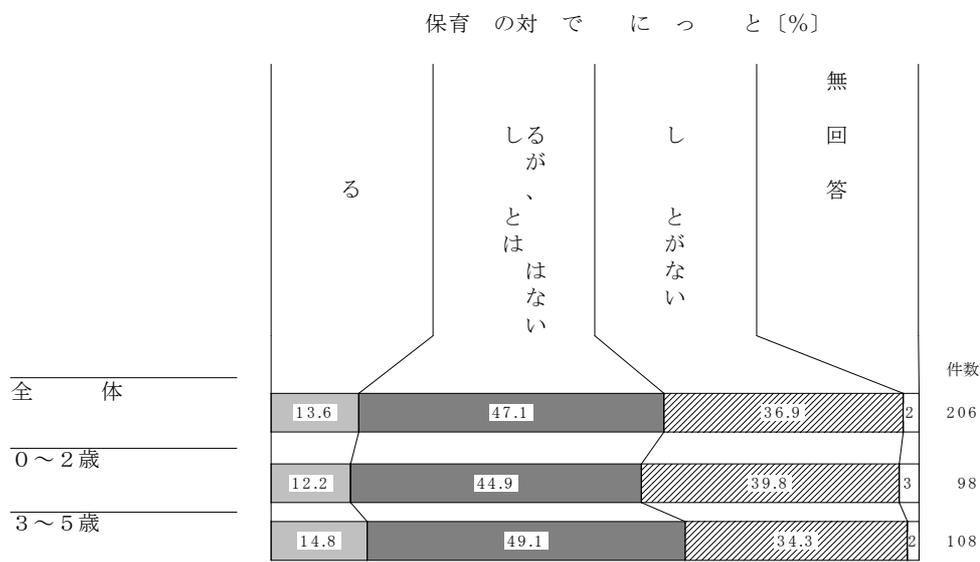
気軽に相談できる場所」が 4 割台となり、親と子の世帯よりも 1 割程度高い。

- ※ 地区別にみると、吉原地区は、「同年齢の子どもを持つ者同士の情報交換の機会」が 5 割台に上る。
- ※ 育児支援別にみると、預かってくれる人がいる回答者は全体的に回答率が高い。
- ※ 子育てで悩むことがよくある回答者は、「専門的な相談機関の充実」が 5 割台に上る。

#### (4) 役場や保育先の対応で不満に思ったこと

【出産・育児に関する役場の窓口や学校での対応について、不満に思ったことはありますか】

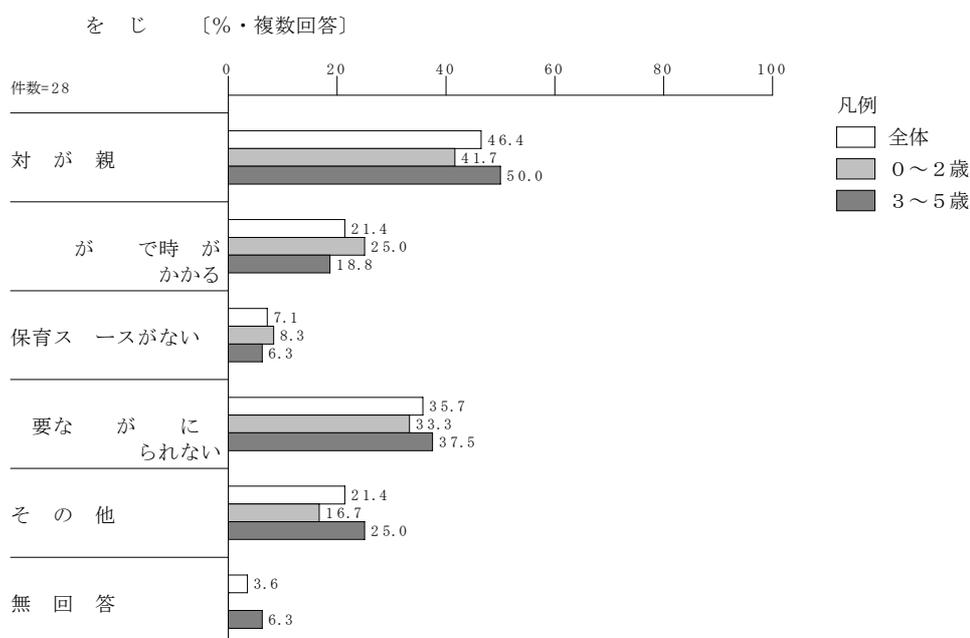
「利用したことはあるが、不満はない」が最も多く、全体では47%を占め、「利用したことがない」は37%、不満に思ったことが「ある」は14%となっている。



- ※ 年齢別にみると、1歳は、不満が「ある」が2割台とやや高い。
- ※ 地区別にみると、田井地区は、「利用したことがない」が5割と半数を占めている。
- ※ 子育てで悩むことがよくある回答者は、不満が「ある」が3割近くを占めている。

【(不満がある回答者を対象) どのような点に、不満を感じましたか】

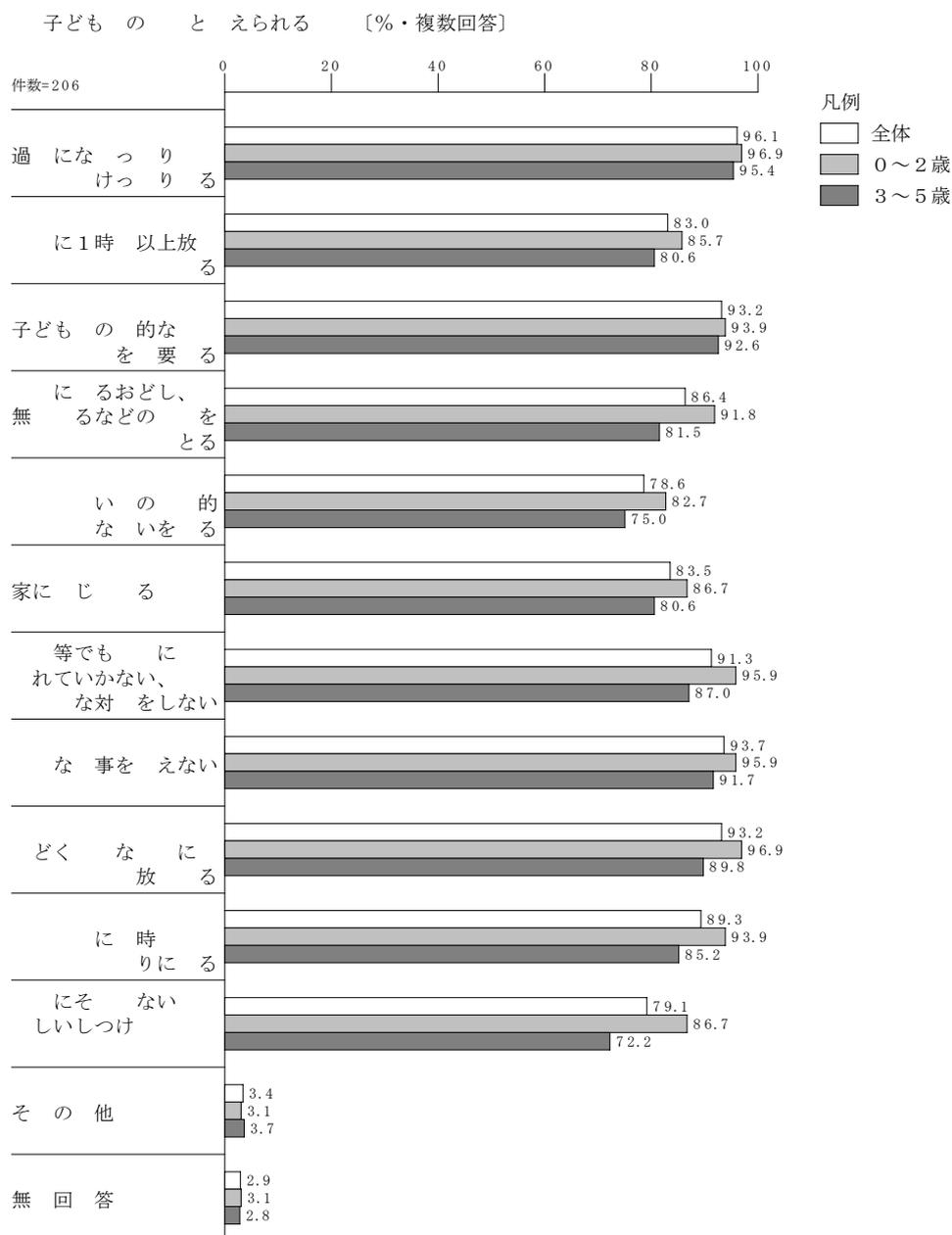
「対応が不親切」が最も多く、全体では46%に上り、次いで、「必要な情報がすぐに得られない」が36%、「手続きが面倒で時間がかかる」が21%となっている。



- ※ 保護者の就労状況別にみると、共働き世帯は、「対応が不親切」が6割台に上り、片働き世帯よりも4割以上高い。

## (5) 子どもへの虐待と考える行為

【「子どもへの虐待」と考える行為はどのようなものだと思いますか】全体的に回答率が極めて高く、虐待に対する認識が高い様子がうかがえる。中でも、「過剰になぐったりけったりする」が96%、「子どもへの性的な行為を強要する」が93%、「病気等でも病院に連れていかない、適切な対応をしない」が91%、「適切な食事を与えない」が94%と多い。一方で、「きょうだい間の差別的な扱いをする」、「発達にそぐわない厳しいしつけや行動制限」は8割を割っている。また、全体的に0～2歳の方が3～5歳よりも高い割合となっている。



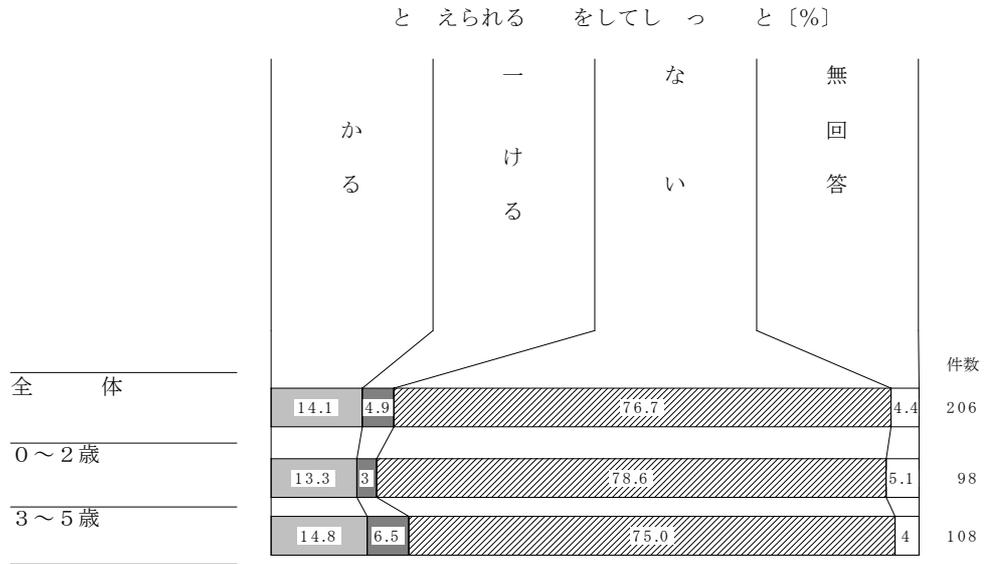
※ 年齢別にみると、3歳は他の年齢と比較して全体的に割合が低く、「発達にそぐわない厳しいしつけや行動制限」は7割を割っている。

※ 世帯別でみると、同居世帯は親と子の世帯を比較すると全体的に割合が低く、「きょうだい間の差別的な扱いをする」、「発達にそぐわない厳しいしつけや行動制限」は6割台にとどまっている。

※ 育児支援別にみると、預かってくれる人がいない回答者は、全体的に回答率は低く、「発達にそぐわない厳しいしつけや行動制限」は6割を割っている。

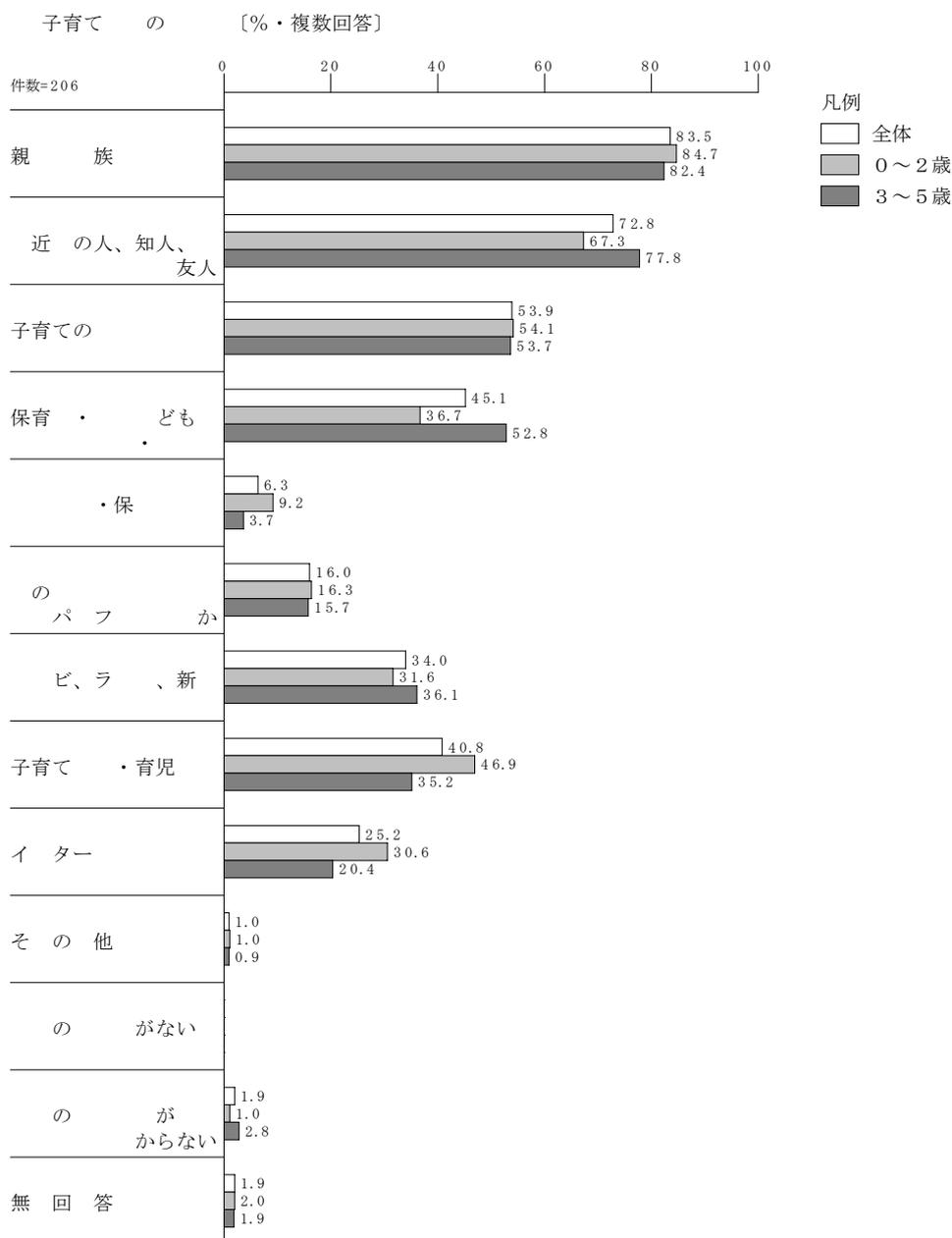
(6) 虐待と考えられる行為をしてしまったこと

【あなたは(5)のような行為をしてしまったことがありますか】大多数が「ない」と回答しており、全体では77%を占めている。なお、「何度もある」は14%となっている。



## (7) 子育て情報の入手先

【子育てに関する情報を、どこから入手していますか】「親族」が最も多く、全体では84%に上る。次いで、0～2歳は「隣近所の人、知人、友人」が68%、「子育ての仲間」が54%、「子育て雑誌・育児書」が47%、「保育園・認定こども園・幼稚園」が37%と多い。3～5歳は「隣近所の人、知人、友人」が78%、「子育ての仲間」が54%、「保育園・認定こども園・幼稚園」が53%、「テレビ、ラジオ、新聞」が36%と多い。



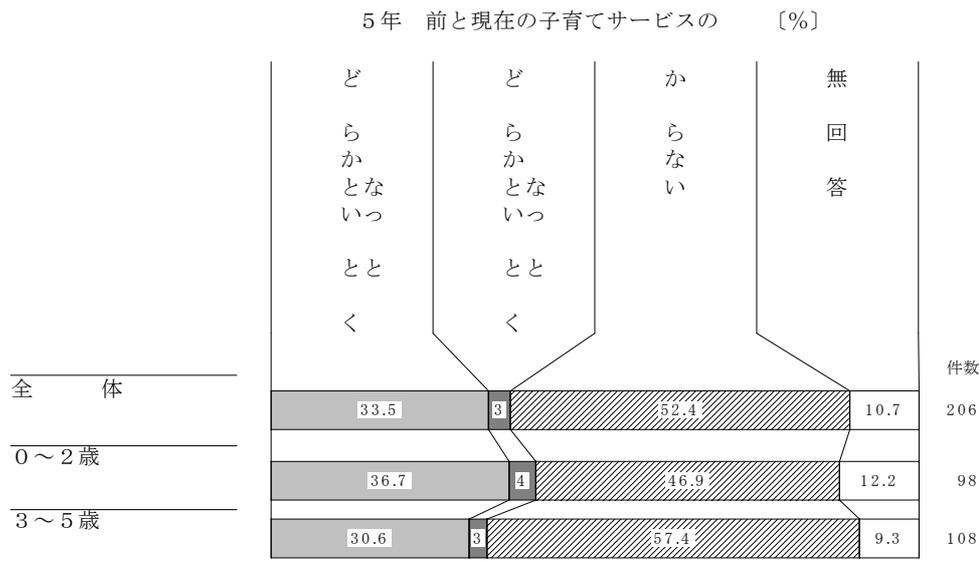
- ※ 年齢別にみると、0歳は「子育て雑誌・育児書」が5割台に上る。3歳は「保育園・認定こども園・幼稚園」が6割台と高い。
- ※ 世帯別にみると、親と子の世帯は全体的に同居世帯よりも回答率が高い。
- ※ 地区別にみると、田井地区は、「子育て雑誌・育児書」が6割近くとなり、全体よりも2割程度高い。
- ※ 育児支援別にみると、預かってくれる人がいる回答者は全体的に回答率が高く、中でも「親族」は8割台となり、預かってくれる人がいない回答者よりも4割程度高い。ただし、「子育て雑誌・育児書」は、預かってくれる人がいない回答者の割合が高く、5割台となっている。

※ 保護者の就労状況別にみると、片働き世帯は比較的共働き世帯よりも回答率が高く、中でも「テレビ、ラジオ、新聞」は4割台と、共働き世帯よりも2割程度高い。

※ 保育先別にみると、町外の幼稚園・保育園に通園している回答者は、「保育園・認定こども園・幼稚園」が7割台に上り、全体よりも3割近く高い。

### (8) 5年位前と現在の子育てサービスの比較

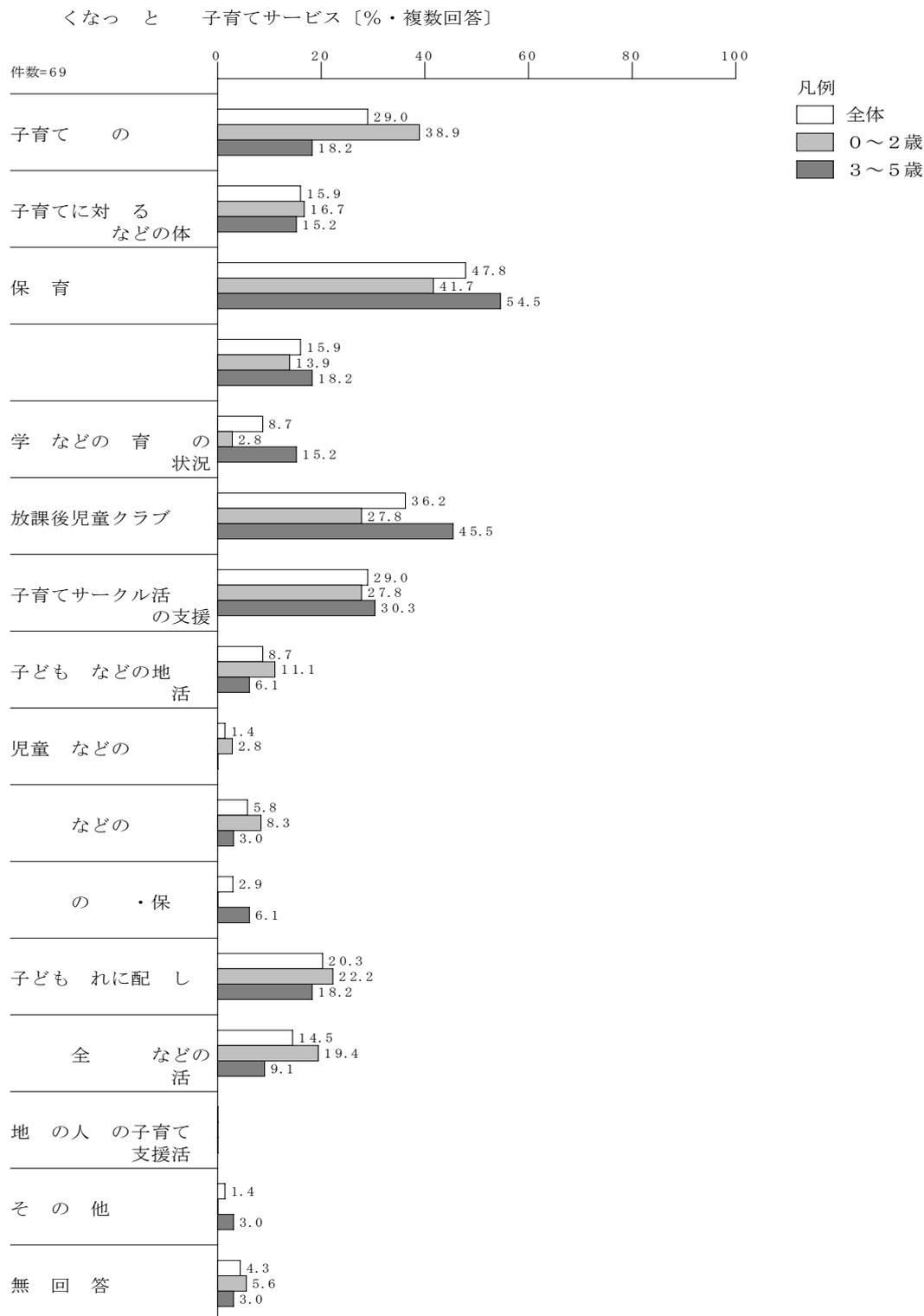
【以前(5年前位)に比べて、子育て支援サービスは良くなったと思いますか】「変わらない」が最も多く、全体では52%を占めているが、3～5歳は57%と特に多く、0～2歳よりも1割程度高い。「どちらかというと言くなったと思う」は、全体では34%となっている。



※ 地区別にみると、新浜地区は「どちらかというと言くなったと思う」が5割を占めている。

※ 保育先別にみると、事業所内保育施設を利用している回答者は件数が僅かであるものの、「どちらかというと言くなったと思う」が8割台に上る。

【「良くなったと思うサービス」】「保育園」は最も多く、全体では48%に上るが、3～5歳の回答が55%と特に多く、0～2歳よりも1割以上高い。次いで、0～2歳は、「子育て情報の提供」が39%、「放課後児童クラブ」及び「子育てサークル活動への支援」が28%と多く、3～5歳は「放課後児童クラブ」が46%、「子育てサークル活動への支援」が30%となっている。

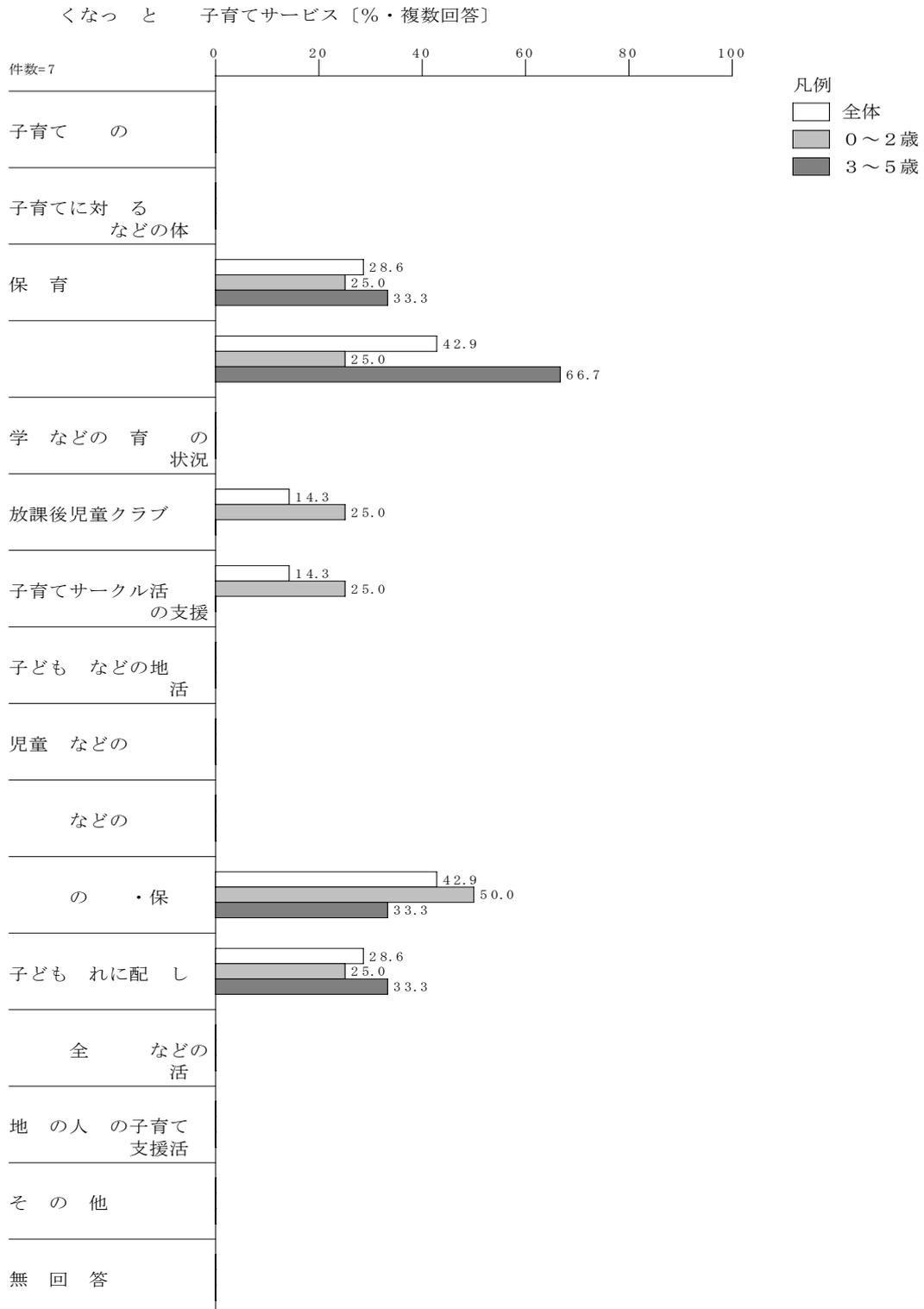


- ※ 年齢別にみると、5歳は件数が少なく、「放課後児童クラブ」に回答が集中しており、7割近い。
- ※ 世帯別にみると、同居世帯は「保育園」が7割近くとなり、「放課後児童クラブ」が6割近い。
- ※ 保護者の就労状況別にみると、共働き世帯は、「保育園」に回答が集中しており、6割台となっている。

る。

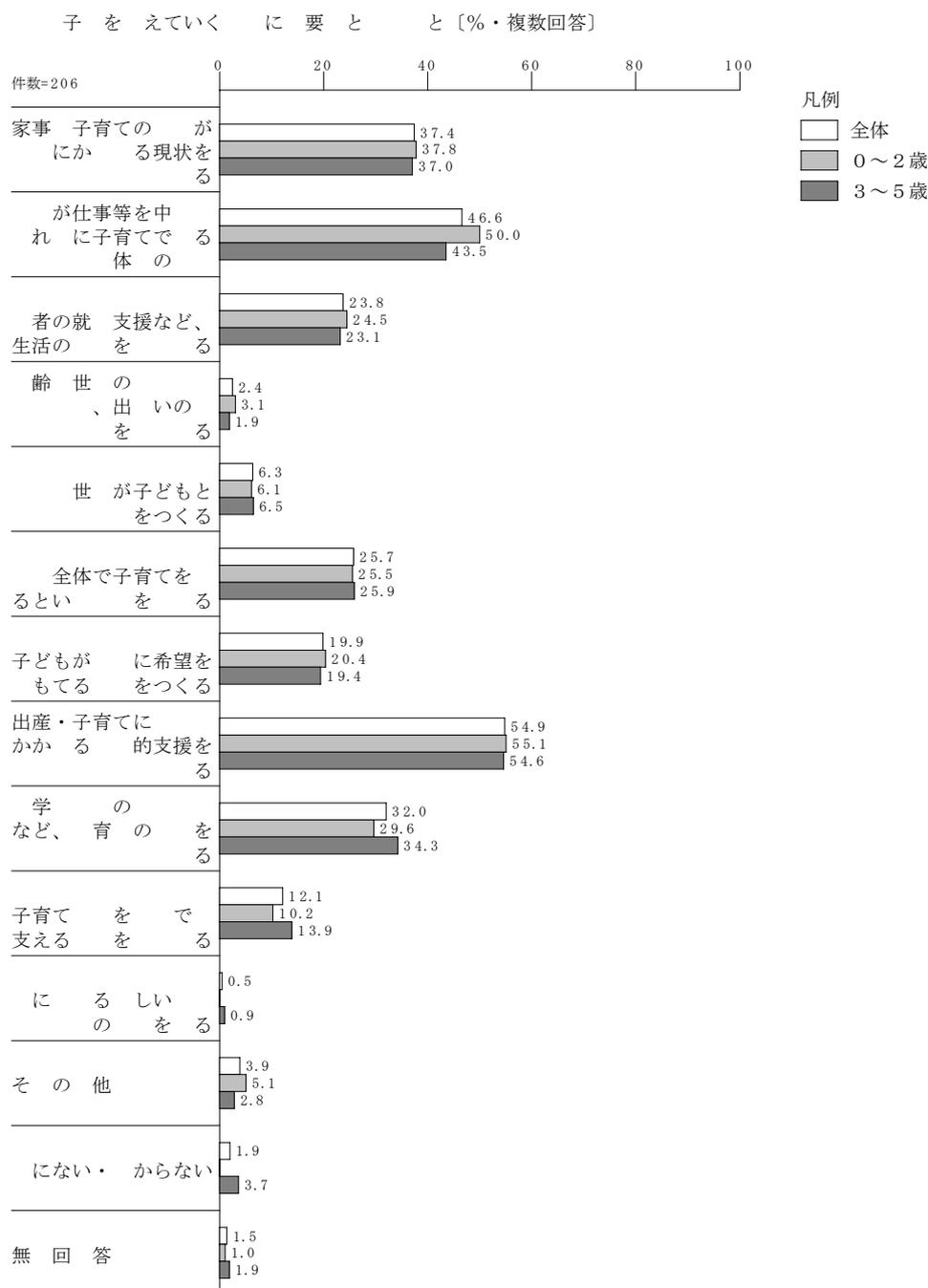
※ 保育先別にみると、ひまわりこども園に通園している回答者は、「保育園」に回答が集中しており、6割台となっている。

【(悪くなったと思うサービス)】回答件数は7件と僅かであるが、「幼稚園」が67%に上る。



## (9) 少子化を変えていくために重要だと思うこと

【少子化の流れを変えていくためには、今後どのようなことが重要だと思いますか】「出産・子育てにかかわる経済的支援を充実する」が最も多く、全体では55%に上り、次いで、「男女が仕事等を中断されずに子育てできる体制の整備」が47%、「家事や子育ての負担が女性にかたよる現状を改善する」が37%、「奨学金制度の充実など、教育費の負担を軽減する」が32%と多い。



※ 年齢別にみると、0歳は、「男女が仕事等を中断されずに子育てできる体制の整備」が6割に上り全体よりも1割以上と高い。

※ 世帯別にみると、同居世帯は全体的に親と子の世帯よりも回答率が低いですが、「出産・子育てにかかわる経済的支援を充実する」は7割近くとなり、全体よりも1割程度高い。

※ 地区別にみると、田井地区は、「男女が仕事等を中断されずに子育てできる体制の整備」が6割台となり、全体よりも1割以上高い。

※ 育児支援別にみると、預かってくれる人がいない回答者は、「家事や子育ての負担が女性にかたよる現状を改善する」も5割台に上り、預かってくれる人がいる世帯よりも1割以上高い。預かってくれる人がいる世帯は、「出産・子育てにかかわる経済的支援を充実する」、「奨学金制度の充実など、教育費の負担を軽減する」が、預かってくれる人がいない回答者よりも2割程度高い。

※ 保育先別にみると、こじか保育園に通園している回答者は件数が少ないものの、「男女が仕事を中断されずに子育てできる体制の整備」が7割台に上る。

## (10) 自由意見

【町の子育て支援施策に対するご意見やご要望がありましたら、自由にご記入ください】自由意見は29%が記入している。

〔保育サービス等子育て支援施策について〕

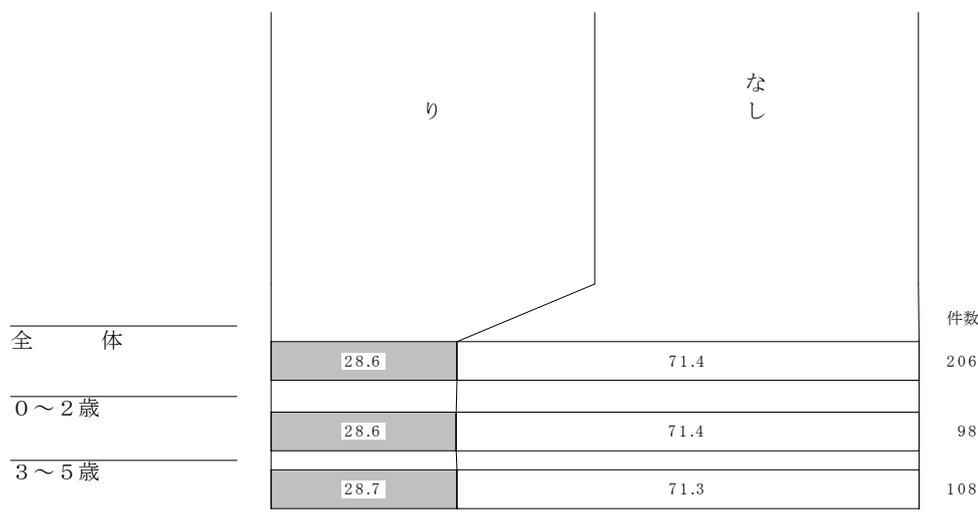
土・日に子どもを預けられるようにしてほしいという意見が最も多い他、年末年始などの長期の休園日への対応、保育園の入園希望を出してもなかなか入園できない現状、一時保育や病児保育に関する記述なども比較的多くみられる。

〔子育てに関する情報提供体制について〕

情報が十分に伝わってこない現状や相談体制の充実を求める意見が多い他、保護者の交流の場・機会を求める意見などもみられる。

〔その他について〕

育児手当や医療費など、経済的負担の軽減や、遊び場の整備に関する意見が多い他、救急医療体制に関する意見もみられる。



### 主な意見

〔児童館・放課後児童クラブや小学校に関して〕

- 日・祝日、親が仕事で子どもをどこにも預けられない家庭もあると思う。そういう場合にも心よく受け入れてくれる施設があるととっても働きやすいのであるが。
- 保育を希望する人は、だいたい勤めている人が多いと思うので、土・日でも頑張ってもらいたい。また子どもにも安心して通ってほしいので別の場所ではなく、普段と同じ園での保育を希望したい。
- 現在ひまわりこども園に通っているが、年末年始休みが長いので、仕事中的子どもの預け先について

迷っている。30 日くらいまで見てくれると助かる。仕事があまりないため、保育日数を増やしてほしい。  
(子どもを預けられる人がいないため)

- 子どもが病気の時に見てもらえる保育サービスがあればいい。
- もっとひまわりこども園の一時保育を利用しやすくしてほしい。給食も受けられるようにしてほしい。妊娠中、産後ともにもっと気軽に申し込みできるなら利用したかもしれない。ファミリーサポートがあれば送迎等お願いしたかもしれない。

[情報提供や相談体制のこと]

- ほとんど利用した事がないので分からないが、町でどういう事をしているのかが知りたい。
- あまり充実しているとは感じない。こちらから聞かないと答えてくれないという感じではないか。
- 推進委員や保健師などをしていた方などで、月に何回か場所を設けて(つどいのへやなど)子どもを遊ばせながら意見交換など行う。町のホームページなどを利用する。未就園児でも年齢に差があるので月齢別に相談日を設けたりする。子育ての悩みは毎日その時にあるのだから、役場にフリーダイヤルか専用番号を設定し、相談にのる。

[その他について]

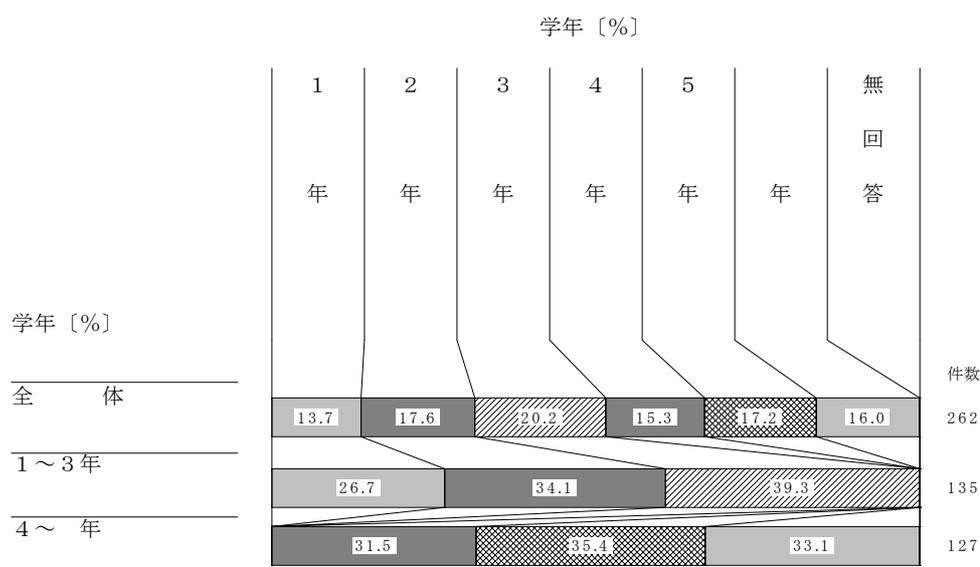
- 子どもを安全に遊ばせられる公園の整備をしてほしい。美浜町にはあまり小さい子を遊ばせられる場がない。
- インフルエンザなどの予防接種について。幼児は 2 回の接種が必要という事で兄弟が多いとかなりの金額になってくる。せめて 1 回分の援助(補助)、65 歳以上のような 1,000 円で接種できるというような事はできないのであろうか。
- 物価は上がるが給料はそのままなので、少子化にならないようもっと育児手当を増やすべきだと思う。子どもにかかる費用も含む。
- 子どもが急病の時、土曜の午後と日曜日は診ていただける所が出てきてありがたく思っているが、夜間に対応してもらえる所が近くにないのが不安である。

# 小学生児童保護者

## -1 回答者の状況

### (1) 学年

【宛名のお子さんの学年】「3年」が20%とやや多いが、他の学年はほぼ均等に分布しており、1～3年、4～6年もほぼ同数となっている。平均学年は「3.5年」となっている。



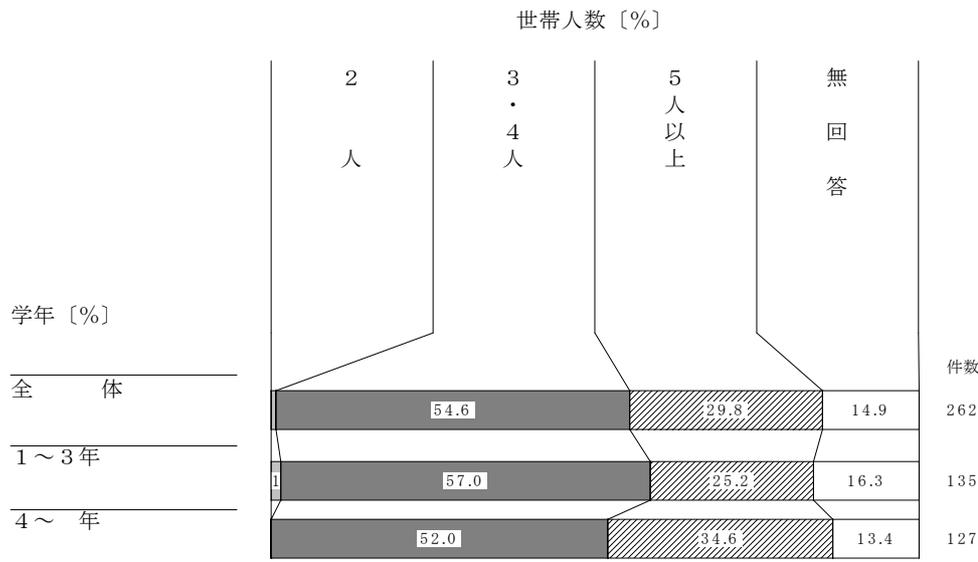
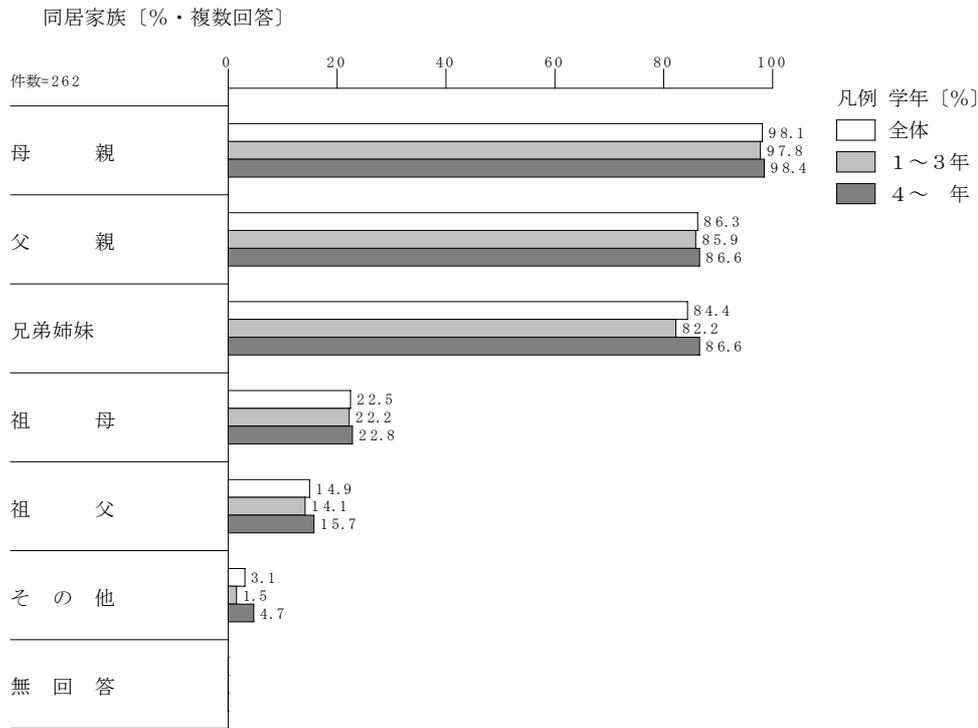
※ 地区別にみると、吉原地区は4～6年の割合が6割台とやや高い。

※ 育児支援別にみると、預かってくれる人がいない回答者は4～6年の割合が高く、6割を占めている。

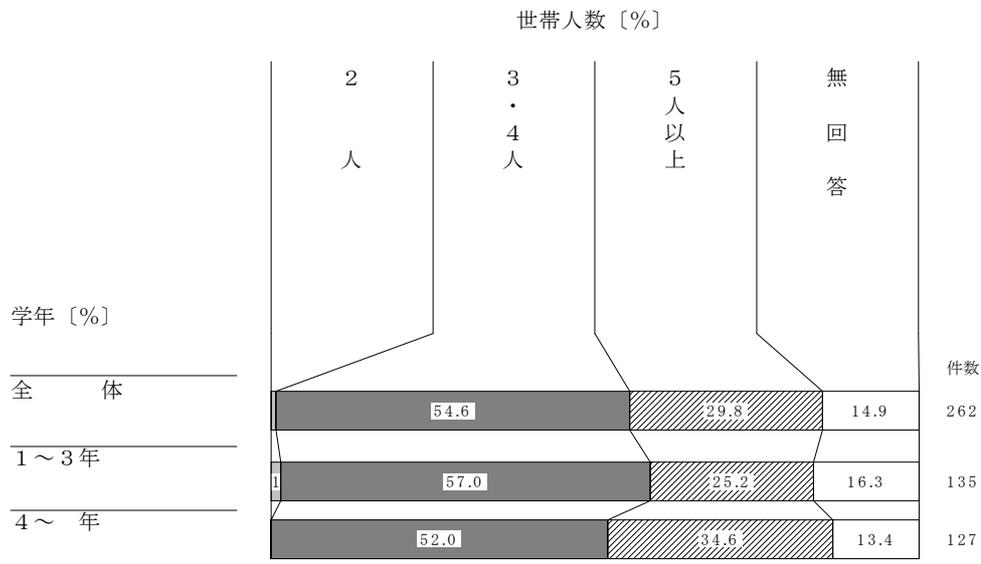
### (2) 世帯状況

【同居家族】「母親」は全体で98%に上り、ほぼ全員が回答している。次いで「父親」が86%、「兄弟姉妹」が84%、「祖母」が23%、「祖父」が15%となっている。なお、兄弟姉妹は、就学前児童よりも1割以上高い割合となっている。

【世帯人数】全体では「3・4人」が最も多く過半数を占めているが、4～6年は「5人以上」が35%と、1～3年よりも1割程度高く、上級の学年の方が世帯人数は多い状況がうかがえる。なお、世帯人数の平均は「4.5人」となっている。



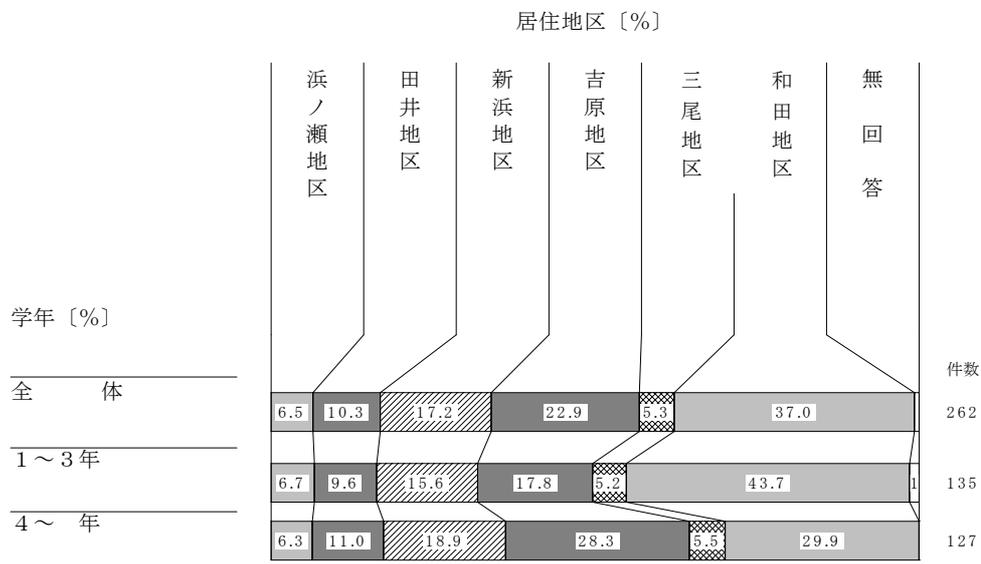
- ※ 学年別にみると、1年は、「3・4人」が7割近くを占めている。
- ※ 世帯別にみると、同居世帯は「父親」との同居が7割台にとどまっているが、祖父母との同居率は高く、「祖母」が9割台、「祖父」が6割台となっている。世帯人数は、親と子の世帯は、「3～4人」が6割台を占めるが、同居世帯は「5人以上」が7割台を占める。
- ※ 地区別にみると、浜ノ瀬地区は、「父親」との同居が7割台にとどまっているが、祖父母との同居率が比較的高く、「祖母」が5割近く、「祖父」が3割程度となっている。吉原地区は、世帯人数が比較的多く、「5人以上」が4割台となっている。



- ※ 年齢別にみると、年齢が上がるほど世帯人数は増え、4歳以上は過半数が「5人以上」と回答している。
- ※ 世帯別にみると、同居世帯は9割近くが「5人以上」と回答しており、平均年齢は「6.2歳」となる。
- ※ 育児支援別にみると、預かってくれる人がいない回答者は、いない回答者よりも世帯人数が少なく、「3・4人」が過半数を占めている。

### (3) 居住地区

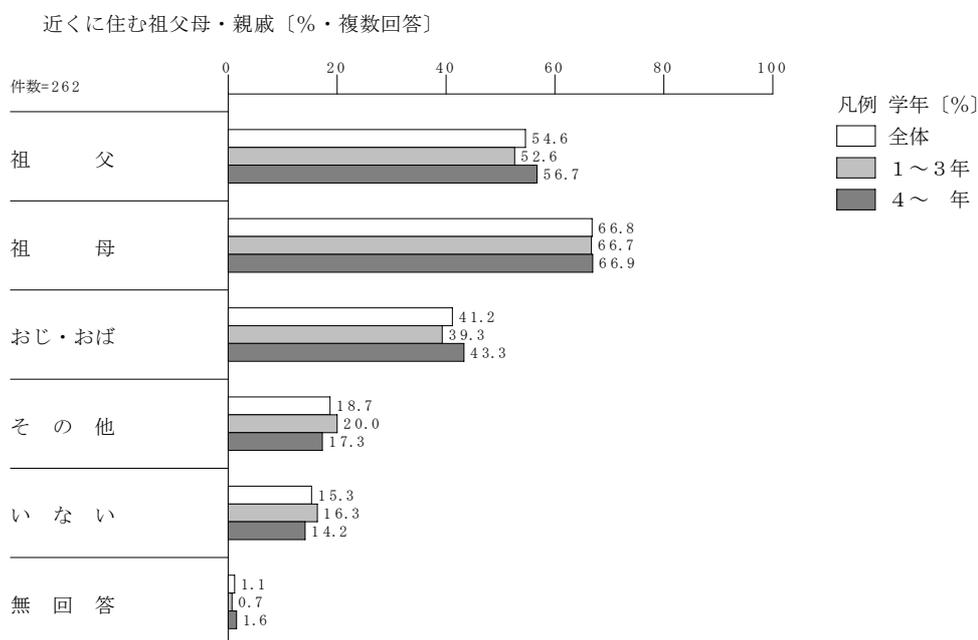
【居住地区】1～3年は、「和田地区」が44%、4～6年は「三尾地区」が30%と多く、「吉原地区」が23%と多くなっている。



- ※ 学年別にみると、1年は「三尾地区」が5割を占めている。
- ※ 育児支援別にみると、預かってくれる人がいない回答者は、「三尾地区」が5割を占めている。

#### (4) 近隣の親族

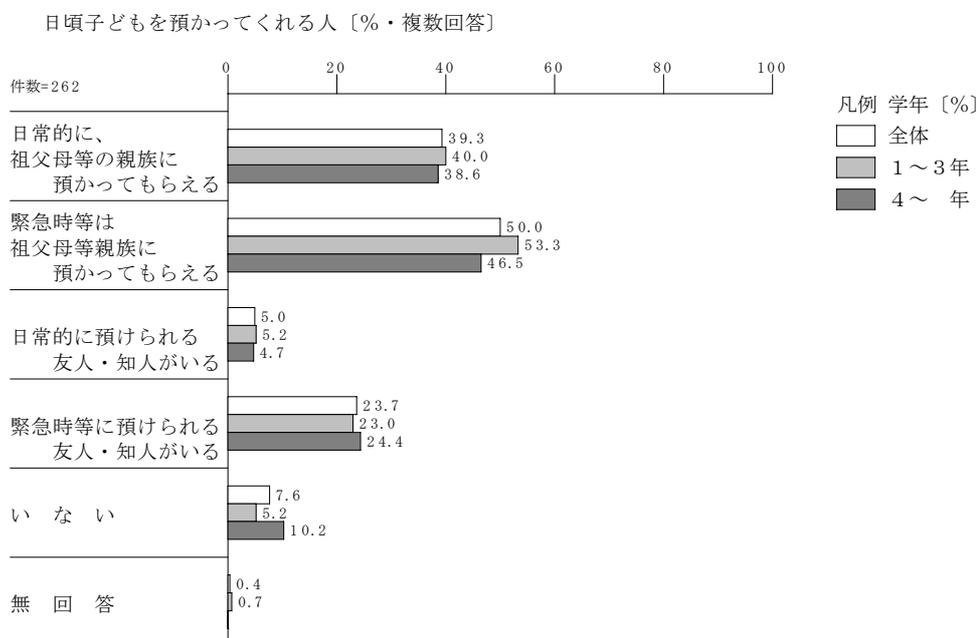
【概ね30分以内程度で行き来できる範囲に、祖父母や親戚などがいますか】「祖母」が最も多く、全体では67%に上り、次いで、「祖父」が55%、「おじ・おば」が41%となっている。



- ※ 学年別にみると、1・5年は、「おじ・おば」の割合が高く、5割台となっている。
- ※ 世帯別にみると、親と子の世帯は、「祖父」が6割台、「祖母」が7割台に上る。
- ※ 育児支援別にみると、預かってくれる人がいない回答者は、近くに祖父母・親戚もなく、「いない」が過半数を占めている。
- ※ 保護者の就労状況別にみると、共働き世帯は祖父母が近くに住む割合が高く、片働き世帯よりも1割程度高くなっている。

## (5) 子どもを預けられる人

【日頃、お子さんを預かってもらえる人はいませんか】「緊急時等は祖父母等親族に預かってもらえる」が最も多く、全体では50%に上り、次いで、「日常的に、祖父母等の親族に預かってもらえる」が39%、「緊急時等に預けられる友人・知人がいる」が24%となっている。また、「いない」は8%となっている。



- ※ 学年別にみると、1年は、「緊急時等は祖父母等親戚に預かってもらえる」が6割台と特に高い。4年は、「日常的に、祖父母等の親族に預かってもらえる」が5割台と最も高い。
- ※ 世帯別にみると、同居世帯は「日常的に、祖父母等親族に預かってもらえる」が7割近くとなり、親子の世帯は「緊急時等は祖父母等親族に預かってもらえる」が6割近くとなり、同居世帯よりも3割以上高い。
- ※ 地区別にみると、浜ノ瀬地区は、「緊急時等は祖父母等親族に預かってもらえる」が7割台と特に高い。新浜地区は、「日常的に、祖父母等親族に預かってもらえる」が6割に上る。
- ※ 近くに祖父母のいる回答者は、「緊急時等は祖父母等の親戚に預かってもらえる」が6割台に上る。また、祖父母・親戚が近くにいない回答者は、預かってくれる人が「いない」が3割近い。

## -2 保護者の仕事について

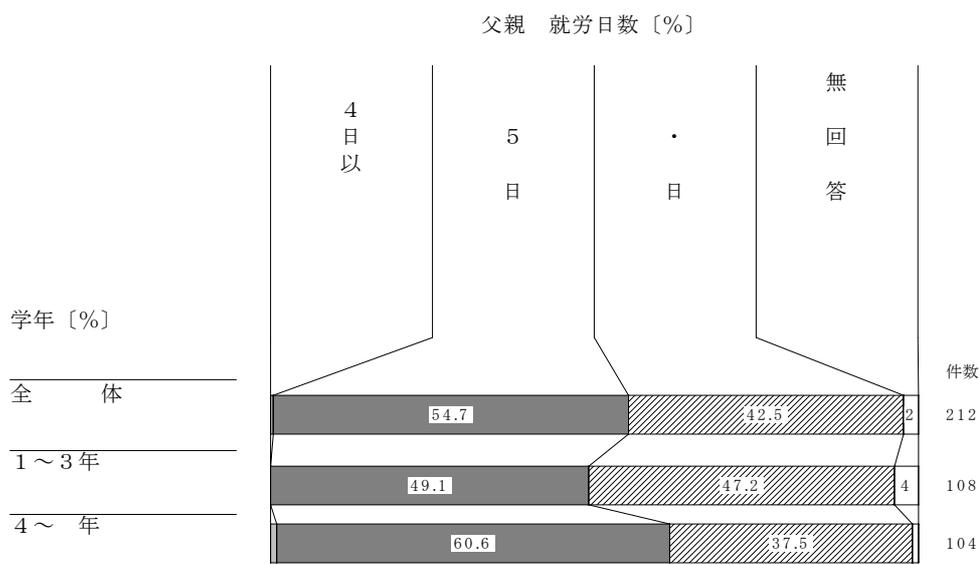
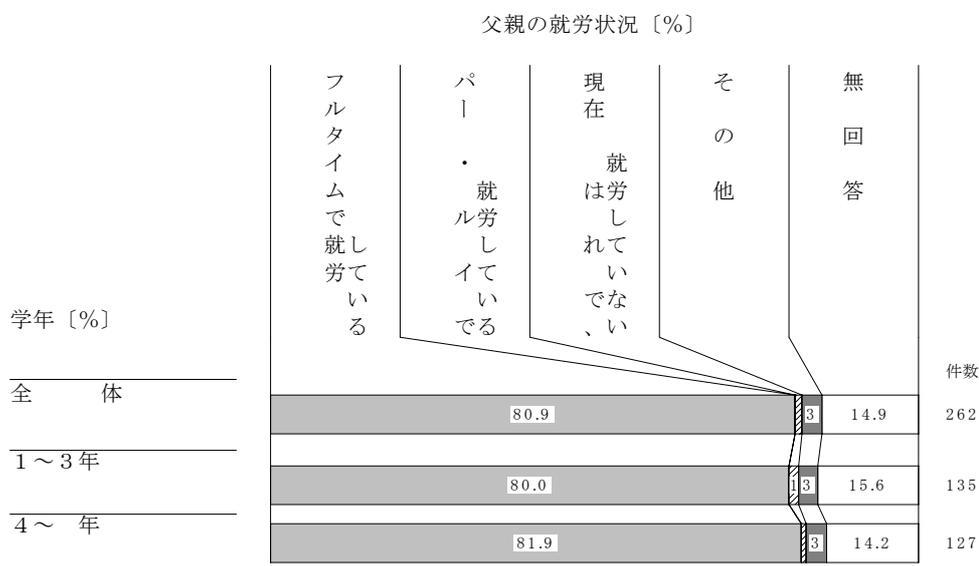
### (1) 父親の就労状況

【父親の就労状況】大多数が「フルタイムで就労している」と回答しており、全体では81%を占めている。

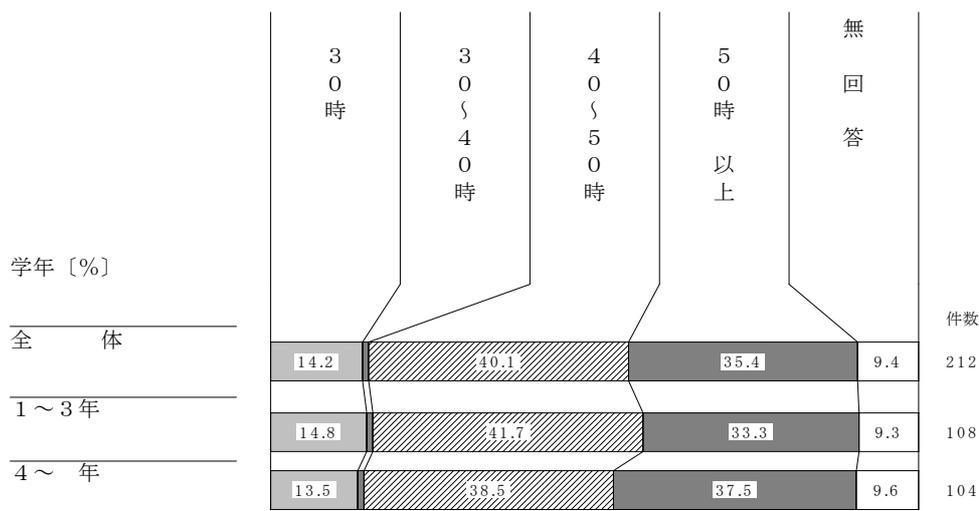
【〔就労している回答者を対象〕父親の就労日数(週当たり)】1～3年は「週5日」が49%、「週6・7日」が47%と同程度となっているが、4～6年は、「週5日」が61%と多く、「週6・7日」は38%を占めている。就労平均日数は「週5.4日」となっている。

【父親の就労時間(週当たり)】「週40～50時間」が40%と最も多く、次いで「週50時間以上」が35%、「週30時間未満」が14%を占めている。平均就労時間は「週51.3時間」となり、就学前児童よりも長い。

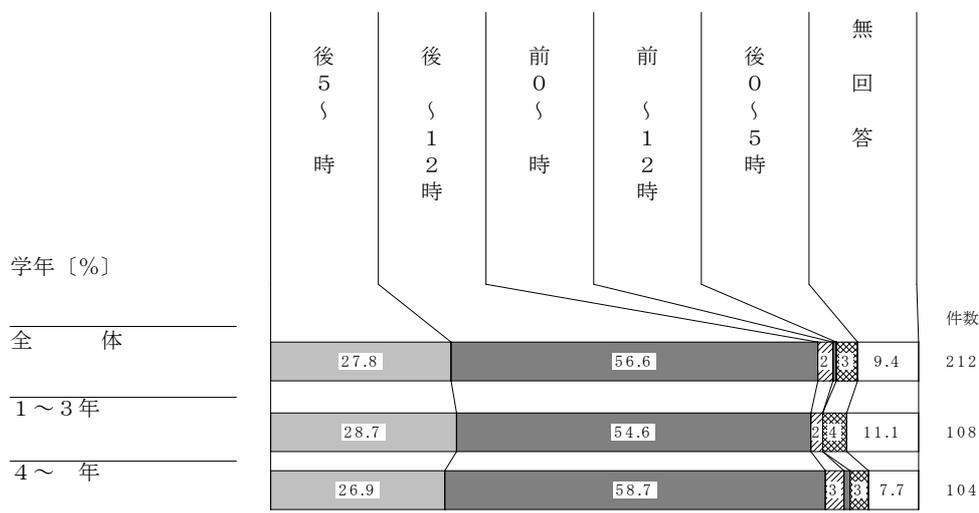
【父親の平均的な帰宅時間】「午後9～12時」が57%と過半数を占め、「午後5～9時」が28%となり、就学前児童よりも遅い時間帯が多い。



父親 平 就労時 [%]



父親 平 的 な 時 [%]



- \* 学年別にみると、3年は、「週6・7日」が5割台と全体よりも1割程度高い。
- \* 世帯別にみると、親と子の世帯は「フルタイムで就労している」が8割台に上り、同居世帯よりも2割近く高い。
- \* 地区別にみると、田井地区では、就労時間は「週30時間未満」が4割台と最も高くなっている。吉原地区は、「午後9～12時」が7割台に上る。
- \* 育児支援別にみると、預かってくれる人がいる回答者は、「フルタイムで就労している」が8割台に上り、預かってくれる人がいない回答者よりも1割程度高い。
- \* 保護者の就労状況別にみると、共働き世帯は、全員が「フルタイムで就労している」が、片働き世帯は7割台となっている。また、就労時間は、「週50時間以上」が4割近くを占めており、片働き世帯よりも1割程度高い。

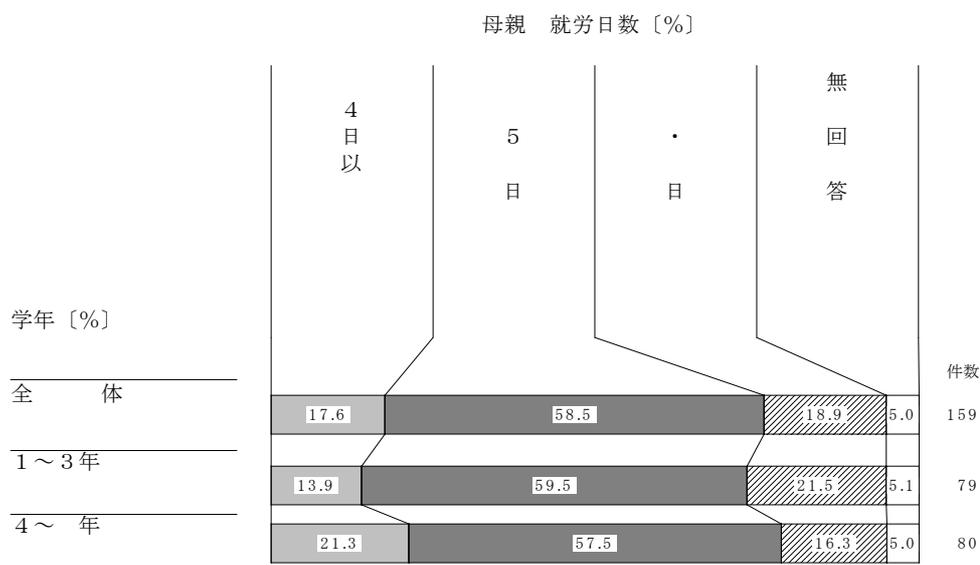
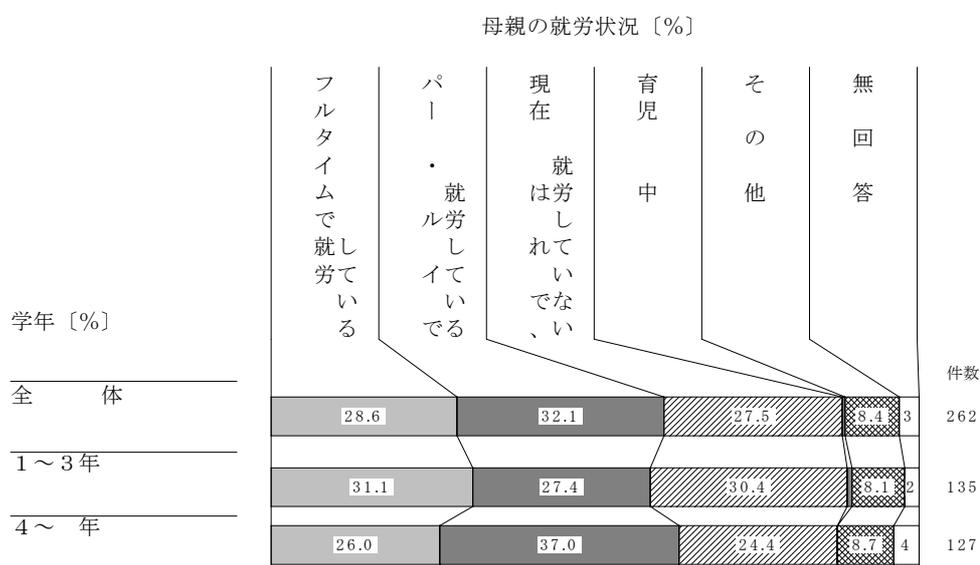
## (2) 母親の就労状況

【母親の就労状況】1～3年は、「フルタイムで就労している」が31%、「パート・アルバイトで就労している」が27%、「現在またはこれまで、就労していない」が30%とほぼ均等に分布しているが、4～6年は、「パート・アルバイトで就労している」が37%と最も多く、次いで「フルタイムで就労している」が26%、「現在またはこれまで就労していない」が24%となっている。全体的に就学前児童よりも共働き世帯の割合が高い。

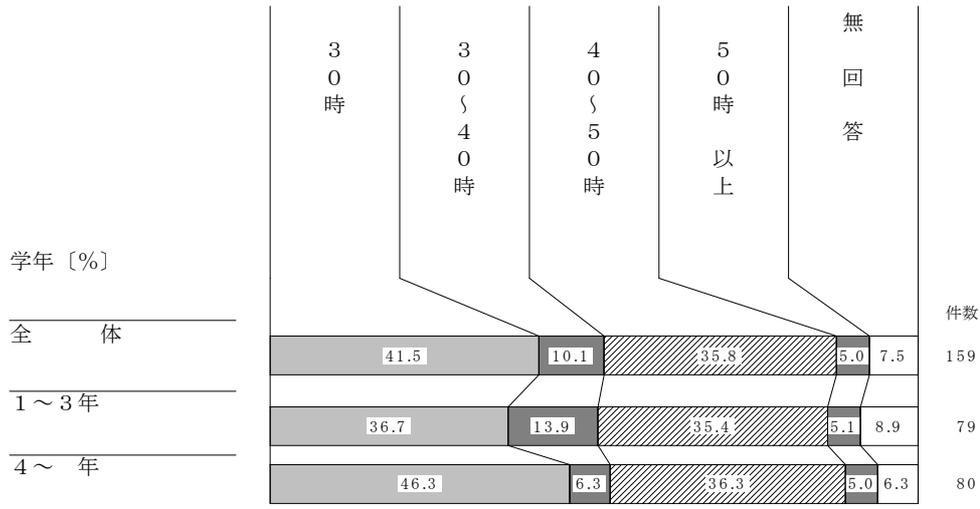
【〔就労している回答者を対象〕母親の就労日数(週当たり)】「週5日」が最も多く、全体では59%となり、次いで「週6・7日」が19%となっている。平均就労日数は「週4.9日」となっている。

【母親の就労時間(週当たり)】1～3年は、「週30時間未満」が37%、「週40～50時間」が35%と多いが、4～6年は、「週30時間未満」が46%と最も多く、次いで、「週40～50時間」が36%となっている。平均就労時間は「週29.4時間」となっている。

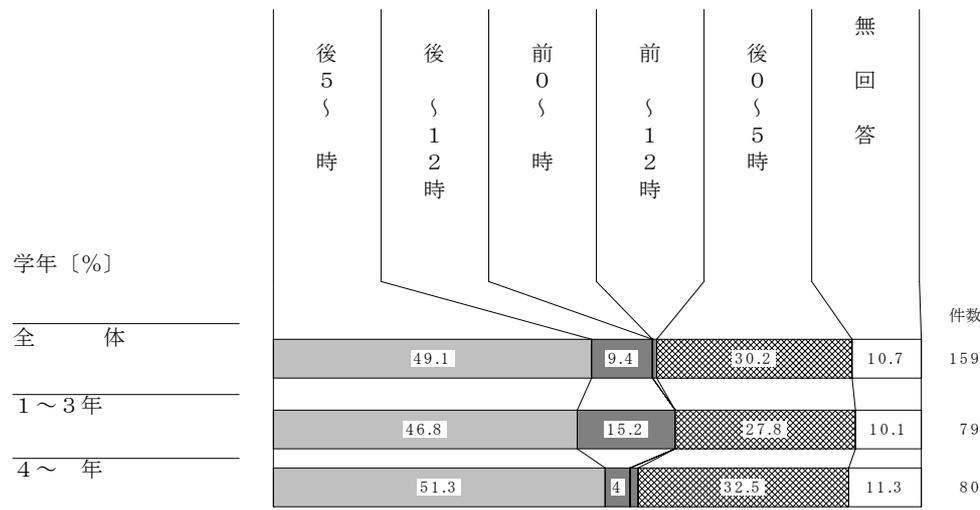
【母親の平均的な帰宅時間】全体では、「午後5～9時」が最も多く、全体では49%を占め、次いで、「午後0～5時」が30%となっている。



母親 平 就労時 [%]



母親 平 的 な 時 [%]



※ 学年別にみると、学年が上がるほど、「パート・アルバイトで就労している」割合が上昇し、6 年は 4 割台に上る。また、1 年は、「現在またはこれまで、就労していない」が 4 割台と高い。就労時間は、2 年は、「週 30 時間」が 5 割台と過半数を占める。帰宅時間は、4 年は「午後 5～9 時」が 6 割台と特に高い。

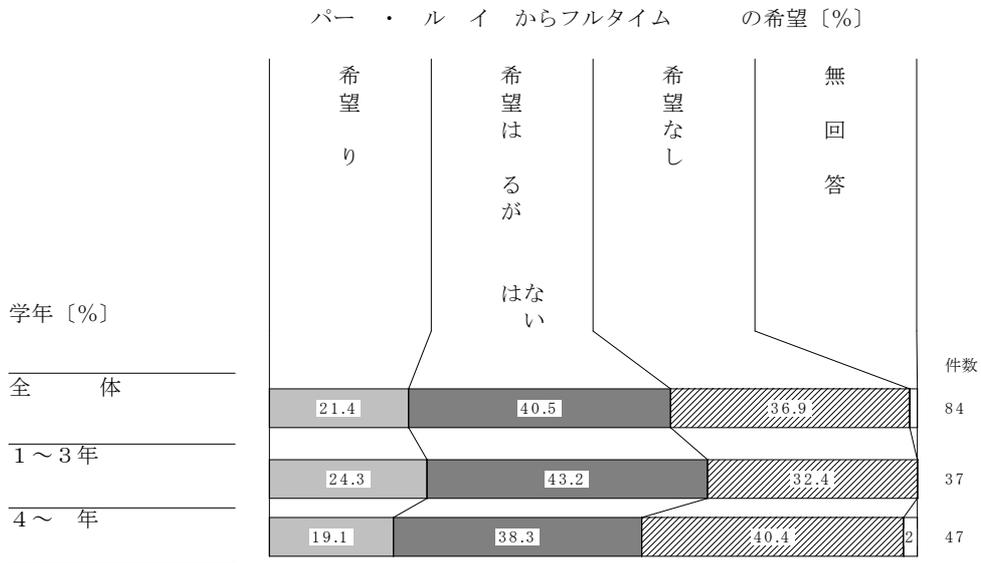
※ 世帯別にみると、同居世帯は、「週 5 日」が 7 割台と特に高い。

※ 育児支援別にみると、預かってくれる人がいない回答者は、「パート・アルバイトで就労している」が 4 割台に上る。

※ 地区別にみると、和田地区は件数が少ないものの、「パート・アルバイトで就労している」が 6 割台に上り、就労時間は「週 30 時間未満」が 7 割に上る。

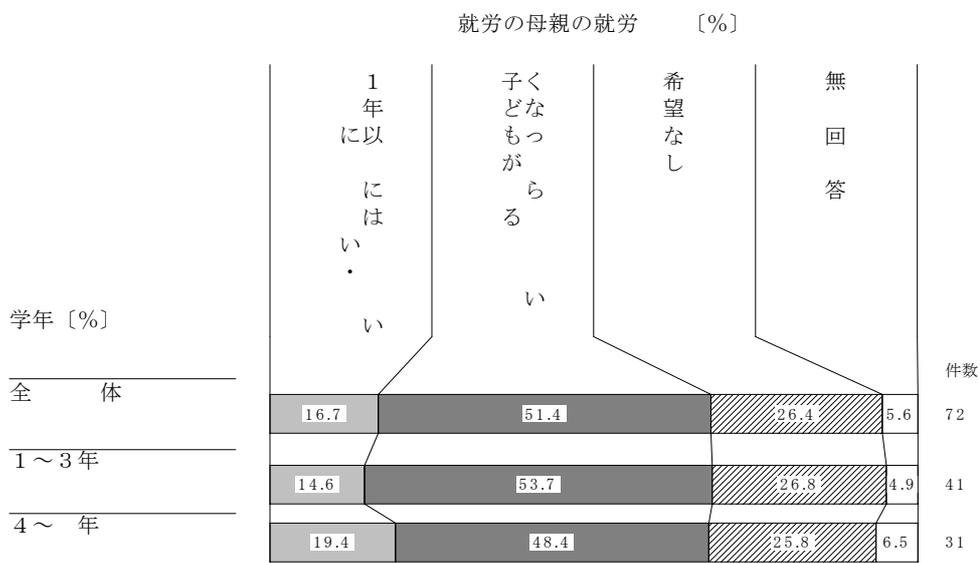
※ 保護者の就労状況別にみると、共働き世帯は、「フルタイムで就労している」が 4 割台、「パート・アルバイトで就労している」が 5 割台となっている。就労日数は、片働き世帯は比較的長く、「週 6・7 日」が 4 割近くとなり、帰宅時間は「午後 9～12 時」が 3 割近くと比較的遅い。

【〔パート・アルバイトの回答者を対象〕フルタイムの働き方にしたいと思っていますか】1～3年は「希望はあるが予定はない」が43%と最も多く、次いで「希望なし」が32%となり、「希望あり」は24%となっている。4～6年は、「希望なし」が40%と最も多く、次いで「希望はあるが予定はない」が38%となり、「希望あり」が19%にとどまり、全体でも就学前児童よりも希望率が低い。



- \* 学年別にみると、3年は希望率が高く、「希望なし」が1割台と低く、「希望あり」若しくは「希望はあるが予定はない」が同率で4割台となっている。
- \* 地区別にみると、三尾地区、「希望あり」が3割台と比較的高い。
- \* 保護者の就労状況別にみると、片働き世帯は件数が少ないものの、「希望あり」若しくは「希望はあるが予定はない」と回答している。

【〔現在または、これまで就労していない回答者を対象〕今後、働きたいと思いますか】「子どもがある程度大きくなったら働きたい」が最も多く、全体では51%を占めており、「希望なし」は26%となり、「すぐに働きたい・1年以内には働きたい」が17%にとどまっている。

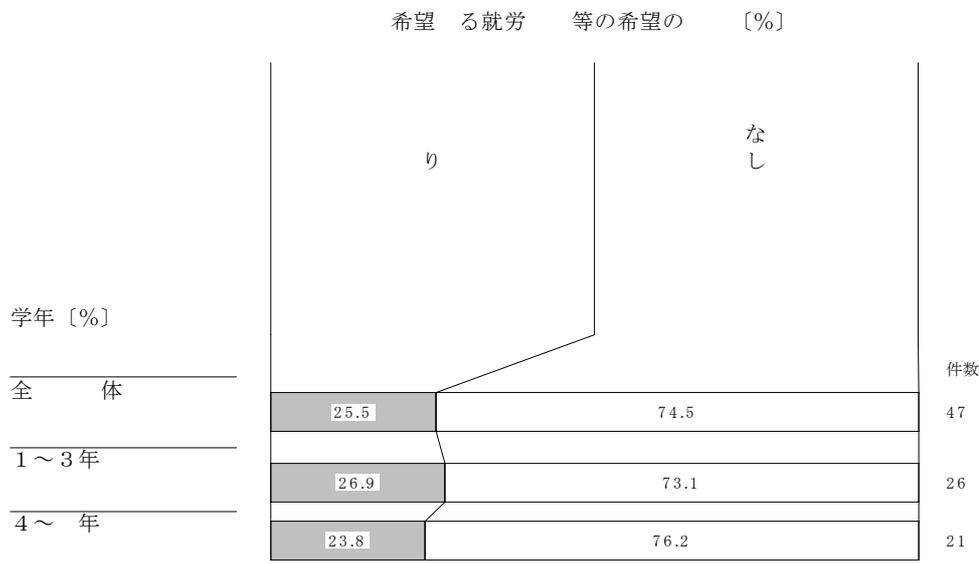
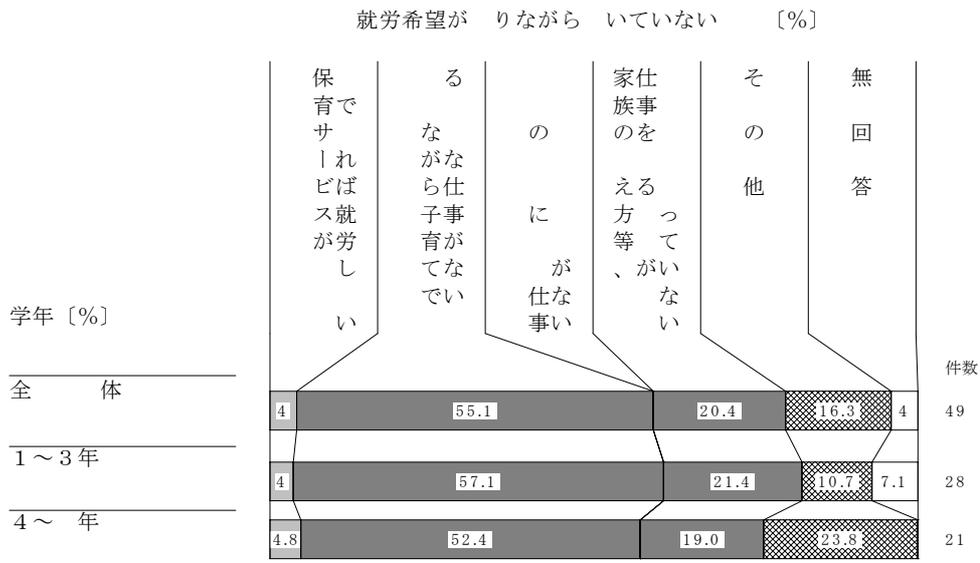


※ 世帯別にみると、同居世帯は、「子どもがある程度大きくなったら働きたい」が6割台に上り、親と子の世帯よりも1割程度高い。

※ 地区別にみると、吉原地区は、「希望なし」が4割台と高い。

【(就労意向のある回答者を対象)就労希望がありながら、現在働いていない理由はなんですか】「働きながら子育てできる適当な仕事がない」が最も多く、全体では55%を占め、「家族の考え方等、仕事をする環境が整っていない」が20%となっている。

【希望する就労形態等の希望】26%が回答している。



※ 世帯別にみると、同居世帯は、「働きながら子育てできる適当な仕事がない」が7割近い。

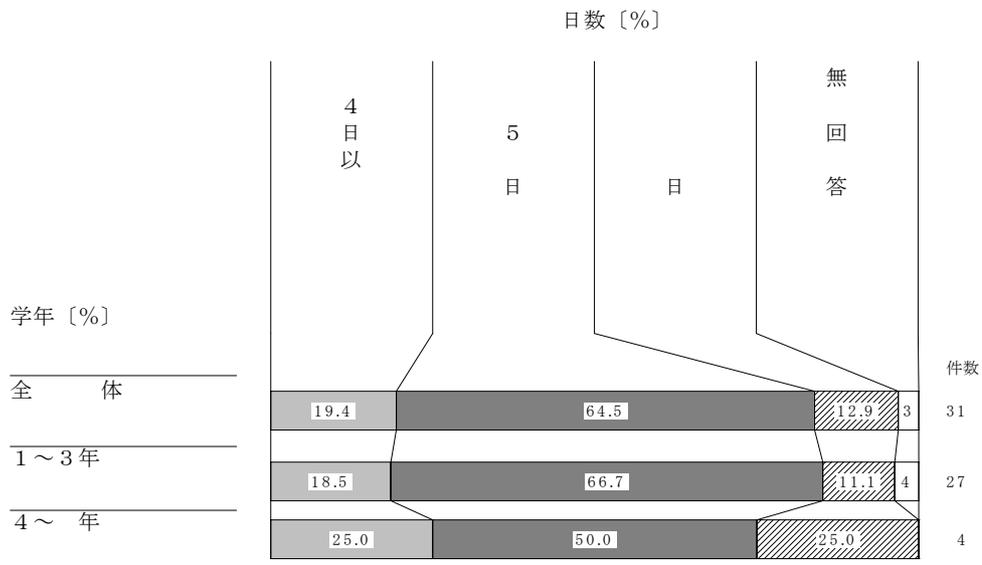
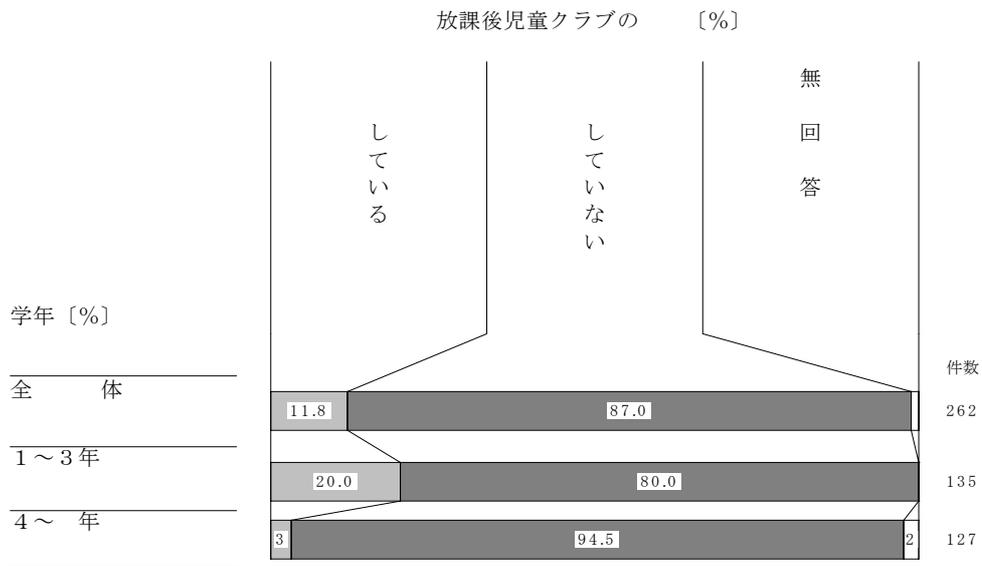
### -3 放課後の過ごし方について

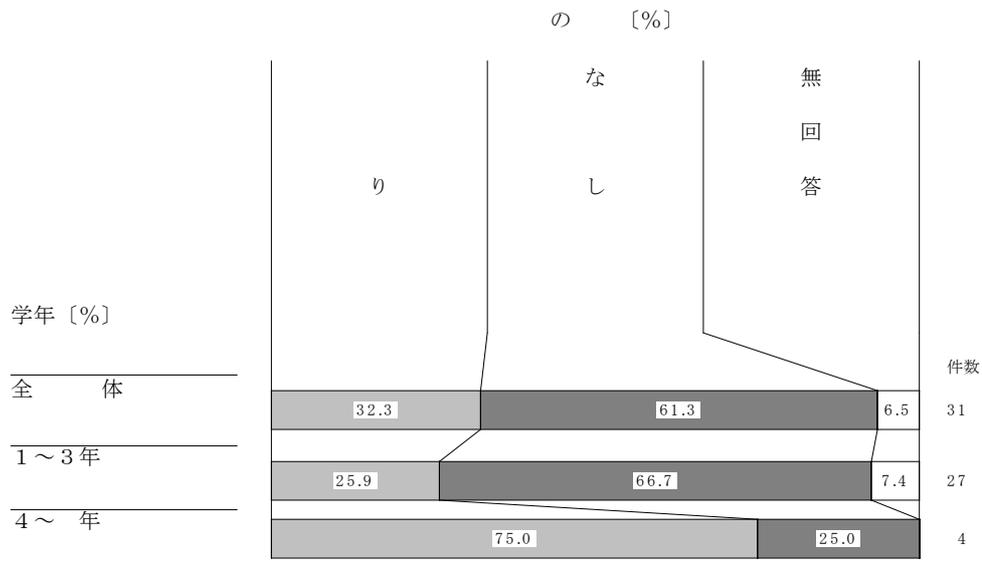
#### (1) 現在の保育状況

【放課後児童クラブを利用していますか】1～3年は、20%が「利用している」が、4～6年は3%となっている。

【〔放課後児童クラブの利用者を対象〕利用日数】1～3年は、「週5日」が67%と最も多く、次いで「週4日以下」が19%となっている。平均利用日数は、「週4.9日」となっている。

【〔放課後児童クラブの利用者を対象〕土曜の利用】全体では利用「あり」は32%となっている。

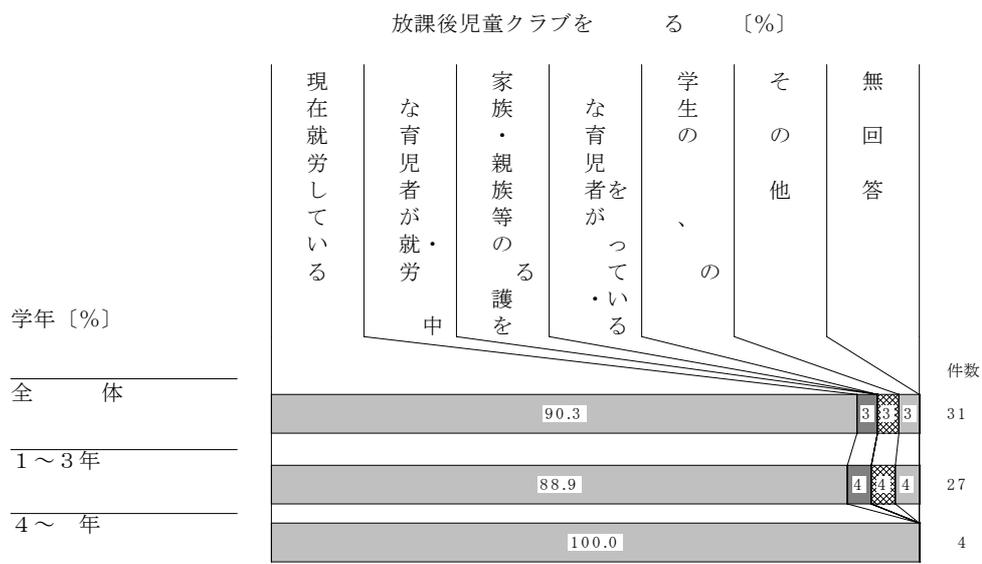




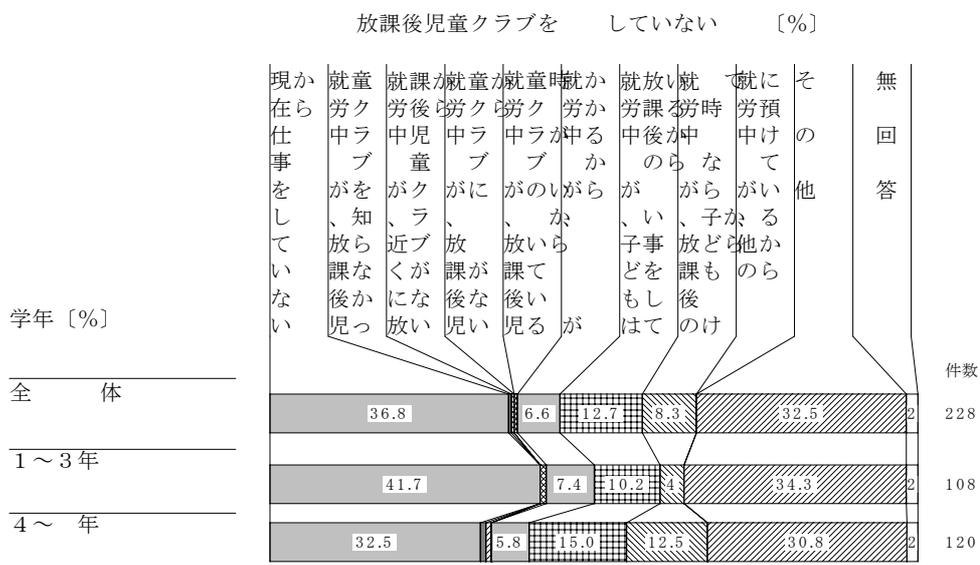
※ 学年別にみると、学年が上がるほど利用率は低下している。

※ 世帯別にみると、親と子の世帯は土曜日の利用「あり」の割合が高く、4割台となっている。

【〔放課後児童クラブの利用者を対象〕放課後児童クラブを利用している主な理由は何ですか】「現在就労している」が最も多く、全体では90%を占める。



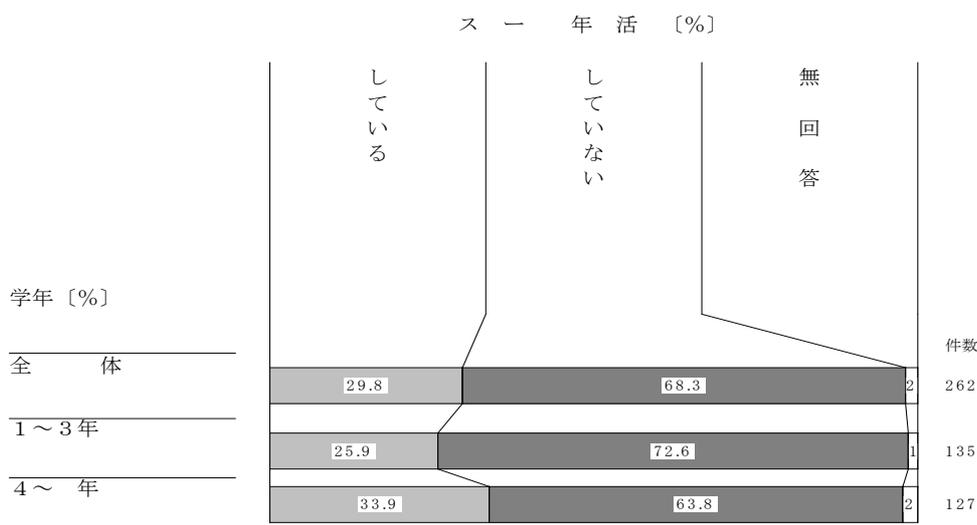
【〔放課後児童クラブの未利用者を対象〕放課後児童クラブを利用しない主な理由は何ですか】「現在仕事をしていないから」が全体では 37%と最も多く、次いで、「就労中だが、子どもは放課後の習い事をしているから」が 13%となっている。



※ 学年別にみると、1 年は、「現在仕事をしていないから」が特に高く、6 割近い。6 年は、「就労中だが、放課後の短時間などの子どもだけで大丈夫だから」が 2 割台となっている。

※ 保護者の就労状況別にみると、片働き世帯は、「現在は仕事をしていないから」が 7 割近い。共働き世帯は、「就労中だが、子どもは放課後の習い事をしているから」が 2 割台となっている。

【現在、地域のスポーツ少年団で活動していますか。】全体では、活動「している」は 30%で、平均活動日数は「週 3.8 日」で、開始時間は「16 時」からが最も早く、終了時間は「21 時半」が最も遅い。



※ 学年別にみると、3 年・4 年・5 年は 4 割近くがスポーツ少年団で活動していると回答している。

※ 地区別にみると、田井地区は 5 割が活動「している」と回答している。

※ 保護者の就労状況別にみると、共働き世帯は活動「している」が 3 割台で、片働き世帯よりも 1 割程度高い。

※ 育児支援別にみると、預かってくれる人がいる回答者は、活動「している」が 3 割台となり、預かってくれる人がいない回答者よりも 1 割以上高くなっている。

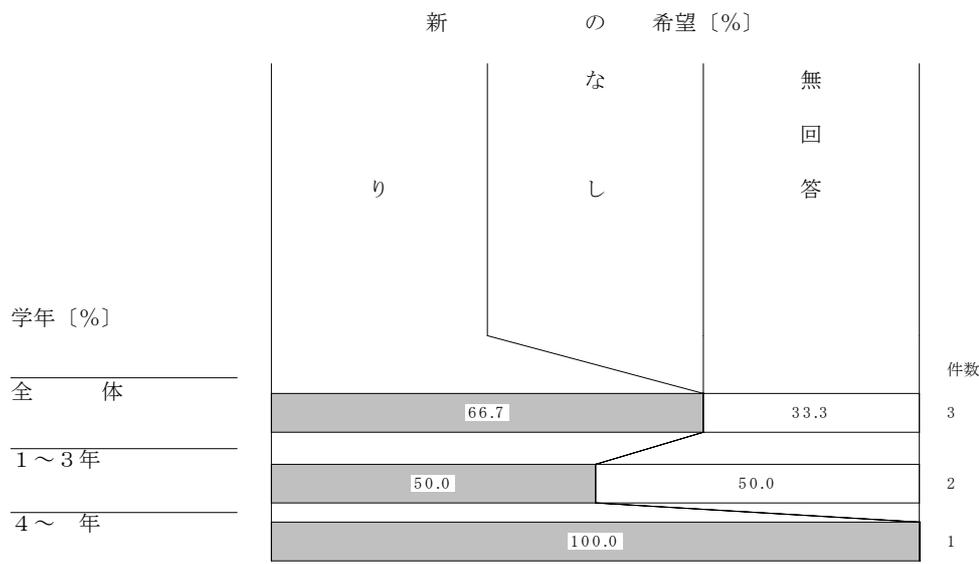
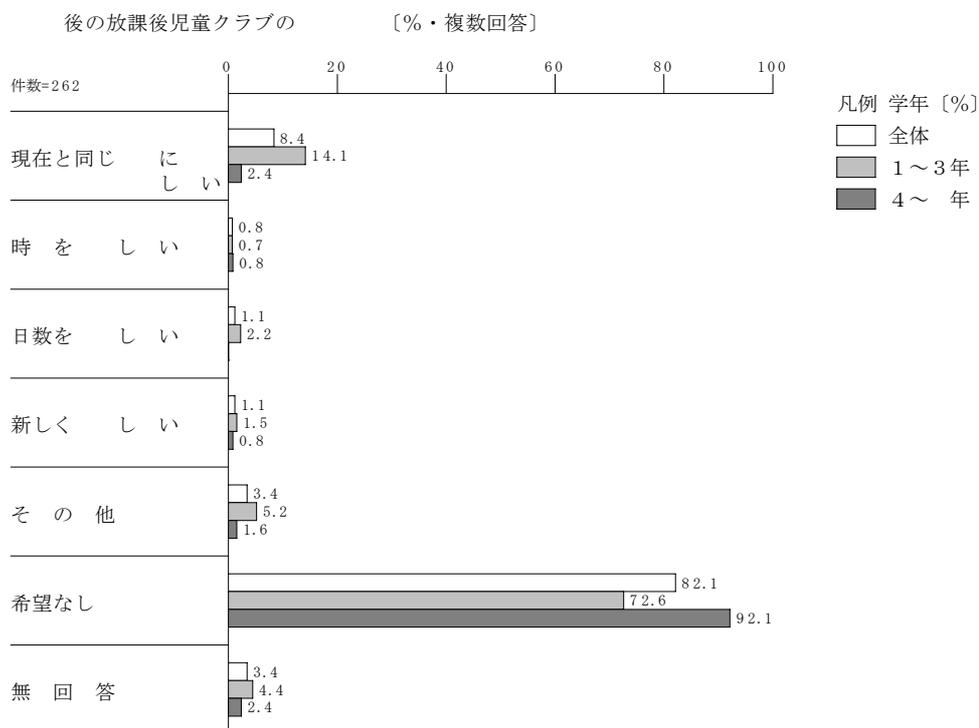
## (2) 今後の希望

【今後、放課後児童クラブを利用したいですか】1～3年は、「希望なし」が73%に上り、「現在と同じように利用したい」は14%にとどまっている。4～6年はさらに「希望なし」が多く92%に上り、「現在と同じように利用したい」は2%のみとなっている。

【土曜の利用希望】新しい利用希望は3件と僅かで、その3分の2が土曜の利用を希望している。

〔利用希望の詳細〕

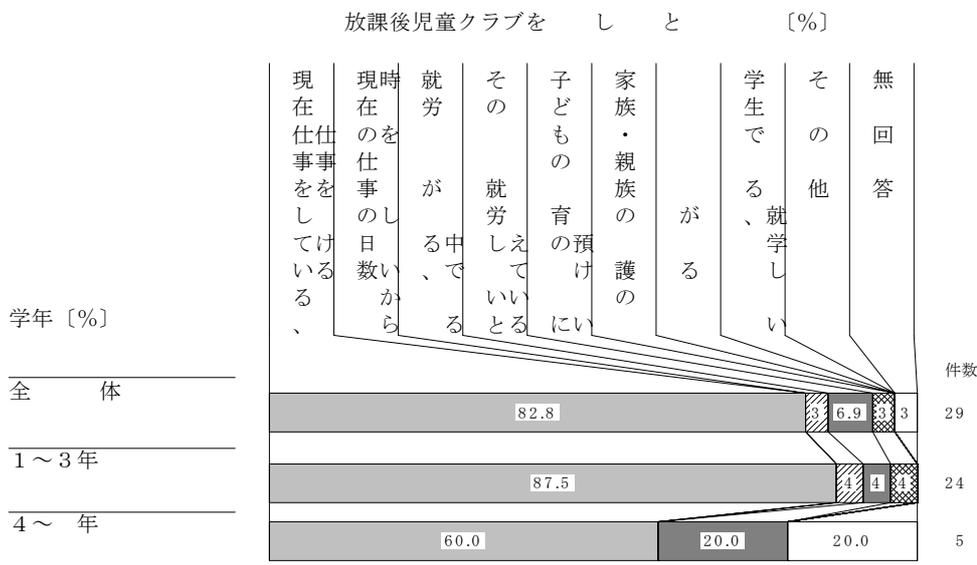
- 利用時間を増やしたいと考えている回答者は僅かであるが、終了時間では最も遅い時間は「19時」となっている。
- 利用日数の増加を考えている回答者は僅かであるが、平均すると「1.0日」となる。
- 新しく利用したいと考えている回答者は僅かであるが、平均すると「6.0日」である。



※ 学年別にみると、1年は「現在と同じように利用したい」が8割近いが、学年が上がるほど割合が低下し、6年は回答がみられない。

※ 保護者の就労状況別にみると、片働き世帯は、「希望なし」が7割台に上る。

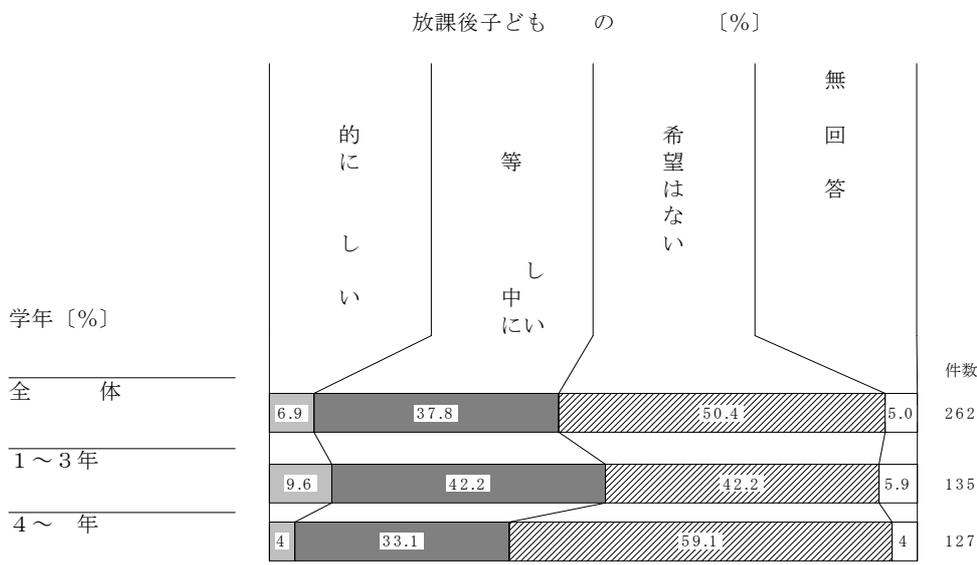
【(放課後児童クラブの利用を希望する回答者を対象)放課後児童クラブを利用しようと思う主な理由は何ですか】「現在仕事をしている、仕事を続けるため」が大多数を占めており、全体では83%となっている。



【(全員)放課後児童クラブのほか実施するサービスとして、『放課後子ども教室』が考えられます。このサービスが町内にあれば、これを利用しようと思いませんか】1～3年は、「夏休み等長期休暇中に利用したい」が42%となり、「定期的に利用したい」が10%を占めるのに対して、4～6年は利用希望がやや低く、「利用希望はない」が6割近くを占めており、「夏休み等長期休暇中に利用したい」は33%となっている。

〔利用希望の詳細〕

- 利用を希望する回答者は、平均すると「3.4日」となる。開始時間は「7時」が最も早く、終了時間は「19時」が最も遅い。

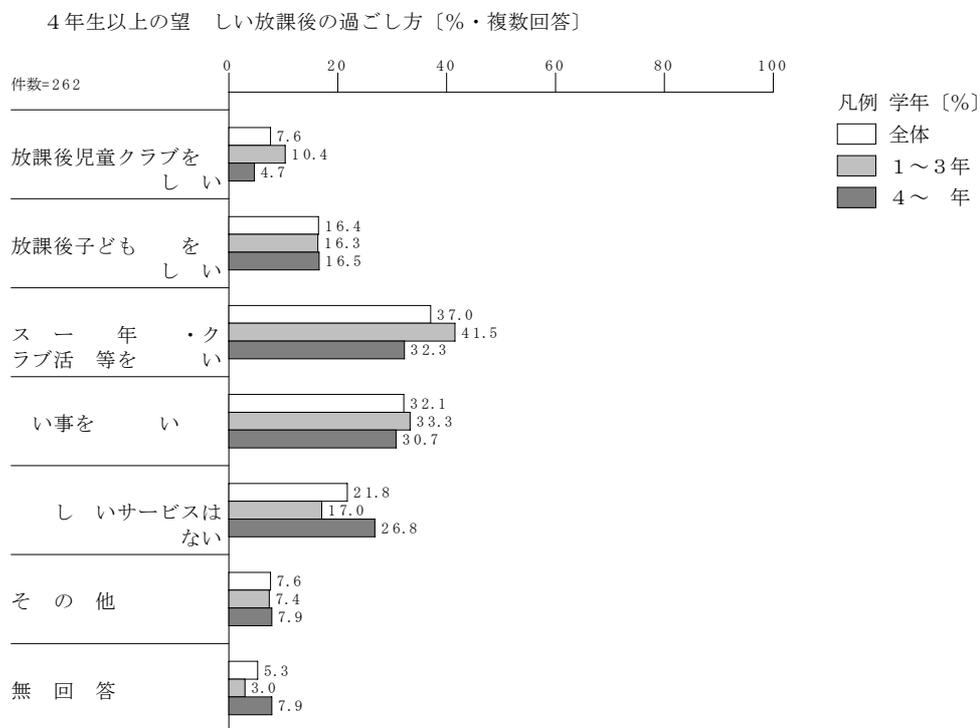


- ※ 学年別にみると、1年は「夏休み等長期休暇中に利用したい」が6割近いが、6年は「利用希望はない」が7割台に上る。
- ※ 地区別にみると、新浜地区は、「夏休み等長期休暇中に利用したい」が5割台に上る。
- ※ 育児支援別にみると、預かってくれる人がいない回答者は、「利用希望はない」が6割台に上る。
- ※ 放課後児童クラブを現在と同じように利用したい回答者は、「定期的に利用したい」が3割台に上る。

【(全員)お子さんが小学校4年生以上になった場合は、どのようなことを希望しますか】「スポーツ少年教室・クラブ活動等をさせたい」が最も多く、全体では37%であるが、1～3年は42%に上り、4～6年よりも1割近く高い。次いで、「習い事をさせたい」が32%、「利用したいサービスはない」が22%となっている。

〔利用希望の詳細〕

- 放課後児童クラブの利用希望の学年は、平均「5.8年」である。

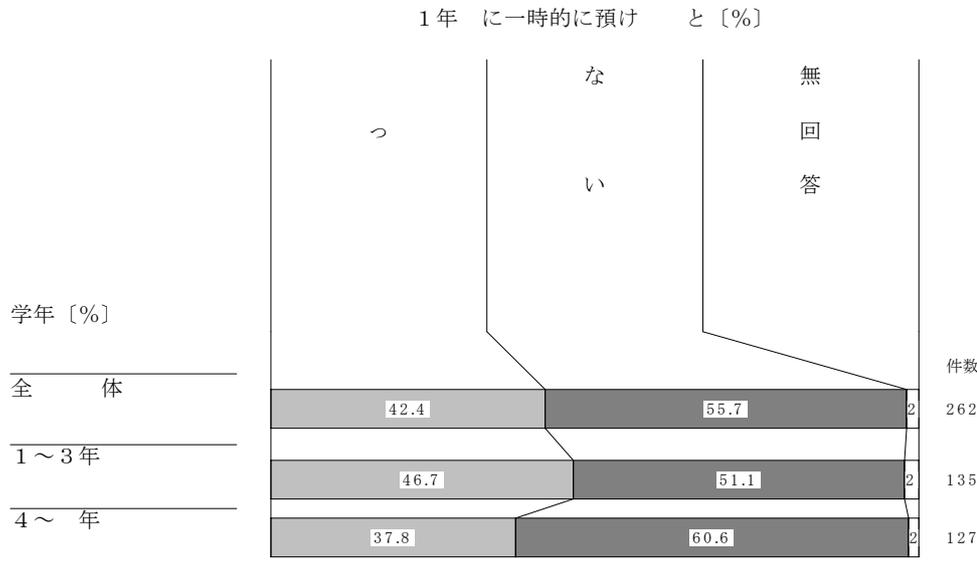


- ※ 学年別にみると、3年は、「スポーツ少年教室・クラブ活動等をさせたい」が5割台と特に高い。
- ※ 育児支援別にみると、預かってくれる人がいない回答者は、「利用したいサービスはない」が4割に上る。

#### -4 一時預かりについて

##### (1) 家族以外の者に子どもを預けた経験

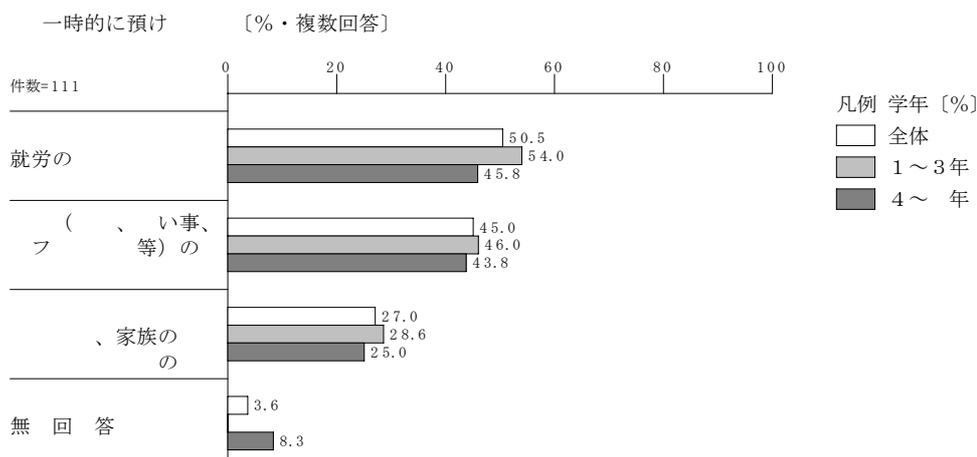
【この1年間で、就労のため、または私用（買物、習い事、会合、美容院など）やリフレッシュ目的、緊急の用事（冠婚葬祭、保護者・家族の病気など）で、宛名のお子さんを家族以外の誰かに一時的に預けたことがありましたか】1～3年は、「預けた経験が「あった」と47%が回答しており、4～6年の38%よりも1割程度高い。



- \* 学年別にみると、1年・3年は、預けた経験が「あった」が4割近い。
- \* 育児支援別にみると、預かってくれる人がいない回答者は、預けた経験が「ない」が8割台を占めている。
- \* 育児支援別にみると、子どもを預かってくれる人がいない回答者は、預けた経験が「ない」は8割台を占めている。
- \* 放課後児童クラブを利用している回答者は、預けた経験が「あった」割合が高く、4割近い。

【〔預けた経験がある回答者を対象〕一時的に子どもを預けた理由】「就労のため」が最も多く、特に1～3年が54%と多く、4～6年よりも1割程度高い。全体では、「私用（買物、習い事、リフレッシュ等）のため」が45%と、「冠婚葬祭、家族の病気のため」が27%と続いている。

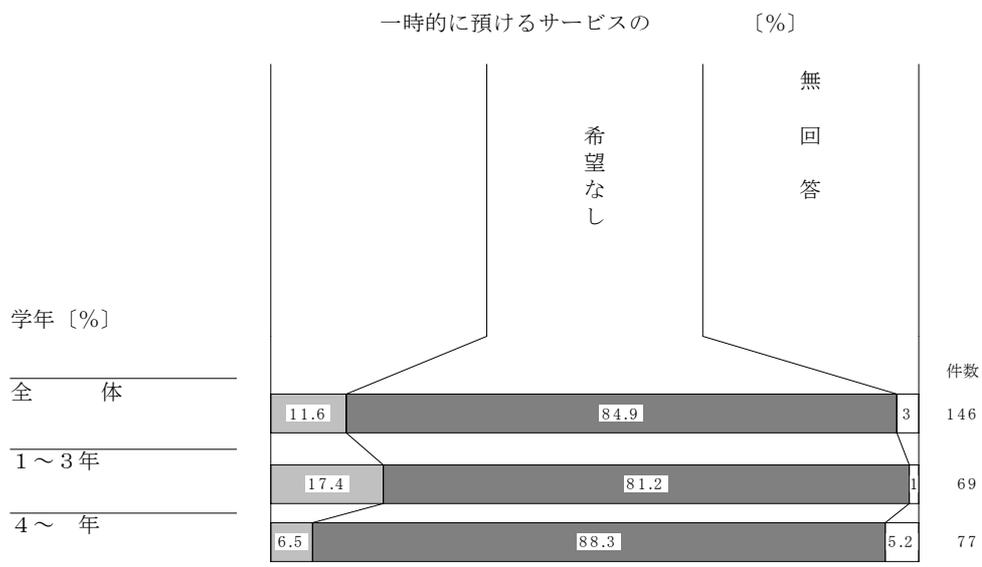
- 就労のために預けた平均日数は「12日」、私用で預けた平均日数は「4日」、冠婚葬祭、家族の病気で預けた平均日数は「4日」となっている。



※ 保護者の就労状況別にみると、片働き世帯は「私用(買い物、習い事、リフレッシュ等のため)」が 5割近くを占めている。

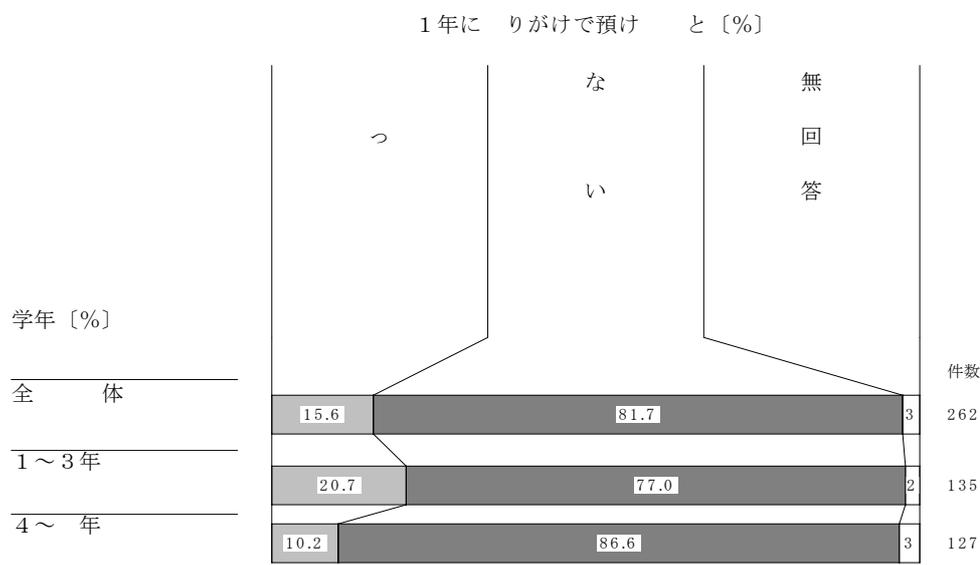
【(一時的に預けた経験のない回答者を対象)一時的に預けるサービスを利用したいと思いませんか】利用希望は少なく、利用したいと「思う」は 1～3年で 17%、4～6年で 7%にとどまり、就学前児童よりも利用希望率は低い。

なお、1か月の利用希望の平均日数は、「2.6日」となっている。



## (2) 泊りがけで子どもを預けた経験

【この1年間に、保護者の用事などにより宛名のお子さんを泊りがけで家族以外に預けなければならないことはありましたか】泊りがけで預けたことが「あった」は少なく、1～3年で21%、4～6年で10%となり、全体の傾向としては、就学前児童と同様となっている。

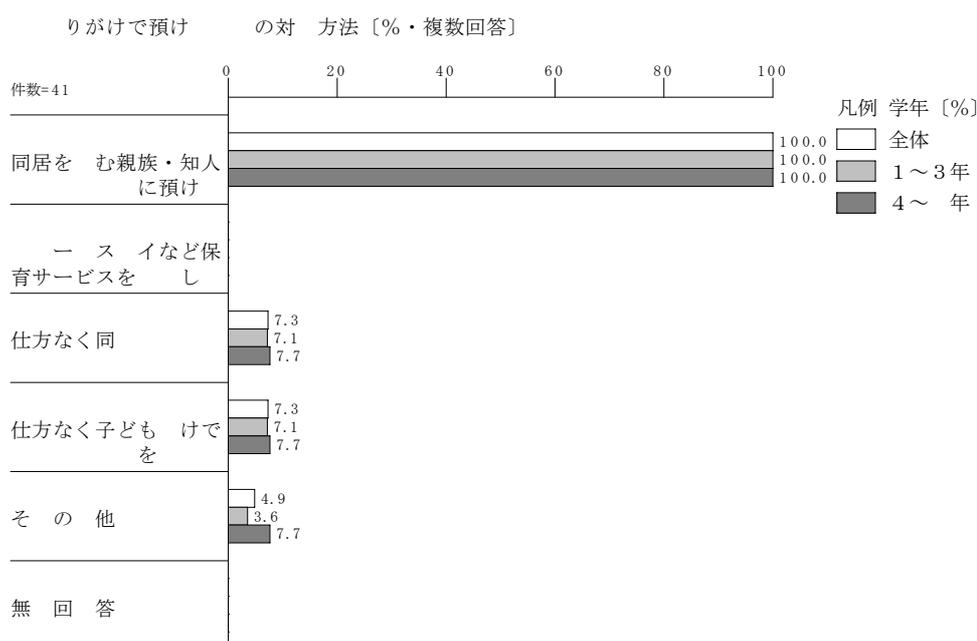


※ 学年別にみると、学年が上がるほど預けた経験が「あった」割合が低下する傾向がみられる。

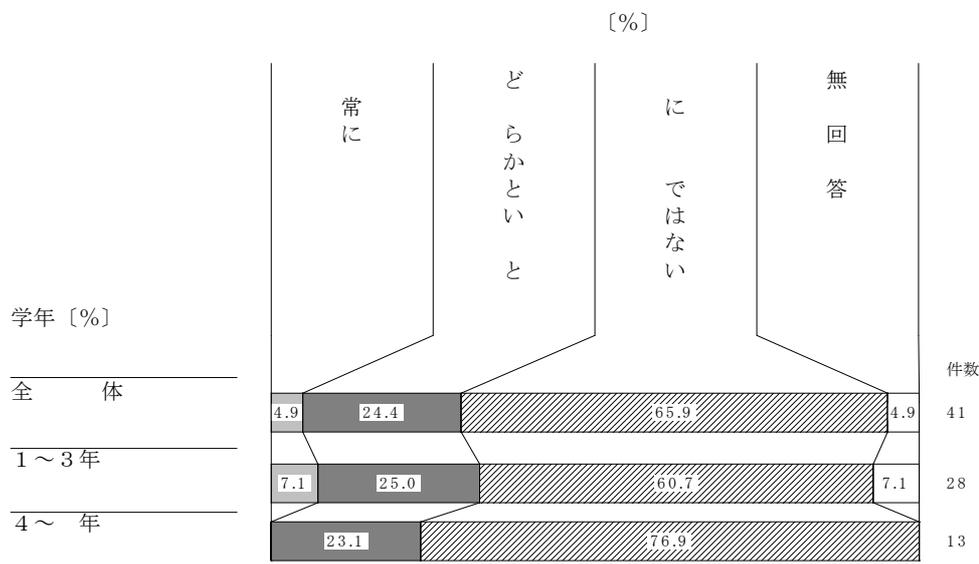
※ 放課後児童クラブの利用者は、預けた経験が「あった」が3割台となり、未利用者よりも2割程度高い。

【〔泊りがけで子どもを預けた経験のある回答者のみ〕この1年間の対処方法とその泊数をお答えください】就学前児童と同様に、全員が「同居を含む親族・知人に預けた」と回答している。

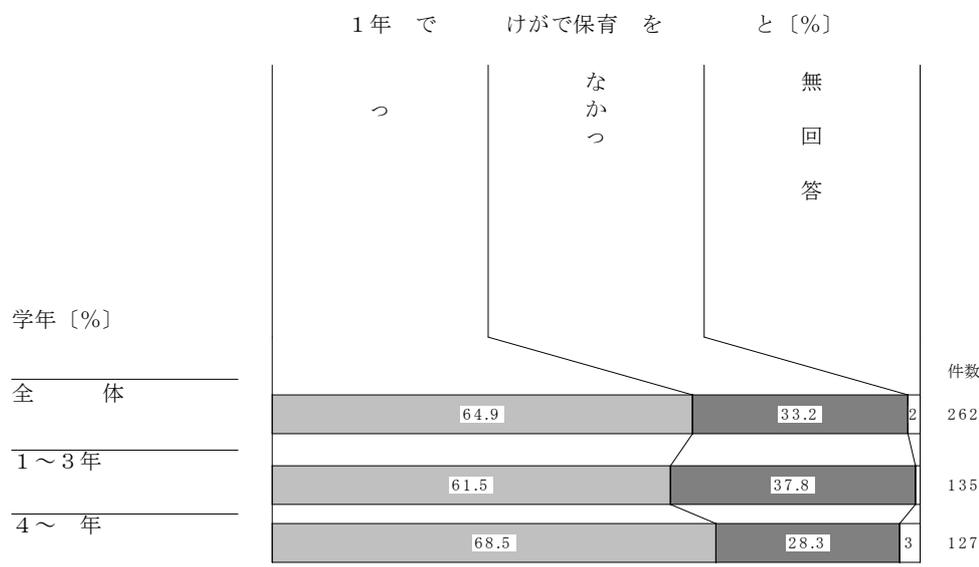
なお、親族・知人に預けた平均日数は、「8.5日」、その他で対処した平均日数は、件数は僅かであるが「13.5日」となっている。



【〔親族・知人等に預けた経験のある回答者を対象〕その場合の困難度はどの程度ですか】1～3年は、「非常に困難」が7%あり、「どちらかという困難」と合わせると32%で、4～6年よりも1割程度上回る。4～6年は、「どちらかという困難が」が23%となっている。全体の傾向としては、就学前児童よりも困難と感じている割合は低い。



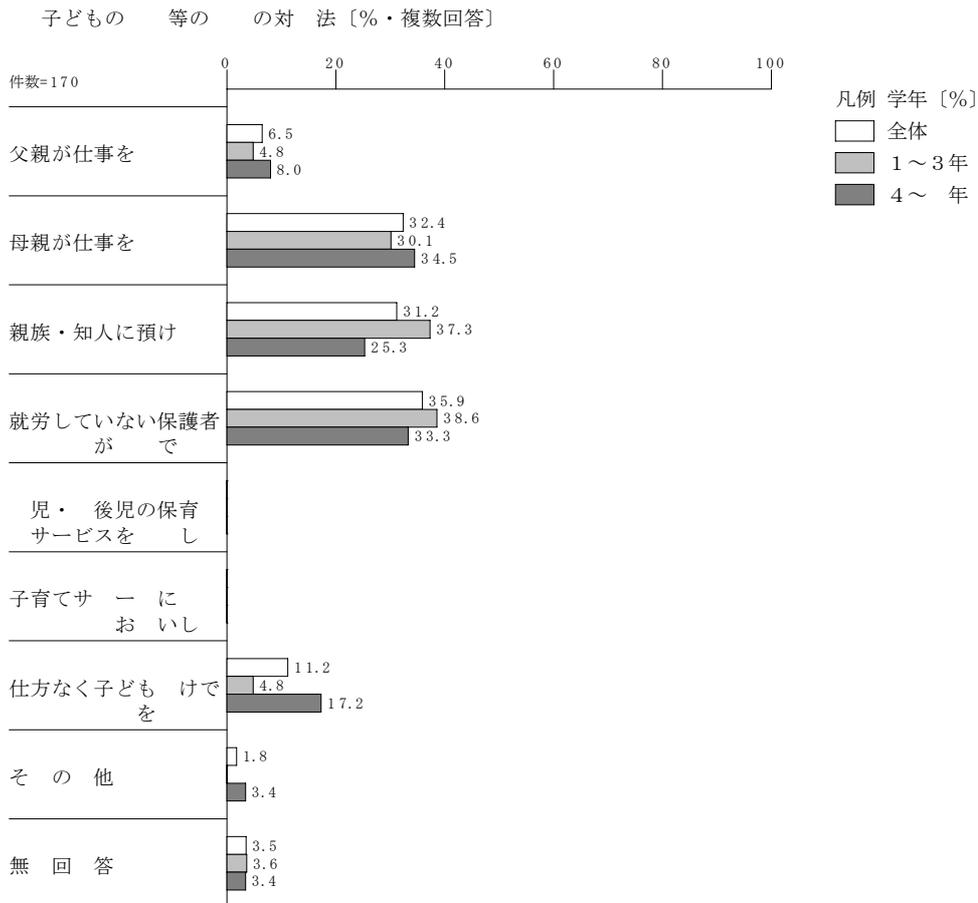
【この1年間で、お子さんが病気やケガで学校を休んだことはありますか。】休んだことは「あった」が多く、全体では65%を占めている。



※ 育児支援別にみると、預かってくれる人がいない回答者は、休んだことが「あった」が8割台に上り、預かってくれる人がいる回答者よりも2割程度高い。

【〔あったと回答した者を〕お子さんが病気やケガで学校を休んだ場合の対処法】、「就労していない保護者が自宅のみた」が最も多く、全体では 36%となり、次いで「母親が仕事を休んだ」が 32%、「親族・知人に預けた」が 31%となっている。ただし、「親族・知人に預けた」は、1～3 年は 37%に上り、4～6 年を 1 割強上回る。また、「仕方なく子どもだけで留守番させた」は、4～6 年は 17%と比較的多い。

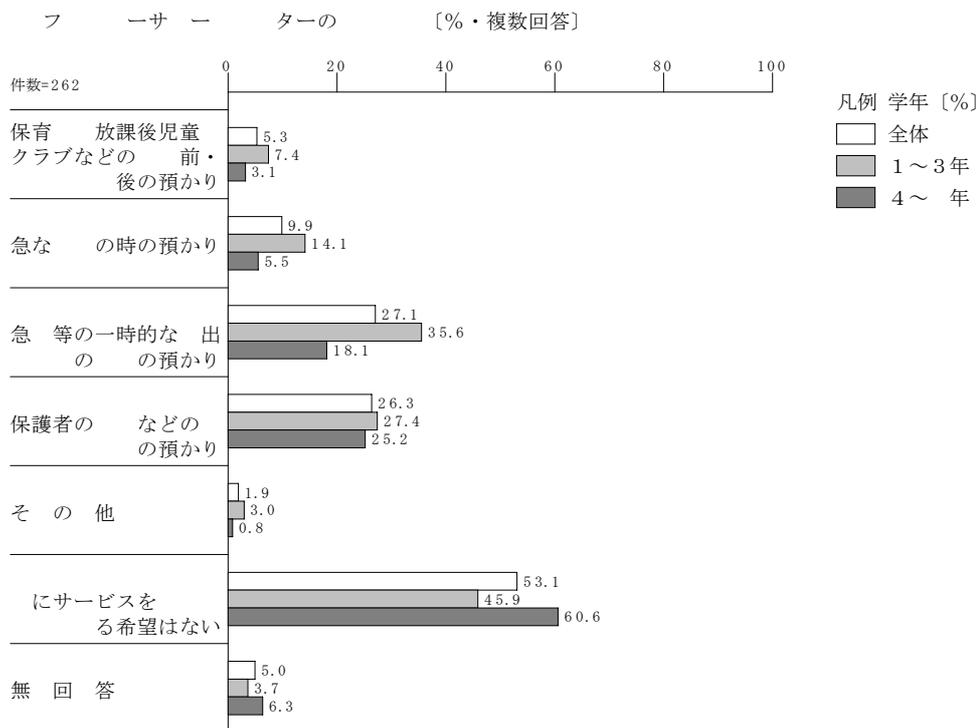
なお、父親が仕事を休んだ平均日数は「2.1 日」、母親が仕事を休んだ平均日数は「2.3 日」、親族・知人に預けた平均日数は「3.3 日」、就労していない保護者が世話をした平均日数は「3.6 日」、仕方なく留守番させた平均日数は「1.7 日」、その他で対処した平均日数は「2.0 日」、施設に預けた平均日数は「1.3 日」となっている。



- ※ 学年別にみると、「仕方なく子どもだけで留守番させた」は、学年が上がるほど割合が上昇しており、6 年は 3 割近い。
- ※ 世帯別にみると、同居世帯は、「親族・知人に預けた」が 4 割台と高い。親と子の世帯は、「母親が仕事を休んだ」が 3 割台となり、同居世帯よりも 1 割強高い。
- ※ 地区別にみると、新浜地区は「親族・知人に預けた」、「就労していない保護者が自宅のみた」が 4 割台となり、全体よりも 1 割程度高い。三尾地区は、「母親が仕事を休んだ」が 4 割台と高い。
- ※ 育児支援別にみると、預かってくれる人がいない回答者は、「仕方なく子どもだけで留守番させた」が 3 割程度となり、全体よりも 2 割近く高い。
- ※ 保護者の就労状況別にみると、共働き世帯は、「母親が仕事を休んだ」が 5 割台、「親族・知人に預けた」が 4 割台に上る。片働き世帯は、「就労していない保護者が自宅のみた」に回答が集中し、6 割程度となっている。

### (3) ファミリーサポート事業の利用意向

【町民が会員登録した地域住民による相互保育サービスとして、「ファミリーサポート事業」があります。本町では現在実施していませんが、どのような場合に利用したいと思いますか】  
 「特にサービスを利用する希望はない」が最も多く、全体では 53%に上るが、4～6 年が 61%と特に多く、1～3 年は 5 割を割っている。1～3 年は、「急用等の一時的な外出の場合の預かり」が 36%と多いが、4～6 年は 18%にとどまっている。また、「保護者の病気などの際の預かり」も比較的多く、全体では 26%となっている。全体の傾向としては、就学前児童よりも利用希望が低くなっている。

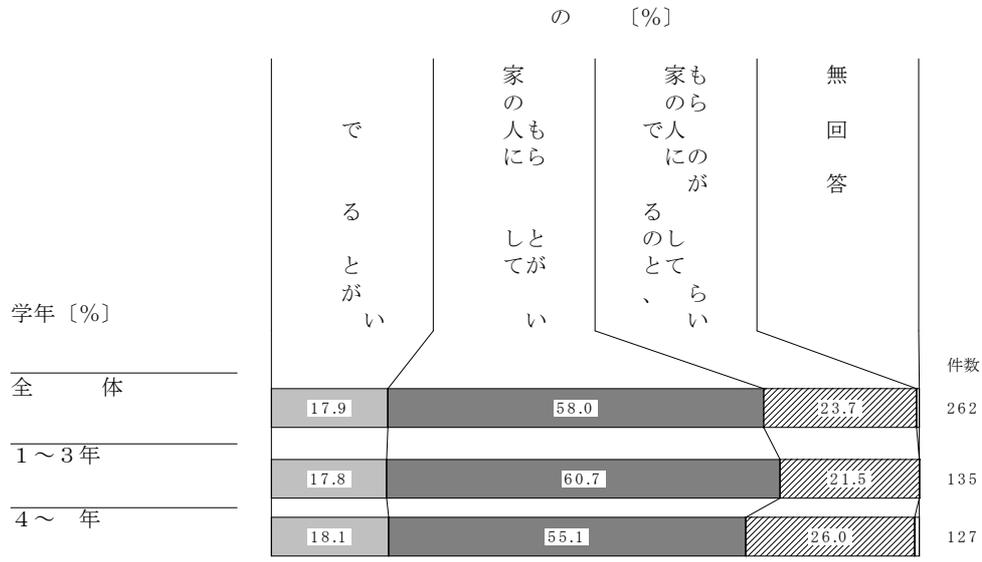


- ※ 世帯別にみると、片働き世帯は、「急用等の一時的な外出の場合の預かり」、「保護者の病気などの際の預かり」が3割台となり、共働き世帯よりも1割強高くなっている。
- ※ 育児支援別にみると、預かってくれる人がいる回答者は、「特にサービスを利用する希望はない」が5割台に上る。一方、預かってくれる人がいない回答者は、「保護者の病気などの際の預かり」が6割と高い。
- ※ 放課後児童クラブの利用者は、利用意向が全体的に高く、未利用者は、利用意向が低い。

## -5 宛名の小学生の日常生活について

### (1) 毎朝の起床

【お子さんは毎朝どのように起きることが多いですか】「家の人に起こしてもらったことが多い」が最も多く、全体で58%を占める。次いで、「自分で起きると、家の人に起こしてもらったことが半々くらい」が24%、「自分で起きることが多い」が18%となっている。

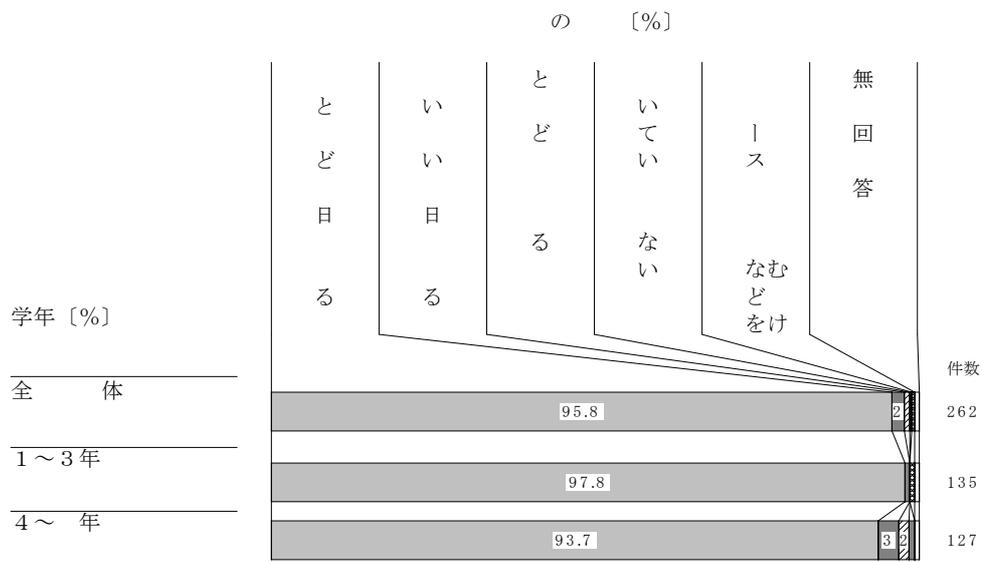


※ 地区別にみると、新浜地区は「家の人に起こしてもらったことが多い」に回答が集中し、7割近い。

※ 育児支援別にみると、預かってくれる人がいる回答者は「家の人に起こしてもらったことが多い」が6割台に上るが、預かってくれる人がいない回答者は「自分で起きることが多い」が4割台と最も高い。

### (2) 朝食の摂取

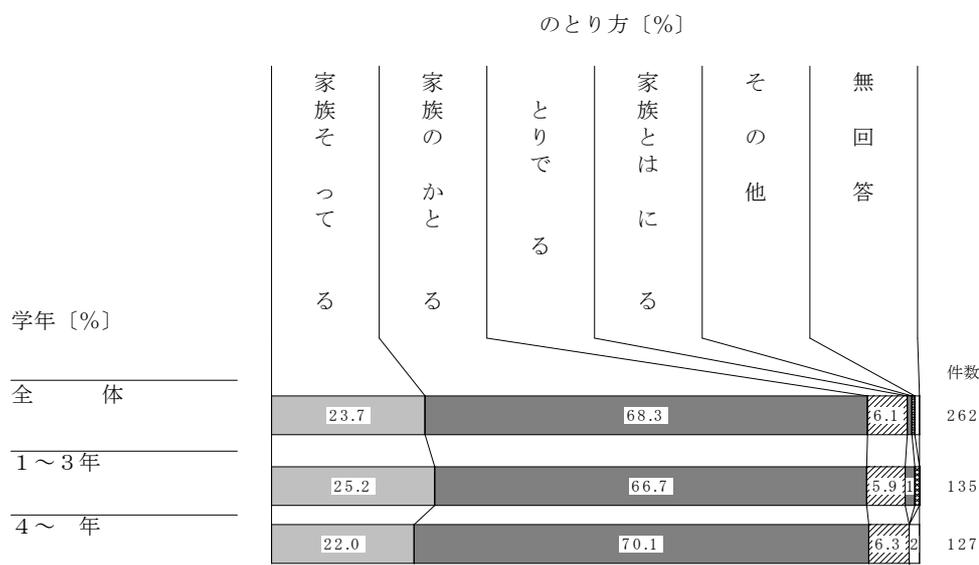
【お子さんは、毎日朝食を食べていますか】「ほとんど毎日食べる」が96%と大多数を占めているが、「ときどき食べる」、「たいてい食べない」といった回答も若干みられる。



※ 地区別にみると、田井地区のみ「ほとんど毎日食べる」が9割を割っている。

### (3) 朝食のとり方

【お子さんは、朝食をどのようにとっていますか】「家族の誰かと食べる」が最も多く、全体では68%を占める。次いで、「家族そろって食べる」が24%、「ひとりで食べる」が6%となっている。

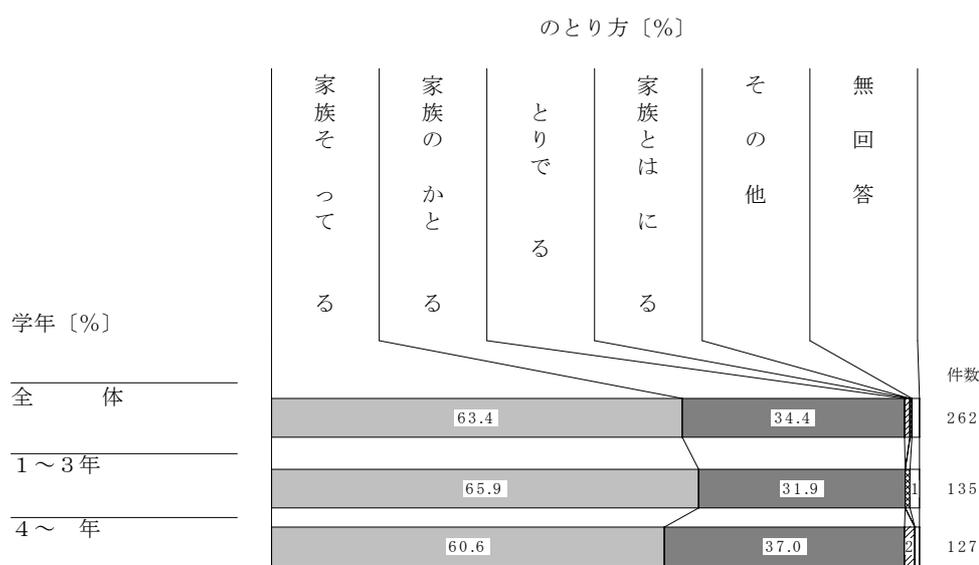


※ 地区別にみると、田井地区は、「家族そろって食べる」は僅かで1割を満たない。

※ 育児支援別にみると、預かってくれる人がいない回答者は、「ひとりで食べる」が2割となり、全体よりも1割強高い。

### (4) 夕食のとり方

【お子さんは、夕食をどのようにとっていますか】「家族そろって食べる」が最も多く、全体では63%となり、次いで、「家族の誰かと食べる」が34%となっている。

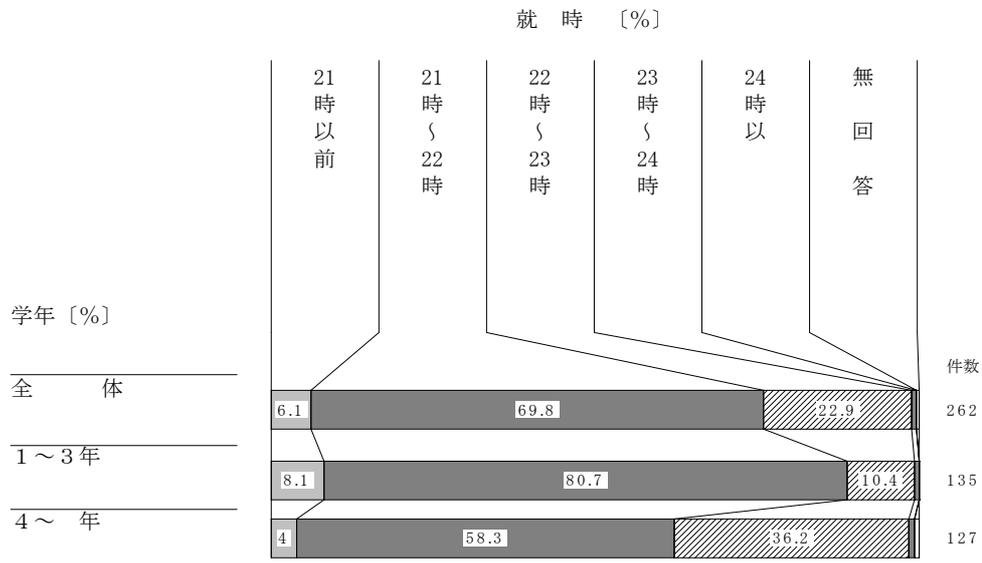


※ 地区別にみると、田井地区は、朝食と同様に「家族そろって食べる」割合が他の地区よりも低い。

※ 放課後児童クラブの未利用者は、「家族そろって食べる」が6割台となり、利用者よりも1割程度高い。一方、利用者は、「家族の誰かと食べる」が4割台と、未利用者よりも1割程度高い。

### (5) 就寝時間

【お子さんは、夜はたいい何時ごろ寝ていますか】「21～22時」が最も多いが、特に1～3年が81%と多く、4～6年よりも2割程度上回る。次いで、「22～23時」が多いが、4～6年は36%と多く、就寝時間が遅い傾向にある。

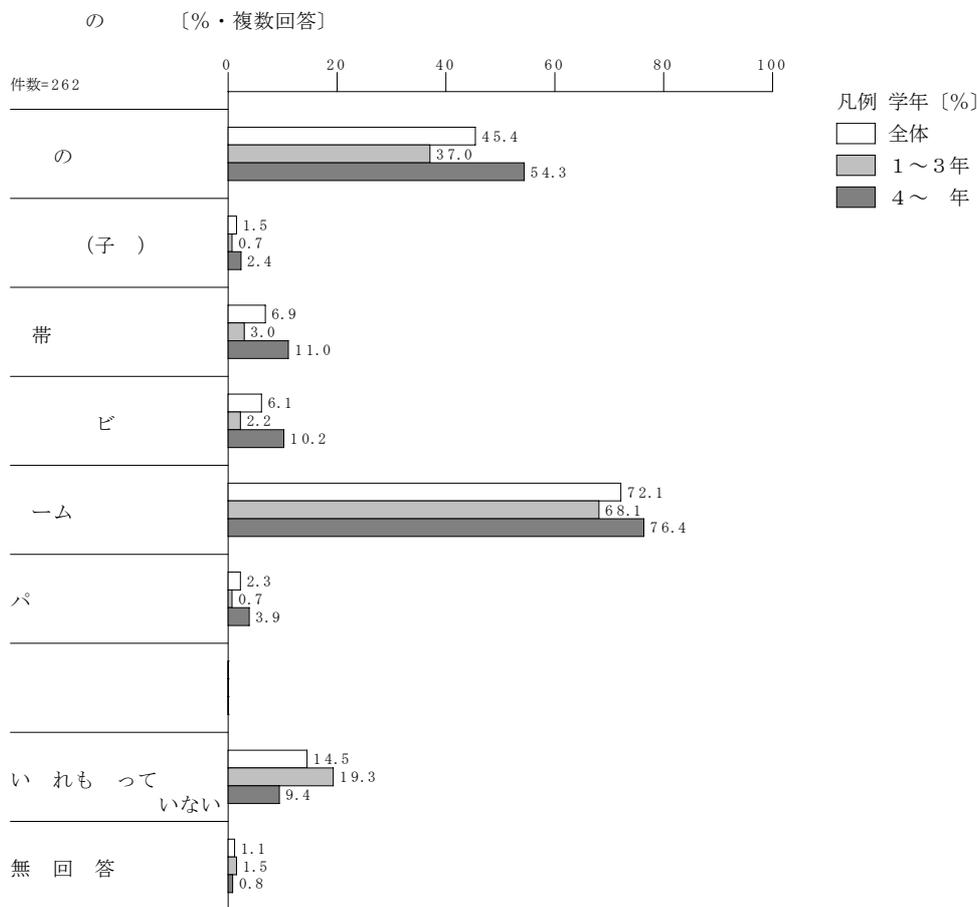


※ 学年別にみると、1年は、「21～22時」が8割台を占めるが、学年が上がるほど割合は低下し、「22時～23時」が上昇している。

※ 地区別にみると、田井地区は就寝時間がやや遅い傾向にあり、「22～23時」が3割台を占める。

## (6) 専用の持ち物

【お子さんは次のなかで自分専用のものを持っていますか】「ゲーム」に回答が集中しており、全体では72%に上り、次いで、「自分の部屋」が45%と多いが、4～6年が54%と特に多く、1～3年よりも2割近く上回る。



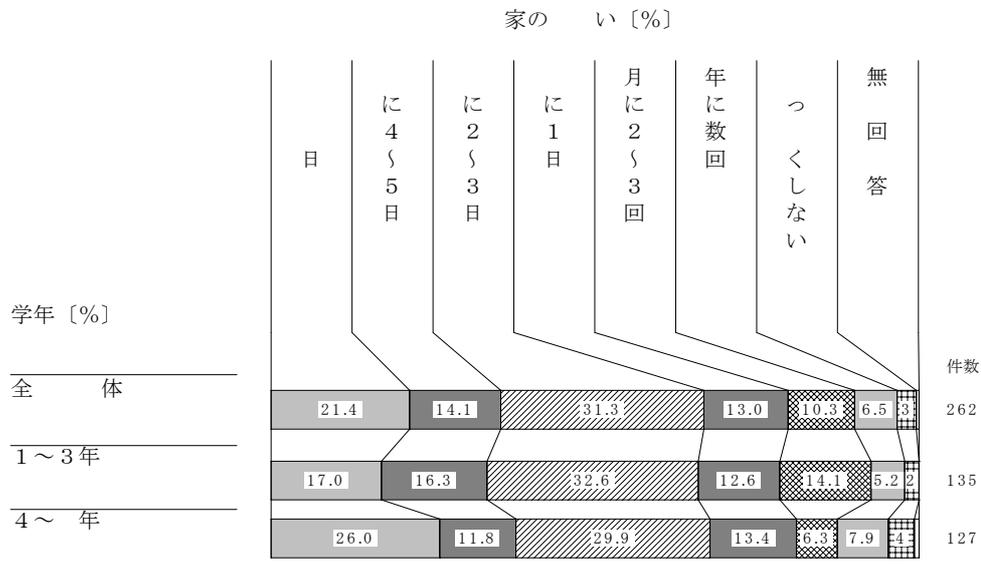
※ 学年別にみると、学年が上がるほど「自分の部屋」を持つ割合が上昇し、6年は6割に上る。

※ 世帯別にみると、親と子の世帯は、5割近くが「自分の部屋」をもっており、同居世帯よりも1割程度高い。同居世帯は、「ゲーム」が8割台と特に高くなっている。

※ 保護者の就労状況別にみると、共働き世帯は、「ゲーム」が8割近くとなり、片働き世帯よりも1割程度高い。

## (7) 家の手伝い

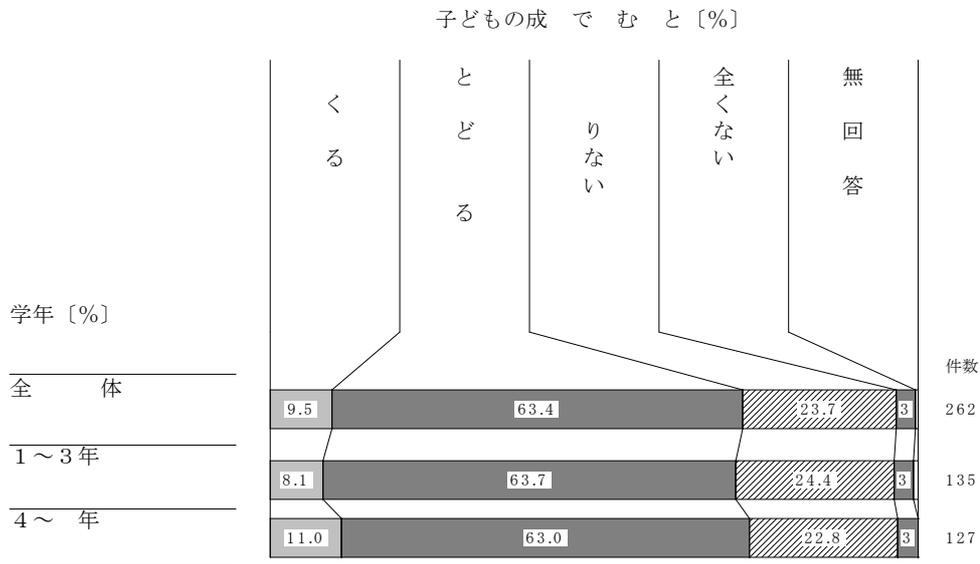
【お子さんは、家のお手伝いをどの位していますか】「週に2～3日」が最も多く、全体では31%となり、次いで「ほぼ毎日」が21%となっているが、4～6年が26%と1～3年よりも1割程度上回り、手伝いの頻度がやや多くなる傾向がうかがえる。



## -6 日頃の子育てなどについて

### (1) 子育てで悩むこと

【子育てやお子さんの成長・発達のこと、悩むことがありますか】「ときどきある」が63%と最も多く、次いで「あまりない」が24%となる。また、「よくある」と「ときどきある」を合わせると73%を占め、就学前児童と同程度となっている。

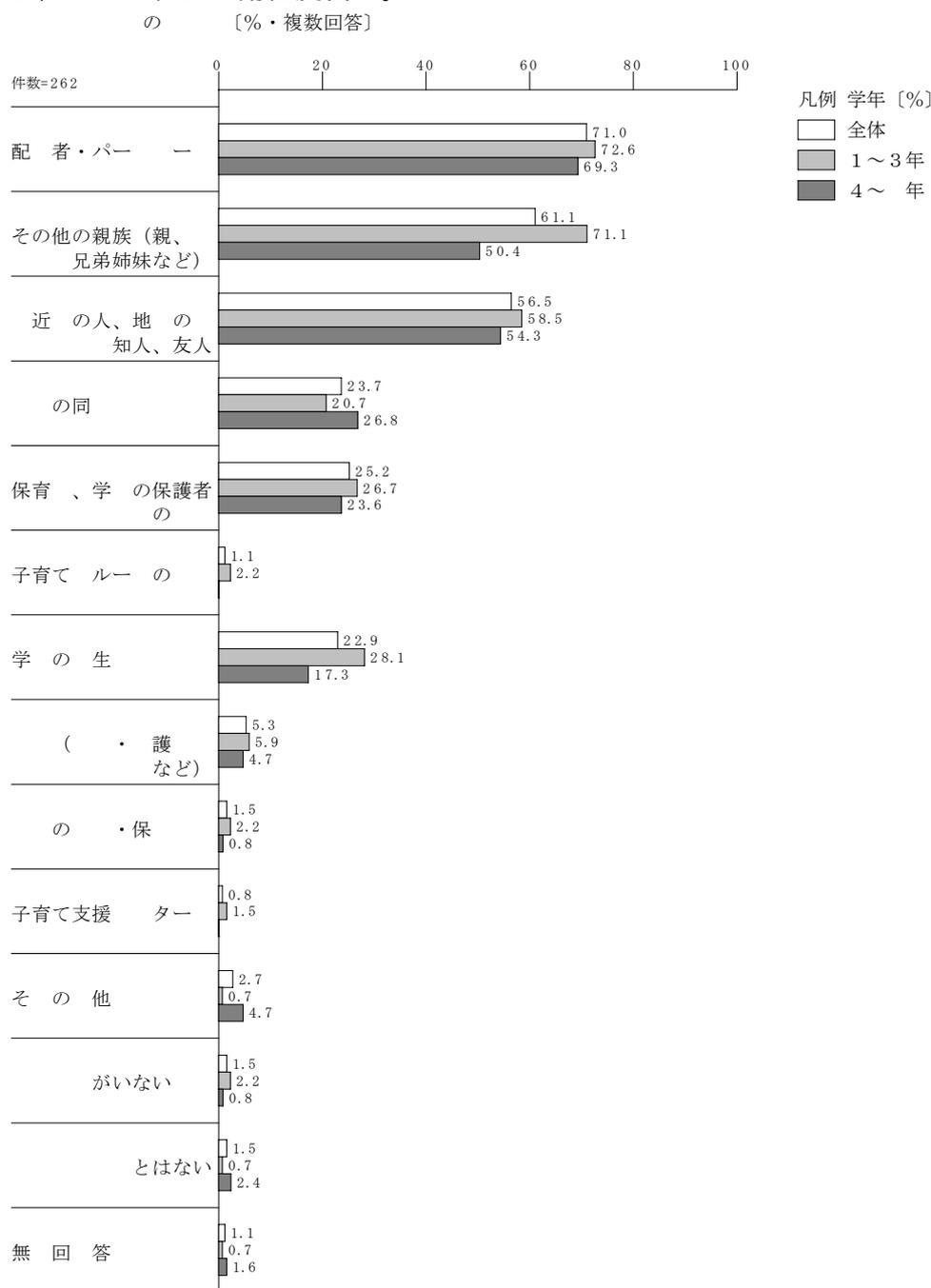


※ 育児支援別にみると、預かってくれる人がいない回答者は、悩むことがある割合が高く、「よくある」と「ときどきある」を合わせると9割に上る。

※ 地区別にみると、浜ノ瀬地区は比較的悩むことがある割合が低く、「あまりない」が4割台を占める。

## (2) 悩みや不安の相談先

【子育てに関する悩みや不安を誰かに相談していますか】配偶者・パートナー」が最も多く、全体では71%となっている。次いで、1～3年は「その他の親族」が71%、「隣近所の人、地域の知人、友人」が59%と多い。4～6年は、「隣近所の人、地域の知人、友人」が54%、「その他の親族」が50%と多くなっている。また、「学校の先生」は、1～3年は28%に上がるが、4～6年は1割程度低い。



※ 学年別にみると、学年が上がるほど「その他の親族」、「学校の先生」は割合が低下する傾向にある。

※ 世帯別にみると、親と子の世帯は、「配偶者・パートナー」が7割台となり、同居世帯よりも2割近く高い。同居世帯は、「学校の先生」が3割台となり、親と子の世帯よりも1割程度高い。

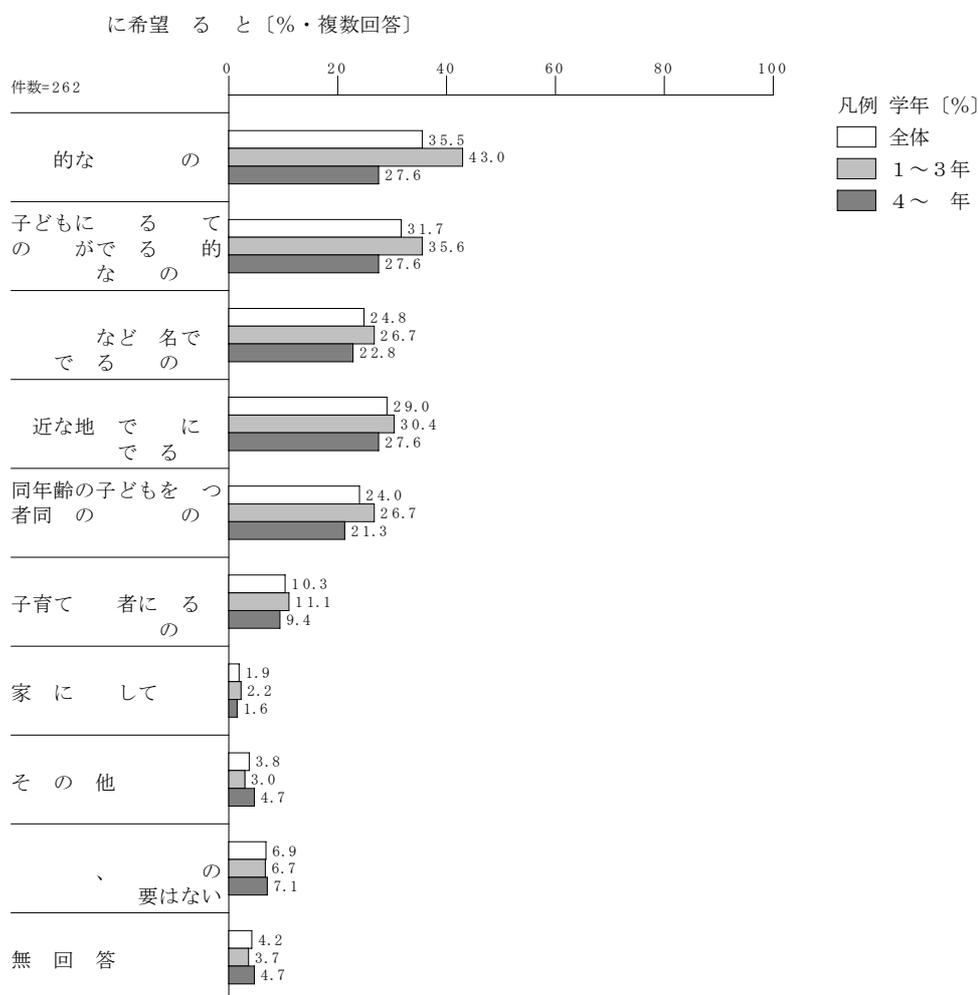
※ 地区別にみると、和田地区は、「隣近所の人、地域の知人、友人」が8割近くと最も高く、三尾地区は「その他の親族」が7割台に上る。

- ※ 育児支援別にみると、預かってくれる人がいる回答者は、いない回答者よりも全体的に回答率が高い。中でも、「配偶者・パートナー」、「その他の親族」、「隣近所の人、地域の知人、友人」が高い。
- ※ 保護者の就労状況別にみると、共働き世帯は、「配偶者・パートナー」が3割台と比較的高い。
- ※ 子育てで悩むことがよくある回答者は、「保育園、学校の保護者の仲間」、「学校の先生」が4割台と比較的高い。また、悩むことが全くない回答者は、全体的に回答率が低く、「相談すべきことはない」が4割近い。

### (3) 相談先に希望すること

【あなたは、お子さんの子育てに関する相談先、相談場所にどのようなことを希望しますか】

1～3年は、「専門的な相談機関の充実」が43%、「子どもに関わるすべての相談ができる総合的な窓口の設置」が36%、「身近な地域で気軽に相談できる場所」が30%と全体的に回答率が高い。4～6年は、「専門的な相談機関の充実」、「子どもに関わるすべての相談ができる総合的な窓口の設置」、「身近な地域で気軽に相談できる場所」が同率で28%となっている。



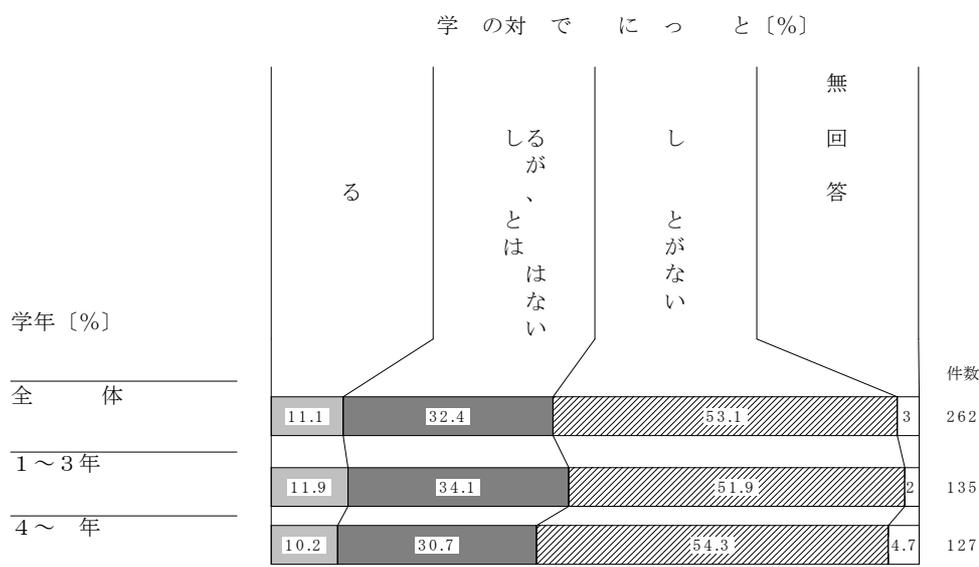
- ※ 学年別にみると、1年は、「同年齢の子どもを持つ者同士の情報交換の機会」が4割台となり、全体よりも2割高い。
- ※ 世帯別にみると、親と子の世帯は、「専門的な相談機関の充実」が4割近くとなり、同居世帯よりも1割程度高い。同居世帯は、「身近な地域で気軽に相談できる場所」が最も高く、4割近い。
- ※ 地区別にみると、田井地区は「同年齢の子どもを持つ者同士の情報交換の機会」が4割台と高い。

※ 育児支援別にみると、預かってくれる人がいない回答者は、「子どもに関わるすべての相談ができる総合的な窓口の設置」が4割台と高い。「同年齢の子どもを持つ者同士の情報交換の機会」は、預かってくれる人がいる回答者のみとなっている。

※ 子育てで悩むことがよくある回答者は、「子どもに関わるすべての相談ができる相談窓口」、「身近な地域で気軽に相談できる場所」が4割台となり、全体よりも1割程度高い。また、悩むことが全くない回答者は、「相談相手、相談場所の必要はない」が4割近い。

#### (4) 役場や保育先の対応で不満に思ったこと

【出産・育児に関する役場の窓口や学校での対応について、不満に思ったことはありますか】  
 「利用したことがない」が最も多く、全体では53%となり、次いで、「利用したことはあるが、不満はない」は32%で、不満に思ったことが「ある」は11%となっている。



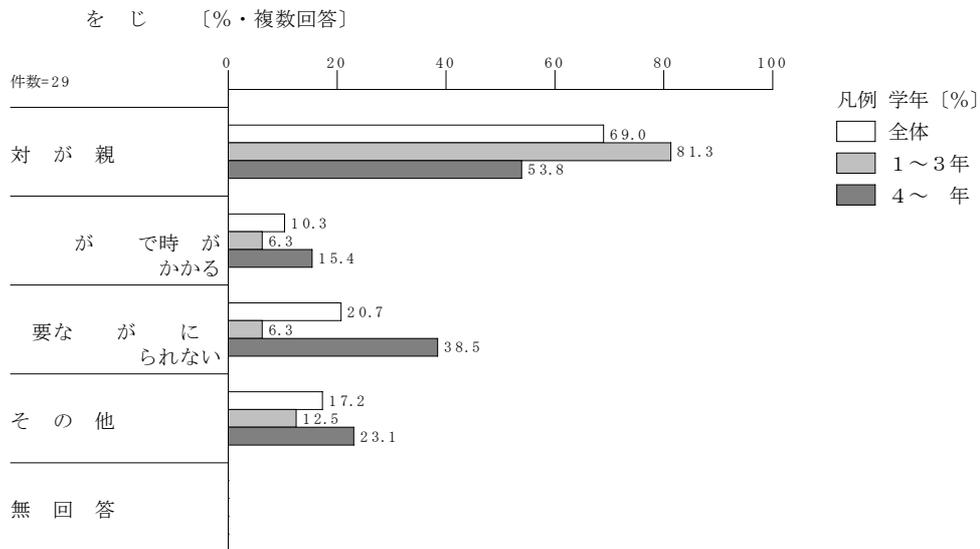
※ 年齢別にみると、1年は「利用したことはあるが、不満はない」が5割近くを占めている。

※ 地区別にみると、田井地区及び新浜地区は未利用率が極めて高く、7割前後となっている。和田地区は、件数は少ないものの、「利用したことはある、不満はない」が6割近くに上る。

※ 保護者の就労状況別にみると、片働き世帯は、「利用したことはあるが、不満はない」が4割台となり、共働き世帯よりも2割程度高い。共働き世帯は、未利用率が6割台に上る。

※ 子どもの成長で悩むことがよくある回答者は、不満に思ったことが「ある」が4割台と高い。また、「利用したことはあるが不満はない」と合わせると利用率は6割に上る。一方、悩むことが全くない回答者は件数は僅かであるものの、未利用率が9割近い。

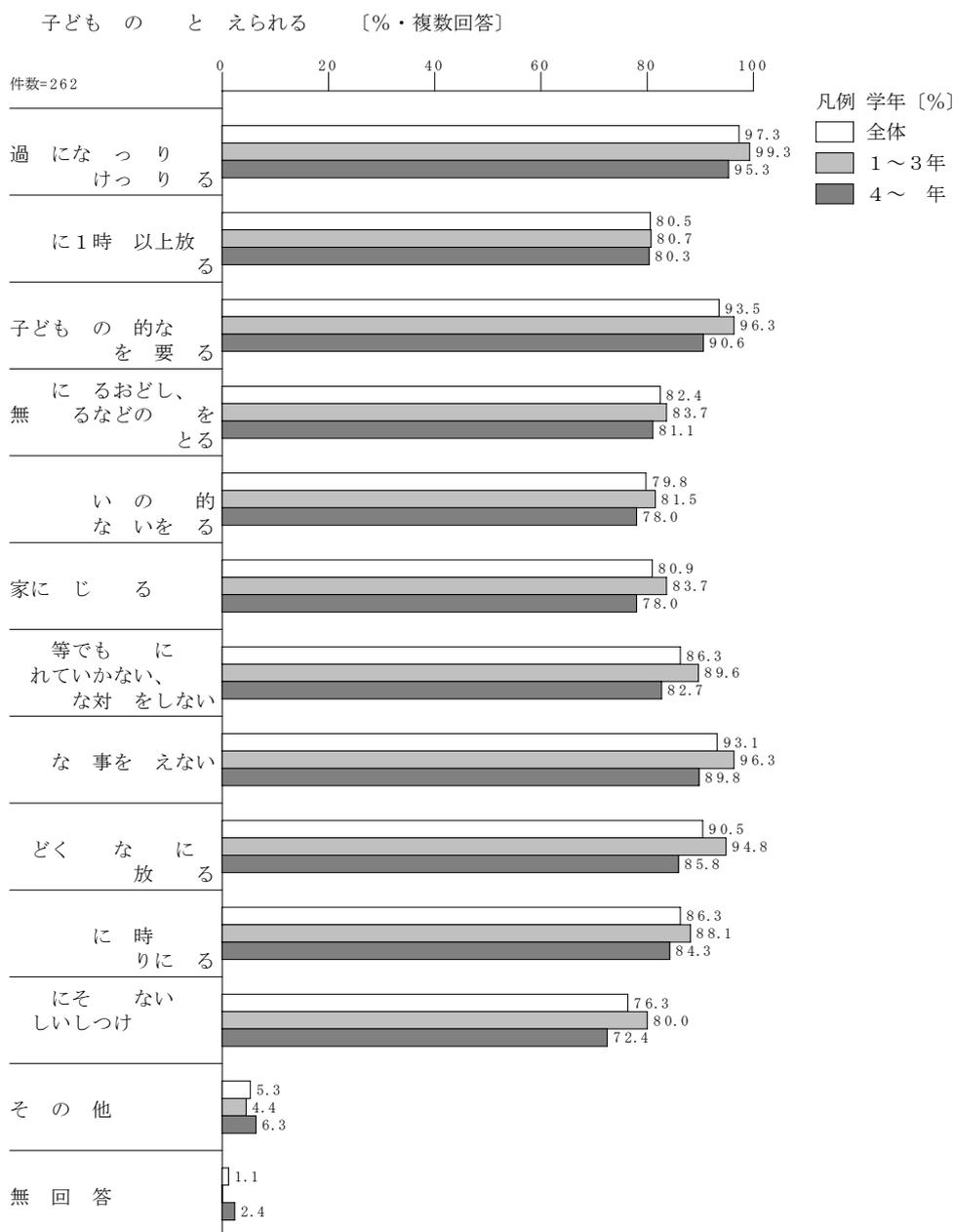
【〔不満がある回答者を対象〕どのような点に、不満を感じましたか】「対応が不親切」が全体では69%に上るが、特に1～3年は81%と多く、4～6年を3割程度上回る。4～6年は、「必要な情報がすぐに得られない」が39%と多くなっている。



## (5) 子どもへの虐待と考える行為

【「子どもへの虐待」と考える行為はどのようなものだと思いますか】就学前児童と同様に回答率が極めて高く、虐待に対する認識が高い様子が見られる。中でも、「過剰になくったりけったりする」が97%、「子どもへの性的な行為を強要する」が94%、「適切な食事を与えない」が93%、「ひどく不潔なままに放置する」が91%と高くなっている。一方で、「きょうだい間で差別的な扱いをする」、「発達にそぐわない厳しいしつけや行動制限」は8割を割っている。

なお、1～3年の方が4～6年よりも全体的に認識度が高くなっている。



※ 学年別にみると、6年は全体的に回答率が低く、中でも、「発達にそぐわない厳しいしつけや行動制限」は7割を割っている。

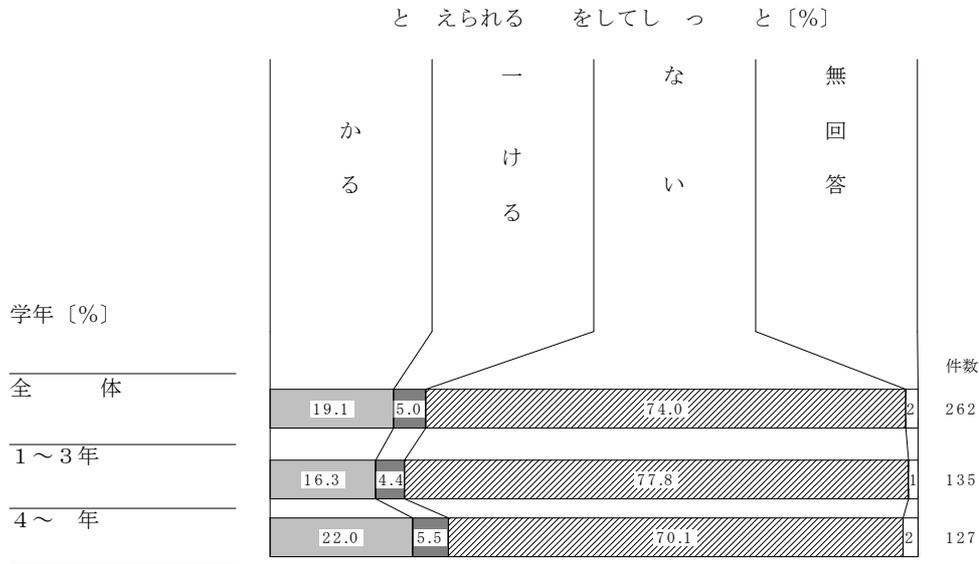
※ 世帯別にみると、親と子の世帯は、「きょうだい間の差別的な扱いをする」が8割台となり、同居世帯よりも1割程度高い。

※ 地区別にみると、田井地区は、全体的に割合が低く、中でも「言葉によるおどし、無視するなどの態度をとる」、「発達にそぐわない厳しいしつけや行動制限」は5割台にとどまっている。

※ 育児支援別にみると、就学前児童と同様に、預かってくれる人がいない回答者は、いる回答者よりも全体的に回答率が低い。

(6) 虐待と考えられる行為をしてしまったこと

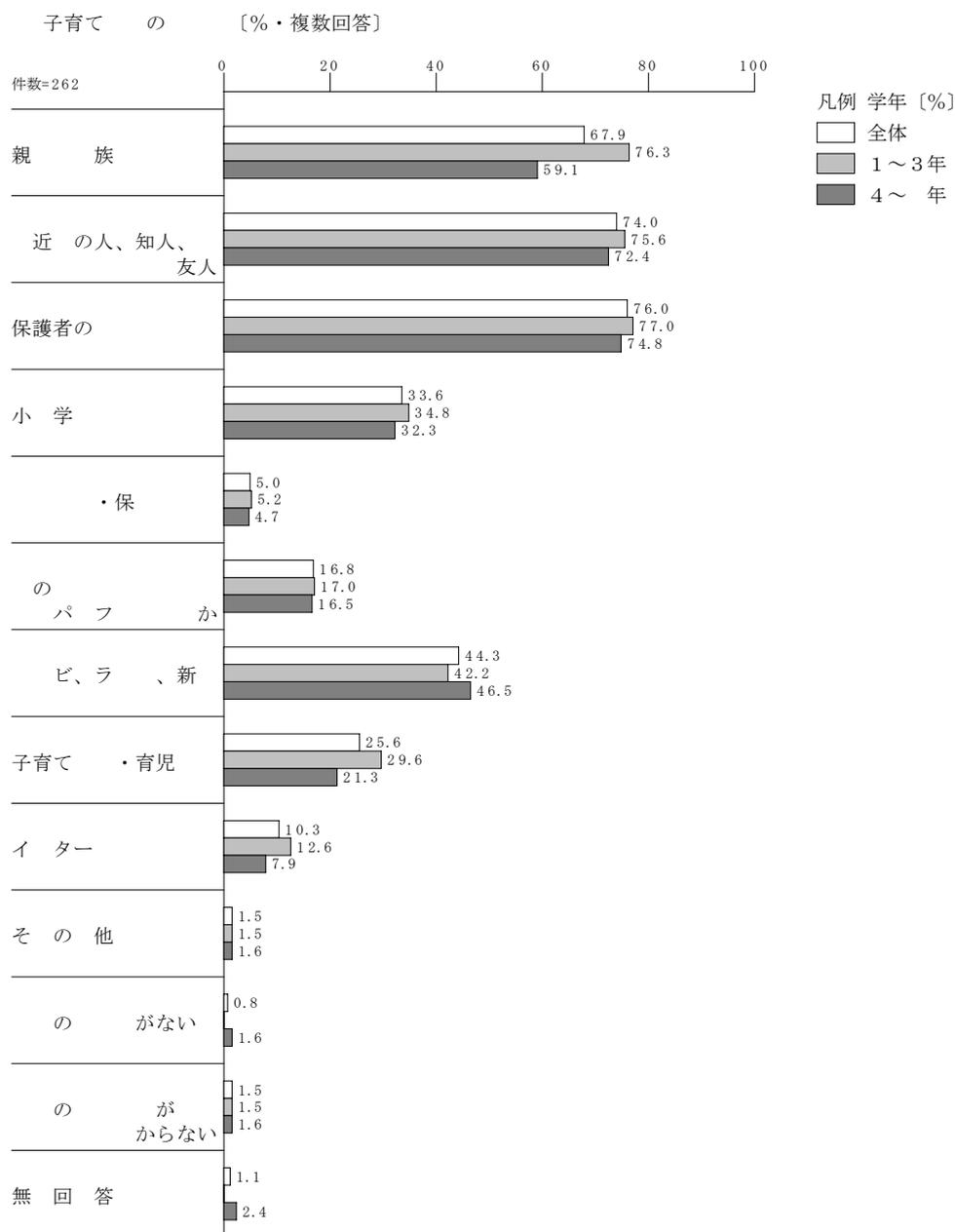
【あなたは(5)のような行為をしてしまったことがありますか】「ない」が最も多く、全体では74%を占めているが、「何度かある」も19%となっている。



※ 育児支援別にみると、預かってくれる人がいない回答者は、「何度かある」が5割を占めている。

## (7) 子育て情報の入手先

【子育てに関する情報を、どこから入手していますか】1～3年は、「保護者の仲間」が77%、「親族」及び「隣近所の人、知人、友人」が76%と特に多い他、「テレビ、ラジオ、新聞」が42%、「小学校」が35%と多い。4～6年は、「保護者の仲間」が75%、「隣近所の人、知人、友人」が72%と特に多い他、「親族」が59%、「テレビ、ラジオ、新聞」が47%、「小学校」が32%と多い。



※ 学年別にみると、1年は「親族」が8割台と最も高いが、学年が上がるほど割合が低下する傾向がある。

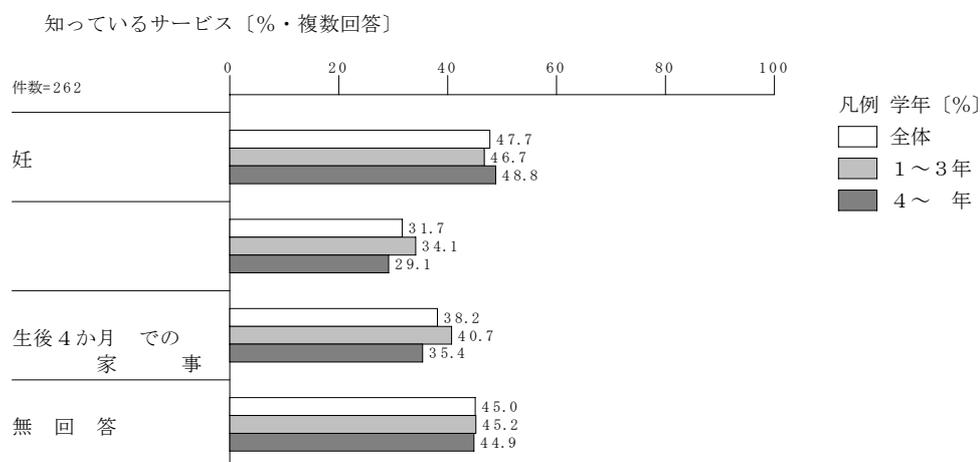
※ 世帯別にみると、親と子の世帯は、「テレビ、ラジオ、新聞」が5割近くとなり、親と子の世帯よりも1割強高くなっている。

※ 地区別にみると、新浜地区は「親族」が、浜ノ瀬地区は「保護者の仲間」の割合が特に低く、5割を割っている。一方、新浜地区は、「子育て雑誌・育児書」が4割台と全体よりも2割程度高い。

※ 育児支援別にみると、預かってくれる人がいる回答者は、いない回答者よりも回答率が全体的に高い。

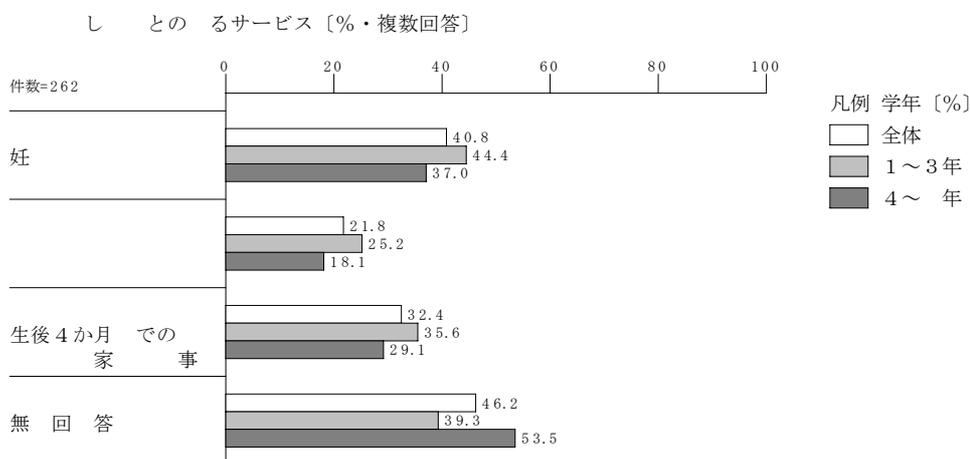
## (8) サービスの認知度、利用度、利用意向

【知っているサービス】「妊婦教室」が最も高く、全体では48%に上り、次いで、「生後4か月までの家庭訪問事業」が38%、「離乳食教室」が32%となり、全体的に就学前児童よりも認知度は低くなっている。



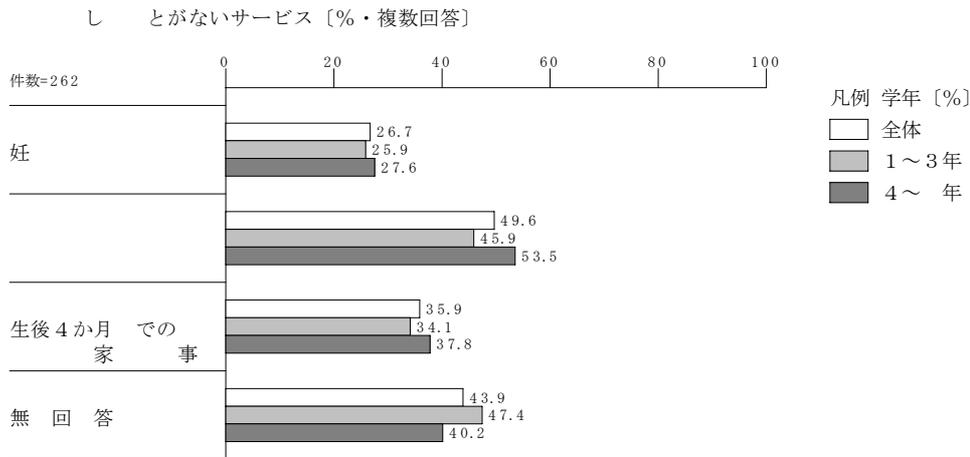
- ※ 学年別にみると、2年は認知度が高く、中でも「生後4か月までの家庭訪問事業」は5割台に上る。
- ※ 地区別にみると、新浜地区及び和田地区は、「妊婦教室」の認知度が5割台と高い。
- ※ 育児支援別にみると、預かってくれる人がいる回答者は、「生後4か月までの家庭訪問事業」は4割近いが、預かってくれる人がいない回答者は2割台にとどまっている。

【利用したことのあるサービス】「妊婦教室」が最も利用率が高く、全体では41%となり、次いで、「生後4か月までの家庭訪問事業」が32%、「離乳食教室」が22%となっている。



- ※ 学年別にみると、認知度の高い2年は利用率が高く、中でも「妊婦教室」及び「生後4か月までの家庭訪問事業」は5割台に上る。
- ※ 地区別にみると、認知度の高い新浜地区及び和田地区は、「妊婦教室」の利用率も高く、5割台となっている。
- ※ 育児支援別にみると、認知度の高い預かってくれる人がいる回答者は、「生後4か月までの家庭訪問事業」は、3割台であるが、認知度の低い預かってくれる人がいない回答者は1割を割っている。

【利用したことのないサービス】「離乳食教室」が最も高く、全体では 50% となり、次いで、「生後 4 か月までの家庭訪問事業」が 36%、「妊婦教室」が 27% となっている。

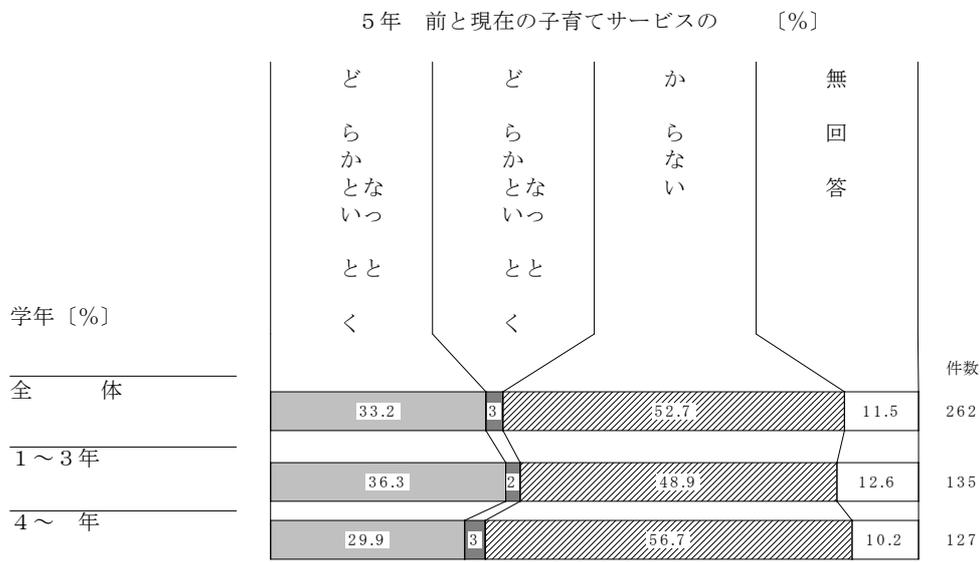


※ 学年別にみると、4 年は、「離乳食教室」の利用が少なく、6 割台に上る。

※ 地区別にみると、件数は少ないものの、和田地区は、「生後 4 か月までの離乳食教室」の利用が少なく、7 割台に上る。

### (9) 5 年位前と現在の子育てサービスの比較

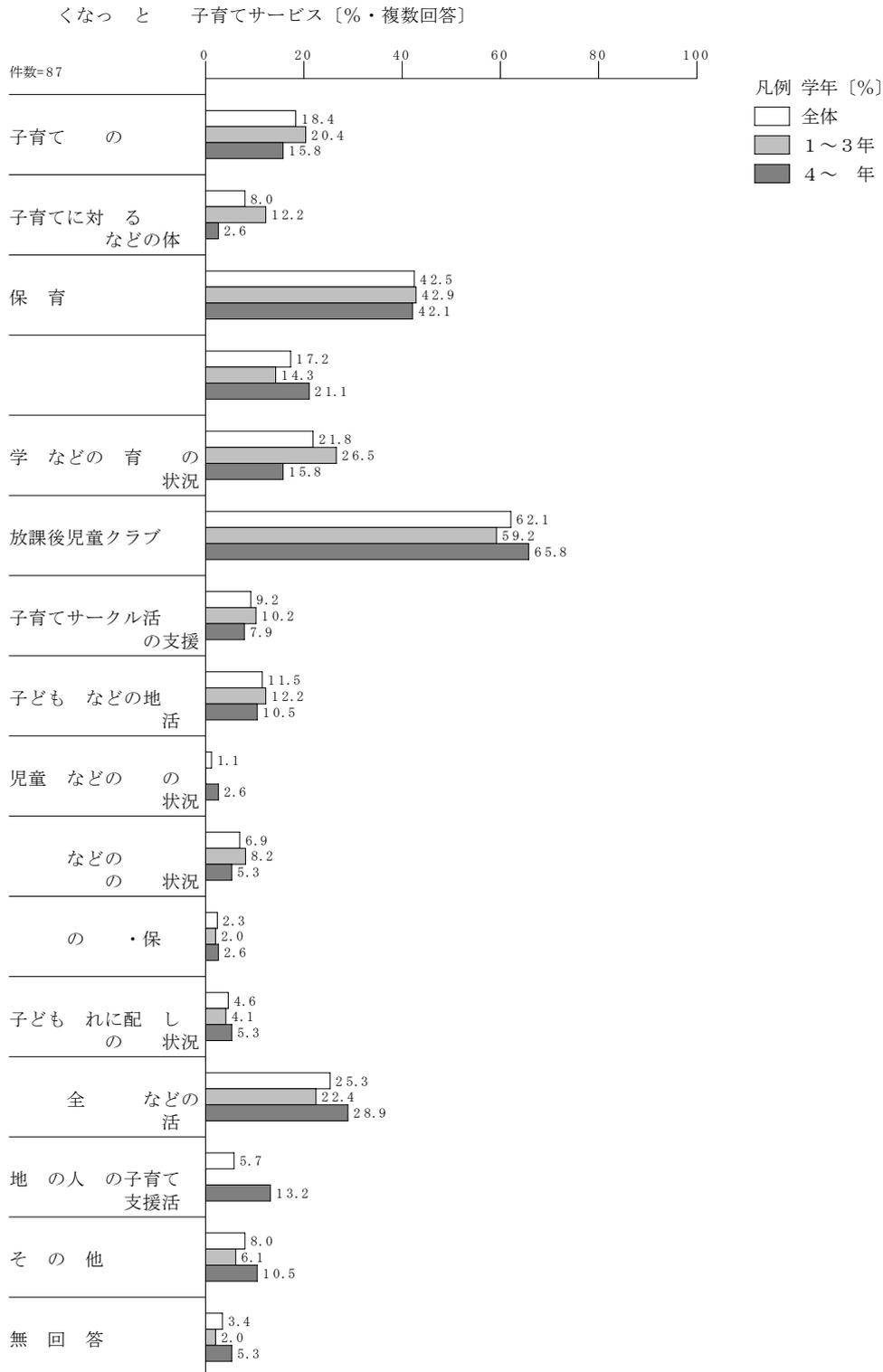
【以前(5 年前位)に比べて、(特に美浜町の)子育て支援サービスは良くなったと思いますか】「かわらない」が多く、全体では 53% を占めており、4~6 年の割合がやや高い。次いで、「どちらかというとなんか良くなったと思う」は、全体では 33% となり、「どちらかというとなんか悪くなったと思う」は 3% と僅かで、就学前児童と同様の傾向となっている。



※ 世帯別にみると、親と子の世帯は、「かわらない」が 5 割台となり、同居世帯よりも 1 割程度高い。

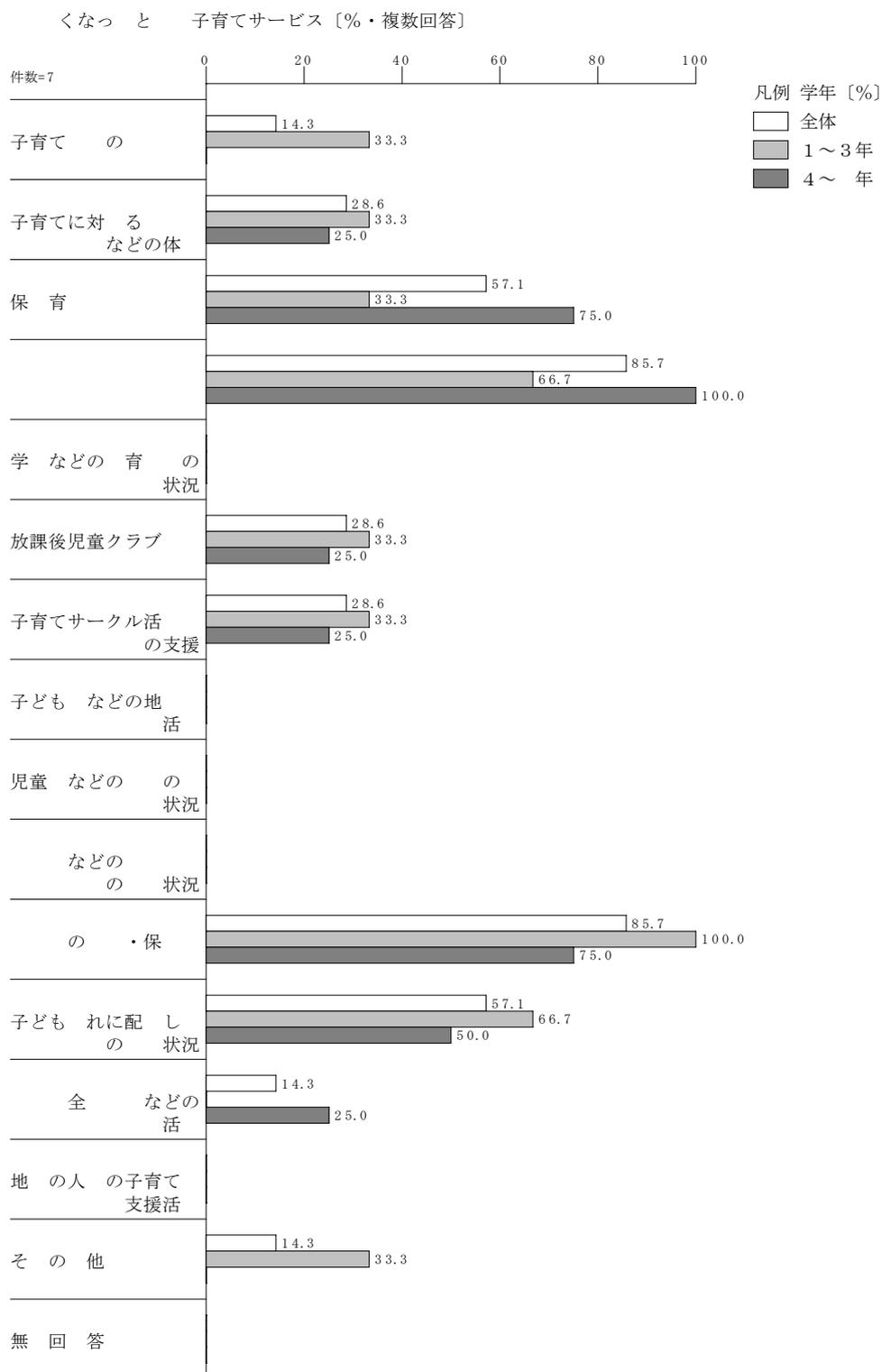
※ 育児支援別にみると、預かってくれる人がいる回答者は、「どちらかというとなんか良くなったと思う」が 3 割台であるが、預かってくれる人がいない回答者は 1 割を割っている。

【〔良くなったと思う回答者を対象〕 そのように思うのは、どのようなことからですか】「放課後児童クラブ」が最も多く、全体では62%に上り、次いで、「保育園」が43%、「交通安全や防災などの活動」が25%、「学校などの教育施設の整備状況」が22%となっている。



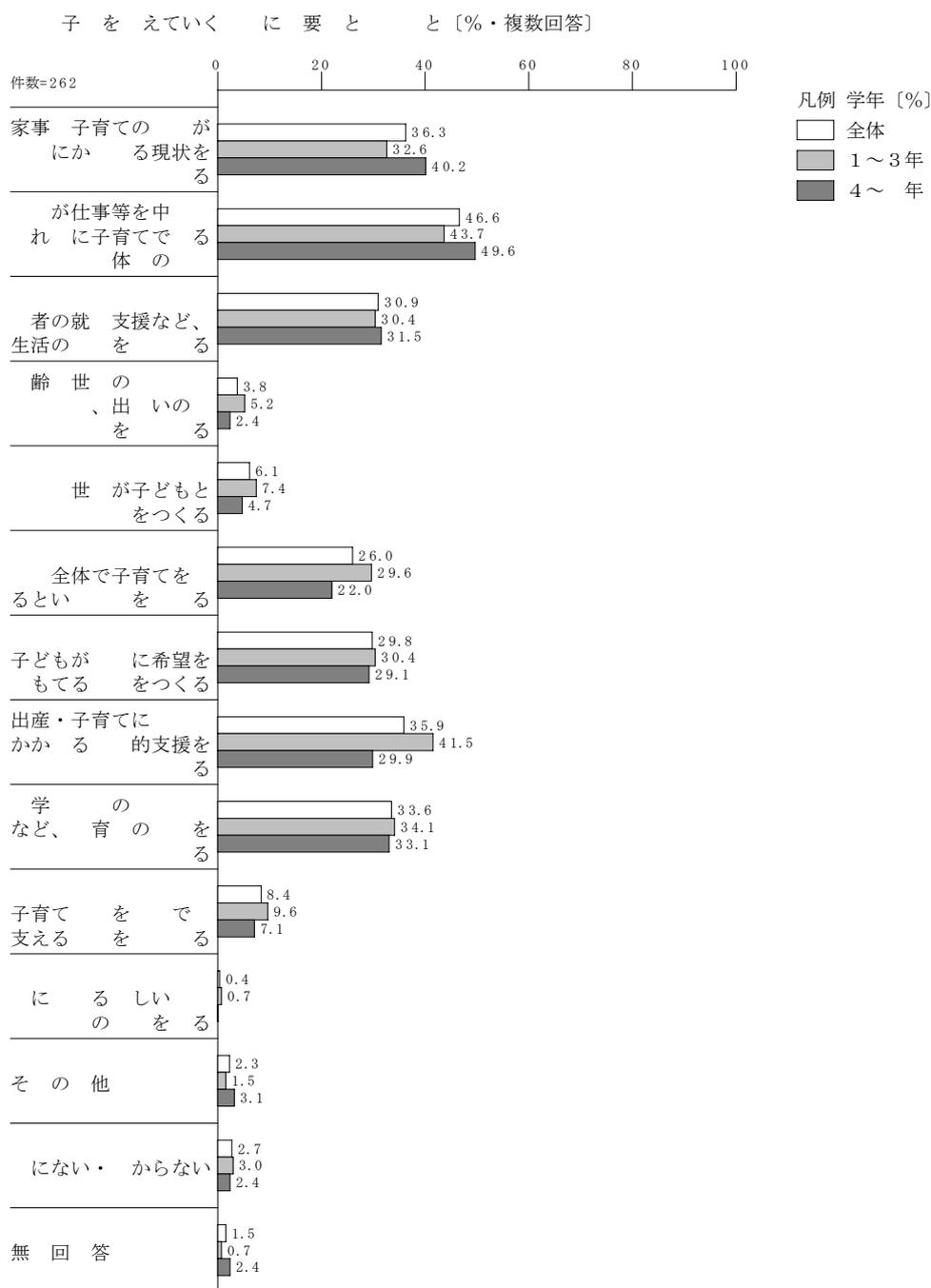
- ※ 世帯別にみると、同居世帯の方が親と子の世帯よりも全体的に回答率が高い傾向にある。
- ※ 地区別にみると、吉原地区は、「放課後児童クラブ」に回答が集中し、8割近い。
- ※ 育児支援別にみると、回答者のほとんどが預かってくれる人がいる回答者となっている。

【〔悪くなったと思う回答者を対象〕子育てに関する情報を、どこから入手していますか】回答件数は、就学前児童と同数の 7 件のみで、1～3 年は全員が、「遊び場の整備・保守」と回答している。4～6 年は全員が、「幼稚園」と回答している他、「保育園」、「遊び場の整備・保守」が 75%となっている。



## (10) 少子化を変えていくために重要だと思うこと

【少子化の流れを変えていくためには、今後どのようなことが重要だと思いますか】「男女が仕事等を中断されずに子育てできる体制の整備」が最も多く、全体では47%となり、次いで、「家事や子育ての負担が女性にかたよる現状を改善する」、「出産・子育てにかかわる経済的支援を充実する」が36%、「奨学金制度の充実など、教育費の負担を軽減する」が34%、「若者の就業支援など、生活の安定を促進する」が31%、「子どもが将来に希望をもてる社会をつくる」が30%となっている。なお、「出産・子育てにかかわる経済的支援を充実する」は、1～3年は42%に上り、4～6年よりも1割程度上回る。



※ 学年別にみると、1年は、「社会全体で子育てをする機運を高める」が3割台であるが、学年が上がるほど割合は低下している。また、3年は、「出産・子育てにかかわる経済的支援を充実する」が5割程度と、最も高い割合となっている。

※ 地区別にみると、吉原地区は、「社会全体で子育てをする機運を高める」が4割台に上る。

※ 育児支援別にみると、預かってくれる人がいる回答者は、「若者の就業支援など、生活の安定を促進する」、「出産・子育てにかかわる経済的支援を充実する」が3割台となり、預かってくれる人がいない回答者よりも1割程度高い。

※ 保護者の就労状況別にみると、片働き世帯は、「若者の就業支援など、生活の安定を促進する」が4割近くとなり、共働き世帯よりも1割程度高い。

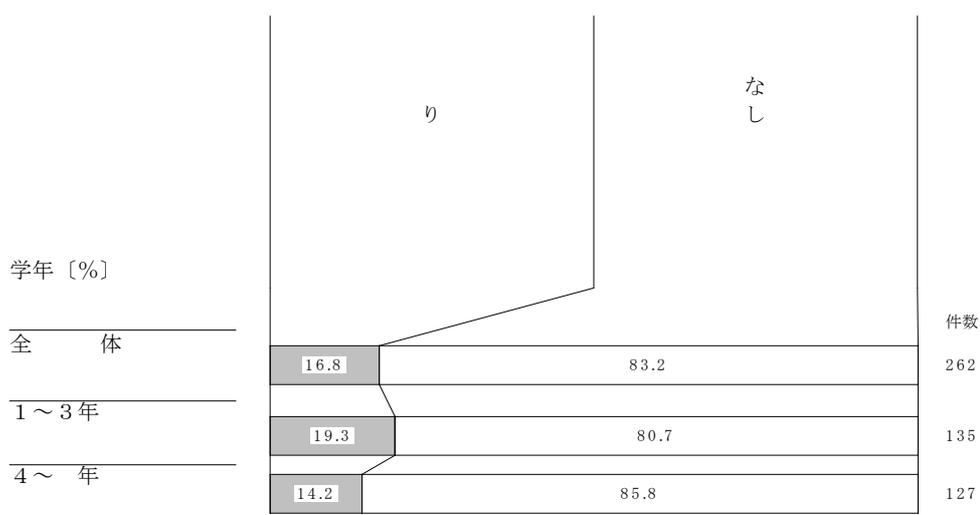
### (11) 自由意見

【町の子育て支援施策に対するご意見やご要望がありましたら、自由にご記入ください】自由意見は17%が記入しており、放課後児童クラブに関する意見が比較的多い。

〔児童館・放課後児童クラブや小中学校に関して〕放課後児童クラブに関する意見が集中し、中でも定員制限により、子どもを預かってもらえない現状に不安を感じている意見が多くみられる。

〔子育てと就業の両立支援に関して〕学校が休校日の時や親が病気の際に子どもを預かってもらえる場や、子どもが病気の際にも預かってもらえる場に関する要望が比較的多くみられる。また、仕事と子育ての両立の難しさに関する意見もみられる。

〔その他について〕不審者などに対する対策や安全に遊べる遊び場など、子どもの安全性に関する意見が比較的多くみられる。



#### 主な意見

〔児童館・放課後児童クラブや小中学校に関して〕

- 来年度定員オーバーとなり、上の学年の子が学童をやめなければならなくなった。予算の関係もあり、指導員が増やせないとの事であるが、役場の職員の方や教育委員の方から来ていただく等の方法がないのであろうか。最近不審者が出たりと子どもの安全を心配されている父兄が多いので、できるだけ事はしてほしいと思う。
- 不審者情報があったりして高学年でも家で一人にするのは不安である。5年になったら学童へ行きたくても今のままだと行けない。定員をどうか増やしてほしい。願います。
- 放課後子ども教室など、教育面の早期充実。少子化対策として教育費の負担増が問題である部分も見受けられるので、美浜町として他市町より遅れる事なく行政を実施すべきである。

〔子育てと就業の両立支援に関して〕

- 不審者だけでなく事故・災害等も不安に思いながら働いている。仕事が終わるまで安心して預けられる場所を作ってほしい。
- 子どもが体調をくずし、学校を休まなければならない時や学校が休校日に仕事を休まなければならないので、体調が悪い時には仕方ないとしても、振替休日などで平日休みになる時に預かってもらえる所があれば助かる。
- 親が病気で仕事を休む時、子どもを一時預かりしてくれる所がほしい。(あるかもしれないが、知らない)
- 急用や病児・病後児の一時預かりがあると助かる。
- 残業が多く、子どもと会話する時間がとれない事があり、寂しい思いをさせている。必然的に夕食も遅くなり、寝る時間が遅い。

〔その他について〕

- 放課後、学以に全にるとかがない吉原はっそとしていて人の目がいかないので配でる
- 者対ででるり、などでるがいと人クラブの人ラ  
の人と一に児童が一人とりれるになれば